



# 授業実践報告

令和4年度の実践記録（国語）

－実践記録（第3学年）－

## 1 題材名

「故郷」 －「私」のものの見方や考え方を批評的に捉え直せるか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) ICTの三つの特質

コラボノートを使って、追究課題に対する互いの意見の違いを視覚的に捉えることで、対立点を明確に意識できるようにした。

## (2) 対話の三つの方向性

ペアや小グループで意見を伝え合う場面では自分の思考を外化するための対話、クラス全体で議論する場面では自他の考えを広げ深める対話を目指した。

## 3 授業の実際

過程	学習活動	教師の手立て
問いの練り上げ	<p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）</p> <p>1 本時で追究する課題を確認する。 「前の時間にコラボノートを使って、本文の末尾に表れた『私』の考えに納得できる人は青、できない人はピンク、中立の人は黄色の付箋に理由を書いてもらいました。それを踏まえて今日はクラスで議論しましょう。」</p>	<p>○：見取った生徒の姿 ◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <p>コラボノートをモニターに映して、意見の違いや肯定派・否定派の人数を視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>本文末尾の拡大本文をホワイトボードに掲示しておく。</p>
	<p>2 議論の準備として、同じ立場の友達と意見交流を行う。 「議論の前に、準備として議論の材料集めをしましょう。納得できる派、できない派それぞれ同じ立場の人とペアを作って意見を交流し、自分の意見の根拠を強化しましょう。ペアは次々に交代して、なるべくたくさんの人と意見交換をしましょう。」</p> <p>■全ての生徒が考えを外言化できるよう、柔軟な形態の学び合いの場を設ける。</p> <p>■積極的に自分の考えを伝えたり、相手の</p>	<p>ババヘラカードを胸ポケットに入れて、同じ意見の仲間を見つけられるようにする。</p> <p>○立ち上がって教室内を移動しながら、相手を見つけて考えを伝え合っている。</p> <p>（コラボノートへの記載から）</p> <p>○「『私』は自分では何もしていない。次の世代に期待するだけでなく自分で行動してほしい。こうすればレントウとの関係がよくなるだろうという終わり方の方が納得できた。」</p> <p>○「『旦那様』と言われて否定しなかった『私』は、その時点でレントウを下に見ている。そ</p>

考えを理解して次の議論に生かそうという意欲をもって学び合いに参加している生徒が多い。

■自分の考えの根拠を本文中に見出して説明できている生徒を見つけておく。



追  
究  
と  
問  
い  
直  
し

3 学級全体で議論を行う。

「それでは、クラス全体で議論をしてみましょう。それぞれの立場から何人かの意見を聞いてみます。まず納得できる派の意見を発表してください。」

■「納得できる派」から全体の場に出てきてほしいと思っていた視点がいまひとつ出切らないので、とりあえず「納得できない派」の意見を聞いてみる。

「では納得できない派の意見をお願いします。」

して社会を変えるのは無理だと言っている。それなのに希望を語るのは納得できない。」

- 『『歩く人』の中に自分はいるのか。最後までレントウの変化だけにこだわり、自分の変化には気付いていない。『私』の考えはある程度の身分や教養があるから言えることだ。』
- 『『私』は自分のバカさや自分の希望に気付けたのだから評価できる。』
- 「新しい希望は、レントウとの関係にけじめをつけられたからもてたものだ。」
- 「少しの希望をもって帰ってきたが、昔のレントウはいなくなってしまうていたのだからそりゃ複雑な気持ちにもなるよな。」
- 「道を先に歩いた者（『私』）から後の人への願い。ホンルとシュイションが新しい生活を送るために二人は何をすればいいか考えさせられる終わり方だ。」

- 『『私』が思っていることを述べていて、ちゃんと解決しているから良い。』
- 「希望に向かって挑戦していくという前向きさが見えるのでよい。』
- 「今の自分が原点になって、これからにつながっていく。ホンルとシュイションの未来も何も決まっていはいない。これからにつながるまとめになっている。』
- 「レントウと離れたままになるからこそ、次の世代では良くなることを思わせるし、迷った結果、希望を見出した『私』の思考はいいと思う。」
- 「レントウとのことをあっさり諦めてしまった。『希望』という言葉で自分の心に嘘をついてしまっている。』
- 「レントウに自分から歩み寄る努力を何もし

「出てきた意見を踏まえて、周りの人とも話し合いながら考えてみましょう。」

「これまで出た意見に対する質問や反論などを発表してください。」

■一つ出てきた質問への応答から深めてきたかったが、その前に別の質問が出てきてしまい、論点がしぼれない。議論が深まらず散漫になってしまっているので補助発問を試み考える時間を取る。

「『私』は努力していないのか、それとも努力しているんだ、と『私』を擁護する意見などありますか？少し周りとお話し合ってみましょう。」

「出てきた意見を発表してください。」

「今の意見は納得できる派、できない派のどちらですか。」

ていないのに、他の人が努力すれば希望がかなうと言っているようで、自分の力でかなえようとしていない。」

○「『歩く人』の中に自分はいるのかという疑問を感じる。」

○「納得できる派が言うように『私は自己解決に向かっている』というなら、自分が何か具体的に行動できていなければいけないと考える。どのような点で自己解決できているというのか説明してほしい。」

○「努力していないという意見があったが、どこからそう言えるのか。」

○「自分から距離を詰める行動ができていない。『旦那様』と言われて否定していない。」

○「『むだの積み重ねで魂をすり減らす』とあるから、無力感を感じているからこそ、『歩く人』の中に自分はいないし、希望を自分で実現しようとはしていないのではないか。」

○「言いたいことは理解できるけど、もしかしたら納得できないのかなと思います。」

■ 「むだの積み重ね」という表現に着目していたので、「私」もこれまでに社会を変えようと努力してきたのだという「私」を擁護する意見かと思いきや、「私」は自分が努力していく気はないという意見だった。「私」の努力に着目させることから、再評価する視点を出させようという意図があったのだが、ややとんちんかんに感じられる発言が出てきて、うまく処理できない。



『むだの積み重ねで魂をすり減らす』ということに着目すれば、『私』は何も努力していないわけではないとも言えるかもしれませんね。」

■ 希望を抱き、それをいったんは否定し、第三の結論としてもう一度希望にたどり着くという「私」の思考過程に論点をしぼる方針が浮かぶ。そこで最初に出た納得できる派の「私」の思考過程を評価する意見に再度戻ってみる。



「最初に出た陽奈子さんの『私の解決は具体性が無い』という批判に対して反論はありませんか？」

- 「希望に気づいたばかりだから、まだ具体的にはならないのでは。解決に向かっていてというだけでまだ解決しているわけではない。」
- 「希望に気づいてうまくいくと盲信しているところ、根拠がないのに信じているところが納得できないところだ。」

「納得できる派の人、どうですか？」

- 「主人公は希望に気づいた。それでこれからいろいろやっていくことになる。今までは無駄の積み重ねをしてきて、故郷に戻って身分の差などを体験して、希望をもったということを受けて、これからつながっていく。」
- 『『彼らは新しい生活をもたなければならない』とあり、主語が自分でなく『彼ら』だから、自分が何かしようとしていないのでは。』

■ 生徒はがんばって意見を発表しているが論点が定まらず議論がかみ合わず深まら

<p>ない。別の発問を試す。</p> <p>「納得できない派の人たちは、どんな終わり方なら納得できますか？」</p> <p>■時間がなくなってきたので、いい考えをもっている生徒の意見を出させて締めくくりたいと考える。</p> <p>「二三人の意見を最後聞いてみたいと思います。」</p>	<p>○「こうすればレントウとの関係が良くなったという反省とかこうすれば良くなるだろうということがあれば納得できる。」</p> <p>○「今まで下に見ていたレントウと自分も何も変わらないということに気付いているし、自分の希望の意味を自分なりに出すことができているので納得できる。『私』の希望は自分ひとりで解決できるものではない。それに気付いたことが解決への第一歩だと思う。」</p> <p>○「納得できない派が納得できる結末は、ホンルとシュイションが身分の違いに隔てられずに暮らしている、みたいなことだと思うが、それだと『私』による希望の定義とずれてしまい、未来に含みをもたせているのであり、断定的なことは書かないほうがいい。」</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、考えたことや気付いたことをまとめる。</p> <p>■議論がかみ合わずまとまらないまま、時間になってしまう。</p> <p>振り 返り 「まとめをしましょう。コラボノートの新しいページに、『私』のものの見方や考え方をどう批評するかについて、話し合いを踏まえて書いてください。」</p> <p>「今日の感想をお願いします。」</p>	<p>◎エピローグにおける「私」の思考について、議論を踏まえて評価できる点や批判されるべき点に新たに気づき、その上で本文を根拠に批評できている。</p> <p>○「自分は納得できるが、本文を比較しながら納得できない派がそう思うのかなと、別の視点から考えることができたのでよかった。」</p> <p>○「納得できない派の意見があまり理解できなかった。もうちょっと深めることができればよかった。でも『私が努力していない』という意見は理解できた。」</p>

《生徒の振り返りから》

- ・最後の「私」が気づいた希望については、何度も迷って、そして「気づく」ことができたのが一番の収穫だと思うから、納得できるというよりはすごいと思った。「私」を批判もしたけど、私自身主人公と似ているところがあると思う。私も彼のように自分を客観的に見て、自分なりの結論をみつけて、さらにそれを実行してベストを尽くせるような人になりたいと思った。
- ・最初はただ単に主人公やレントウのことをかわいそうに感じたけれど、読んでいくうちに主人公の悪い部分も見えてくるような感じがして、おもしろかったです。
- ・この作品の終わり方の評価できる点は、主人公が知識人という設定を生かして、深い考えを展開している点だ。また、「希望」に対する記述は筆者の考えと合致していて、立体的になっている。一方で、これらはある程度の身分や余裕があるから考えられているということや、主人公が自分の変化には気づいていないことは納得できない。作者は主人公を知識人にすることで、深い考えの展開、多角的な視点をういた作品づくりをした。主人公のさまざまな経験からくる考えが、この作品に深みや含みをもたせ、ひとりよがりな非現実的なハッピーエンドになることを防いでいる。希望に対する最後の記述も同様である。

#### 4 批判的・実践的省察

コラボノートを使って「納得できる派」「納得できない派」で色分けをして視覚的に対立点を捉えられるようにしたことにより、互いの考えの違いを明確に意識することにつながり、話し合いへの意欲を高めることができた。また議論の準備として全員に自分の意見をもたせるための時間を確保し、同じ立場の仲間と考えの根拠を伝え合う活動を取り入れたことで、批評という難しい活動においても全員がなごしかの発言をし、自分の思考を外化することができていた。

授業後のまとめの時間の中で「なぜ作者はこのように書いたのか考えてみよう」と投げかけたところ、上に挙げたような振り返りが出てきた。作者の意図や設定の効果から作品の評価にまでつなげて多角的に批評することができている感想もあれば、主人公の目線に同化した共感的な読みから主人公を批判的に捉える読み方への転換が見て取れる感想もあり、生徒たちが各々の読解力・思考力や経験に応じ、それぞれのレベルで批評的な読みを深めていたことが伝わってきた。

研究授業の中では、クラス全体での議論をうまくコーディネートできず、生徒の良い視点を生かすことができなかつたことが反省点である。事前に書かれていた生徒の意見の中には、鋭い気付きや批評が多くあったが、実際の議論では出てほしいと考えていた意見がなかなか出ず、論点が絞りきれずに時間だけが過ぎていく焦りの中で、膠着状態を打開する問い直しの発問を出せないまま授業が終わってしまった。議論を活発にするために生徒どうしが対面する形を作りたいと考え、机を普段とは違うコの字型の配置にしたことで、研究授業である上に非日常感が高まってしまい、生徒が緊張したり力んだりしてしまったことが一つには考えられる。想定とは大きく違う発言が次々と出てきたことで授業者自身も落ち着いて対処することができなかつたことが悔やまれる。またもう一つには、自分自身の理想へのこだわり（教師が決めた道筋を実現するような議論ではなく生徒の主体性を大切にしたい自由闊達な議論を教室で実現したいという思い）が強すぎたことも議論にうまく手を入れられなかつた要因であると考えている。

改善の方策の一つとして、例えば初めのたたき台となる意見を教師の指名で何人かに出させ、それを基に議論を進めていく形をとれば、論点がある程度定まり、收拾のつかない事態は避けられるとも考えられる。気付かないうちに自分のこだわりに囚われてがんじがらめになっていない

か、常に自己点検する姿勢をもっていたい。

今回の実践を通して、議論のコーディネートの難しさと大切さを改めて感じた。日々の授業実践の中で自分に力を付けていくしかない。生徒が楽しく議論をしつつ、納得して学習を終えられるような学び合いを目指して試行錯誤していきたい。



## 国語科学習指導計画

学級 3年D組 36名  
 授業者 松淵 烈子  
 共同研究者 阿部 昇

### I 題材名と指導のポイント

「故郷」の評価読み ― 「私」のものの見方や考え方を批評的に捉え直すか―

### II 題材について

1・2年次に学習した「少年の日の思い出」や「アイヌプラネット」などの作品を通して、生徒たちは一人称語りの小説の特徴について理解を深めてきた。そこで描かれているものがあくまで語り手の見た世界であることに着目し、語り手を批評的に捉え直して深い読み取りにつなげ、作品のおもしろさをより多角的に味わう深い学びを経験してきた。

「故郷」の主人公「私」については、先行研究において「自己認識が決定的に欠けている」といった批判が一部でなされてきた。また、「私」が感じているルントウとの隔絶は、当のルントウや「母」以上に「私」自身が誰よりも強く感じているもののようにあり、ルントウやヤンおばさんとのコミュニケーションを拒絶しているのは「私」の方であるようにも読み取れる。近代的な思想を身に付けて帰郷した「私」は故郷の過酷な現実に触れ、記憶の中の少年ルントウに象徴される「美しい故郷」を喪失する。作品の末尾で絶望と希望との間で揺れる「私」の内省は、一部の指摘にあるように「矛盾にみちた『近代の知識人』」の姿として批判されるべきものといった面をもちつつ、一方では社会に対する「私」の真摯な姿勢や、自己を不断に相対化する知性を読み取ることもできるという意味で、この作品を批評的に読むのには最も適していると考えられる。

生徒たちには、「私」の思考を批評的に読み、文章に表れたものの見方や考え方について考える活動を通じて、困難な状況下でも知性をもって考えることでよりよく生きていこうとすると主人公の姿を感じ取ってほしい。それがこの作品の教材としての普遍的な価値の一つであり、生徒それぞれの人生に生かしていくことのできる学びとなり得ると考えている。

### III 生徒観と指導観について

これまでの学習を通して、生徒たちは、一人称語りの小説において描かれた世界が客観的なものとはなり得ないことを知識として理解できている。しかし、促されなければ語り手の目線に同化した共感的な読みに終始してしまいう生徒も多く、自力で批評的に読むことができず力が身に付いていないと感じている。

また、それぞれの生徒がよい読みの視点をもつていても、意見の対立を恐れて自分の考えを発信できない生徒や、意見の違いを焦点化できなまま話合いに参加できずに終わる生徒が見られ、集団での深い省察に至らずに授業が終わってしまいうことも多い。

この教材を通して、批評的に読む力のいっそうの育成を図りたい。そのためには、小説を読み解くためのあらゆる観点をを用いて多面的・多角的に解釈することが前提として求められる。具体的には、作品の構造を精査すること、叙述を根拠に人物の心情を読み取ること、場面の意味やつながりについて作者の意図を考えながら読み取ること、情景描写の効果を考えることなどである。これまでの小説学習のままとめと位置付けてこれらの読みの観点を網羅しつつ、個々の意見の違いを焦点化して対立を生み出すことで、全員参加の学び合いを創り出し、クラス集団だからこそその評価読みを実現したい。

### IV 研究の具体的な実践事項

コラポノートを活用して個々の意見を可視化することで、生徒が互いの意見の違いを認識しやすいう形で提示する。その上で、可視化された個々の思考の違いを焦点化していくために、生徒が互いの意見を比較したり関連付けたりする過程を重視する。全ての生徒が自分の思考を外言化し、他者と対話する機会をもてるように、適切な難易度の発問を工夫するとともに、多様な学び合いの形態を柔軟にコーディネートすることを心掛ける。これらの批判的・実践的リフレクシオンによって全員参加の話合いの実現を目指したい。

### V 目標

- (1) 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義について理解し、自己の生活に生かすことができる。
- (2) 文章を批評的に読みながら、作品に表れているものの見方や考え方について考え、作品の価値について多面的・多角的に捉え直すことができる。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。

### VI 全体計画（総時数10時間）

時数	ねらい・学習活動等	評価の観点		評価方法と指導の留意点等
		知	態	
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を通読して、初発の感想を交換する。</li> <li>時間の流れに着目して場面に分ける。</li> <li>人物関係図をつくり、登場人物の関係性を捉える。</li> <li>クライマックスがどこかを考えて作品全体の構造を把握する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習の小説や読み終えたところの感想を受け止めて、おもしろいところや感動を受けた理由を伝える。(コラポノート)</li> <li>回想場面に注意しながら適切に場面分けする。見取り、全体（シート）</li> <li>人物の関係を適切に捉えることを通して作品全体の構成について理解を深め、紹介したところや見取り、称賛（江味シート、シート）</li> <li>主要な事件を捉えた上でクライマックスを捉え、全体構造を把握できている（シート、話合いでの発言）</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルントウとヤンおばさんの人物像とどんな意味をもっているかを読み取る。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>「私」がルントウとヤンおばさんの存在を捉えているか、味はかき取り、称賛した（江味シート、シート、話合いでの発言）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルントウとヤンおばさんに対する「私」の認識や思いを批評的に読み取る。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>ルントウとヤンおばさんに対する「私」の言動の叙述や見取り、称賛したところや見取り、称賛した（江味シート、シート、話合いでの発言）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ルントウとヤンおばさんに対する「私」の希望と直した「私」の偶像」考える。</li> <li>「第三の結論」がどのようなものかを読み取る。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>エピソードの「私」のものの見方や考え方について、批評的に読むことができたり、称賛したり、全体に紹介した（江味シート、シート、話合いでの発言）</li> <li>叙述を踏まえて的確に読み取れているか（シート、話合いでの発言）</li> </ul>
本時9/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>「希望→第三の結論」を経て至った。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>「私」「私」の思考を批評的に読むことを通して「私」の深い見取り、称賛したり、全体に紹介した（シート、話合いでの発言、チームズ）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品の価値を評価する文章を書く。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>読解ができていないところや見取り、称賛したところや見取り、称賛した（江味シート、シート、話合いでの発言）</li> </ul>

Ⅶ 本時の計画

- 1 ねらい  
エピソードにおける「私」の思考を批評的に読みながら、「私」のものの見方や考え方について考え、自分の言葉でまとめることができる。
- 2 展開

過程	学習活動・主な発問等	想定される生徒の学習状況
問 い の 練 り 上 げ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時の内容を振り返る。 ・若い世代に希望を託し、その直後にそれを否定する「私」の思考についてどんな考えをもったか。</li> <li>2 第三の結論に至った「私」のものの見方や考え方について、自分の考えをもつ。 <b>「希望→希望の否定」を経て第三の結論に至った「私」のものの見方や考え方をどう考えるか。</b></li> <li>3 同じ色の付箋に書き込んだ生徒どうしでグループを作り、そう考える理由を話し合っって共有する。</li> <li>4 学級全体でミエルトークを行う。 ・なぜ「私」が至った第三の結論に納得できる、または納得できないのか。</li> <li>5 第三の結論に至った「私」のものの見方や考え方についてまとめる。 ・話し合いを終えて、「私」のものの見方や考え方をどう批評するか。</li> </ol>	<p>想定される生徒の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習内容を想起して、「私」の思考についての自分の考えを確認している。</li> <li>・最後に『私』が到達したのはどんな境地なのだろう」</li> <li>・「一度は希望を否定した『私』が、もう一度『地上の道』の可能性を考えたいのはどうしてだろうか」</li> <li>・同じ意見をもつ友達と、そのように考えた理由を話し合い、共有している。</li> <li>・同じ意見であっても、自分の考えとは違った根拠に触れている。</li> <li>・他のグループの意見を聴き、疑問を感じたり、納得したりしなから、自分の考えを少しずつ更新している。</li> <li>・「このグループが納得できると考えた根拠は何だろう」</li> <li>・「その根拠は妥当なものだろうか」</li> <li>・ミエルトークにより得た新しい視点や思考の深まりを整理しながら自分の考えをまとめていく。</li> <li>・「私』がたどり着いた第三の結論について、肯定的に読むことも否定的に読むこともできるのだと思った」</li> <li>・「『私』のものの見方について、新しい考えをもつことができた」</li> </ul>
問 い 直 し		
追 究 と 問 い 直 し		
振 り 返 り		
振 り 返 り		

□ = ICTの活用目的  
〇 = 対話の活用目的

指導の目的と手立て	見取りたい生徒の姿
<p>前時の全員のまとめを共有して違いに着目できるように、コラボノートで互いの意見を見合うように指示する。</p> <p>意見の違いを可視化できるようにコラボノートを活用し、「私」の考え方に納得できない場合は青、納得できない場合は赤い付箋に意見を書き込むように指示する。</p> <p>全員が自分の思考を外化できるように、適切な人数のグループと異なるよう調整する。</p> <p>個々の思考を可視化できるように、ミエルトークにメンバー全員の意見を書き出すように指示する。</p> <p>集団での深い学びが実現されるように、考えの深い焦点化につなげる意図的な指名を食めた柔軟なコーディネート心掛ける。</p> <p>互いの思考を視覚的にも捉えることができるように、構造的な板書を工夫する。</p> <p>個々の生徒の思考を可視化して共有できるように、コラボノートに書き込むように指示する。</p>	<p>見取りたい生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「私」の思考について、多角的な評価の視点をもつことができている。</li> <li>・何もせず次の世代に託していると考えと、「私」は無責任とも言える。</li> <li>・希望を「手製の偶像」としたのは、厳しい現実を認識しているからであり、「私」は自分自身を相対化できていると思う。</li> <li>○ 「私」が到達した第三の結論についての自分の評価を、根拠を示して書いている。</li> <li>・現実の厳しさを考えれば、希望を否定して終わってしまうそうだが、諦めないところに「私」の真面目さを感じる。</li> <li>・一度は自分の希望を批判した「私」が、結局は他力本願に行き着いたのは、現実逃避ではないのか。</li> <li>○ 自分とは異なった視点に触れて、なぜ納得でき、または納得できないのかについて、同じ立場の友達と考えを深めている。</li> <li>○ 論拠を明確にし、自分の考えを強化していく過程を経験している。</li> <li>○ 「私」のものの見方や考え方に対するさまざまな評価があり得ることを理解し、多角的に思考している。</li> <li>・結論を先送りしていると考えていたが、何事も決めつけず、自問自答して批判を繰り返す思考は客観的で肯定的に評価することもできるのだな</li> <li>・結局のところ、「私」はルントウやヤンおぼさんに対して実際の行動を起こそうとはせず、抽象的な結論でお茶を濁している終わり方とも言えそうだ</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">エピソードにおける「私」の思考を批評的に読み、「私」のものの見方や考え方について自分の言葉でまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章に表れたものの見方や考え方について考えることを通して、作品の価値を評価することにつなげている。</li> <li>○ 批評的に読むための観点を身に付けている。</li> </ul>

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な着察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

—本実践から見えてくること—

**小説を批評的に読むことによって  
多様で豊かな解釈が生み出されていた  
—「故郷」(魯迅)の授業の先進例**

研究協力者：阿部 昇

(秋田大学名誉教授・東京未来大学特任教授)

**小説を批評的に読む授業が今求められている**

これまでの小説の授業には、批評的な観点が見落していた。「名作を子どもが批評するなどおこがましい」「それは大学に行ってからでよい」などの思い込みから作品を批評的に読むことを授業で忌避してきた。

しかし、どんな「名作」であっても、読み手には主体的に評価する権利がある。そこには作品の良さをメタ的に評価するという要素と、作品の弱点や限界を批判するという要素が含まれる。批評的に読むことをしない読みは何と言おうと受動的な読みであり、主体的な読みとは言えない。子どもが作品に違和感を感じることを大切にする必要がある。また、批評的に読まなければその作品の本当の良さも見えてこない。

2017年学習指導要領の国語に「文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。」という内容が位置付けられた。画期的と言える。しかし、実際にこれを十分に生かした授業は、まだまだ少ない。

松淵先生の今回の「故郷」の授業は、その批評的な読みを前面に打ち出したものであり、先進的なものと言える。作品のエピローグの「私」の考えに納得できるか納得できないかという明確な軸を立てながら、子どもたちは多面的に論議を展開していった。

納得できるという子どもからは「絶望で終わってない」「いろいろ考えて結論を出している」「現実に挑戦する姿勢が見える」「希望への第一歩が感じられる」「伏線が最後に回収されている」などの意見が出た。納得できないという子どもからは「自分では何もしていない」「『私』はル

ントウと自分の関係をよくしようと努力していない」「最後まで迷っていてはっきりしない」「曖昧な終わり方だ」などの意見が出た。これらを巡ってスリリングな論議が進んでいった。

**作品を深く多面的に読むことを大事にしつつ  
批評を展開している**

「批評」と言っても、作品を深く読まないままに、表層の印象で納得できる納得できないという論議をさせている授業もある。それでは子どもたちに批評をする力をつけることはできない。松淵先生の授業では、構造上のクライマックスに着目している。また、ルントウと「私」、ヤンおばさんと「私」、ホンルとシュイションなどの関係性や事件展開を丁寧に読んでいく。それらを重視しながら、その延長線上に本時の批評を位置付けている。だから、子どもたちの意見にそれぞれ重さがあり多様性がある。

エピローグの「私」の「希望」についての試行錯誤も丁寧に読んでいく。ただの希望でもない。絶望でもない。いずれをも否定した上で「歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」という第三の結論を導き出している。そこを丁寧に読んでいくから、学習課題を『希望→希望の否定』を経て第三の結論に至った『私』のものの見方や考え方をどう考えるか」とすることができた。優れた学習課題である。

**子どもたちの発言の整理と焦点化**

あえて改善点を言えば、子どもたちの発言を整理し焦点化する場面がもう少しあってもよかったかもしれない。子どもたちの発言を大事にしている点は高く評価できるが、「ここで子どもたちの発言を整理し焦点化すると論議が深まる」と感じられる箇所があった。

たとえば『挑戦する姿勢が見える』のは本文のどこから？』『自分では何もしていない』は本文のどこからわかる？「意見が変わることを『コロコロ変わる』と言う人と『深く考えている』と言う人というけど、それぞれどう思う？」などの整理・焦点化である。

## 令和4年度の実践記録（社会）

## －実践記録（第2学年）－

## 1 単元名

「世界と比べた日本の地域的特色」

－深める「問い直し」により、社会的事象をより自分事として捉えることができるか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) ICTの三つの特質


本授業の前半では、Cラーニングのクイックアンケート機能で自他の意見の差異を瞬時に共有化した。また終末では、コラボノートのリアルタイム共有機能を活用することで、自他の思考の差異を可視化するとともに、全ての生徒が自分の考えをアウトプットできるようにした。

## (2) 対話の三つの方向性

自分とは異なる意見を「聴き合う」体験を通じて視野を広げ、全ての生徒が授業のねらいを達成して満足感を得られるように、「少人数グループの話し合い→全体での情報共有→個人の考えをまとめる」展開にした。また、個々の意見を互いに共有化できるようにして、集団での深い学びを目指した。

## 3 授業の実際

過程	学習活動	教師の手立て
問 い の 絞 り 込 み	<p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）</p> <p>1 これまで学習した日本の地域的特色を捉えるための「4つの視点」を再確認する。（全体）</p> <p>『4つの視点』とは何だったかな？」</p> <p>「一つでも答えられる人はいるかな？」</p> <p>■生徒の反応は予想通り。挙手しやすい発問から授業に入ることで、多くの生徒が挙手した。発表が苦手な生徒も含めて、意図的に指名した。</p> <p>「今日は、これまで学んだことを異なる観点から捉え直すことで、より深く学び、本質を捉えることを目指します。」</p> <p>2 日本の地域的特色を「持続可能性」という観点から捉え直し、本時の学習課題を確認する。</p> <p>「世界の中で、今の日本人の暮らしが幸せ</p>	<p style="text-align: center;"><b>教師の手立て</b></p> <p>○：見取った生徒の姿</p> <p>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これまでの学習内容を生徒が思い出しやすくなるように、前時までの授業で使った学習プレート（<u>自然環境</u> <u>人口</u> <u>資源・エネルギーと産業</u> <u>交通・通信</u>）を用いる。</p> </div> <p>○プレートの一部を見て「あれか！」と思い出したような反応を示す生徒が複数見られた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生徒が学習課題を「自分事」として捉えられるよう、補助発問を行う。</p> </div> <p>○ほぼ全員が挙手した。</p>

<p>なほうだと思える人は？」  「では、今の幸せな暮らしが、今後も維持できると思える人は？」  「維持できないと思える人は？」  「なぜ、そう思いましたか？」</p> <p>■生徒が学習課題を自分事として受け入れる雰囲気醸成されるタイミングを図りつつ、学習課題を提示する。  課題『持続可能な日本社会をつくるため、最優先で取り組むべきことは何だろうか？』</p> <p>「課題を考える際の条件を3つ示します。」  ①自分たちが社会に出て活躍する時代まで  ②日本国および日本国民の範囲  ③現在と同程度の生活水準以上ならOK</p>	<p>○挙手は無し。表情がやや引き締まる。  ○ほぼ全員が「維持できない」方に挙手した。  ○4枚のプレートをちらちら見る生徒も。前時までの学習内容を思い出し、関連性を思考している様子も窺えた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>課題について考える際の同一条件を3つ示し、生徒の思考を学習のねらいに焦点化する。</p> </div> <p>○「うんうん」と頷きながら条件を見る生徒が複数見られた。「これならできそう」という様子も窺えた。</p>
<p>3 現時点で最優先と考える視点を1つ選択し、同じ視点を選んだ人どうしでグループをつくる。  「同じ視点を選んだ人どうしでグループを作って考えをまとめます。」  「途中で移動するのも自由です。」</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; position: absolute; left: -40px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">個人や協働による追究</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>C-ラーニングのクイックアンケート機能で現時点の意見を入力させ、学級全体の傾向を瞬時に共有する。</p> </div> <p>○投票結果が瞬時にグラフ化され、変化していく画面に視線が集中し、笑顔や興奮などの反応が伝わってきた。自分の意見が学級でどのような位置付けか比較する様子が窺えた。</p> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>

- 4 既習事項を活用しながら、4つの視点と将来の日本社会との関連性を考察し、班の考えをまとめる。(個→班)



- 5 各班の結論を聴き合いながら、根拠に基づいて考察する。(全体)

■各グループの中で、始めにミセルさんやアシスタントさん役の生徒が説明し、さらに発言したい表情の生徒に補足説明を依頼する。

○予想通り、4つの視点のうち「交通・通信」を選択する生徒はいなかった。しかし、活動の途中で数名が移動してきて、ミエルトークを始めた。

○教室の中央で、どのグループに入るか迷っている生徒が数名見られた。理由を聞くと、「どの分野も大事なので、一つに絞れない」

各グループ毎に資料を準備して活用を促すとともに、終末に全ての資料を配付することを予告する。

○資料を活用している生徒もいたが、ノートや既習知識でトークしている生徒もいた。

根拠に基づいて発表できるように、基本的な話型(結論+根拠)を提示する。

○自分の思いを優先して話す生徒もいたが、話型を意識して話す生徒も見られた。

○他グループの発言に耳を傾け、頷いたりメモを取ったりしながら、自分の考えを深めようとする姿が見られた。



◎仲間の意見を参考にしつつ、最終的な自分の考えを、根拠を示しながら論理的に表現できている。

- 6 自分の思考を再構成し、本時の学習課題に対するまとめを自分の言葉で記入し、共有する。(個→全体)  
「今日の授業で『気付いたこと』は、何だろう？」

生徒が他者の感想や意見をリアルタイムで共有しながら入力できるように、コラボノートの共有表示機能を使って入力する。

思考の再構成



○生徒個人の思考能力やキーボード入力速度の違いによって、表示される入力結果に時間差があった。

○早めに入力し終えた生徒の多くは、満足げな表情で余韻を味わいつつ、他者がまとめた意見を読んで参考にしてしている様子が窺えた。



《生徒の振り返りから》

- ・どの視点も大事だな…と思ったので、選ぶのが難しかったし、迷った。
- ・他の視点を選んだグループの発表を聞いて、それぞれ「その通りだな」と感じる部分があった。
- ・全部（の視点）が大事で、どれ一つでも欠けると日本が成り立たないし、持続可能ではないことが分かった。
- ・一つを選ばなければならなかったが、組み合わせて考えることで、全体像が少し見えてきたような気がしました。

#### 4 授業の省察

- カードを使って学習過程を可視化していたので、生徒は現在の学習進度や立ち位置を自覚することができ、安心感をもって授業に参加できていた。
- グループ内のミエルトークでは、これまでの授業の蓄積が活かされていた。またアナログならではの良さ（即時性や修正しやすさ等）も感じられた。
- 互いの考えを聴き合う場としての「協働的な学び」を経て、「個別最適な学び」を実現できた。
- C-ラーニングやコラボノート、書画カメラなど、ICTを場面に応じて積極的に活用しながら主体的に学ぶ姿が見られた。
- 資料から生徒の問いを引き出し、事実や既習事項を根拠に問題解決に向かう授業を更に追究していく必要がある。
- 展開部におけるICT活用を研究することで、「導入-展開-終末」と一貫して効果的な活用法が確立できるのではないか。

## 社会科学習指導計画

学級 2年D組 31名  
 授業者 幸野谷憲司 智徳  
 共同研究者 外池 加納 隆徳

### I 単元名と指導のポイント

「世界と比べた日本の地域的特色」

一 深める「問い直し」により、社会的現象をより自分事として捉えることができるかー

### II 単元について

本単元は、学習指導要領の地理的分野C「日本の様々な地域」の(2)日本の地域的特色と地域区分に該当する。ここでは、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信、の4つの小項目で構成されている。これら4つの視点から、世界と比べた日本の地域的特色について多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。しかし、これまででの授業では、教科書に従って個別・並列的に特徴を押さえることが主になりがちで、単元全体を通して我が国の国土の地域的特色の全体像を踏まえて、持続可能性という新たな視点から考え、そこで本授業では、①～④の小項目の学習を踏まえて、持続可能性という新たな視点から考え直すことで、我が国の特色をより自分事として捉えることに取り組む。こうすることで、3年時に学習する公民的分野「これからの地球社会と日本」につながることも可能になる。また中学校3年間で我が国の国土に対する認識を深めるとともに、将来的には、持続可能な社会づくりを考えることができる人材を育成する上でも大切な単元である。

### III 生徒観と指導観について

本学級の生徒は、社会科学の学習におおむね意欲的に取り組んでいる。昨年度に実施した生徒への意識調査では、90.6%の生徒が社会科学の授業に対する興味・関心があると回答している。また、授業中の発表も積極的に行うことができる。諸調査の結果からは、基礎的・基本的な知識・技能の定着率も高いことが分かる。一方で、①社会的現象の捉え方が一面的な生徒が多く、②複数の「事実」から見えにくい「概念」を考察することに難しさを感じている生徒もいる。また、昨年度の後期から、③授業中の発表者が固定化する傾向も見られる。

そこで本単元では、4つの小項目で学んだ基本的な知識を用いて、「世界と比べた日本の地域的特色」の全体像を表現する学習に取り組む。複数の事実から全体像を捉える学習を不得手としている生徒でも取り組みやすいように、始めは少人数グループでの活動を中心に行い、最終的に個人のまとめを行うように段階的に学習する。さらに、個人の意見を発表する手段としてICTを活用することで、全ての生徒が表現したり互いの考えを共有したりできるようにしたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

(1)「ICTの三つの特質」に関連して(②③)解決のために)

社会科学の授業でICTを活用する時、特に「思考の可視化」「瞬時の共有化」という点で有効である。本授業では、Cラーニングのクイックアンケート機能で自他の意見の差異を瞬時に共有化する。またコラボノートのリアルタイム共有機能を活用することで、自他の思考の差異を可視化するとともに、全ての生徒が自分の考えをアウトプットできるようにする。なお、ICTの活用はあくまで生徒の学習を手助けする手段であり、目的化しないように留意している。

(2)「対話の三つの方向性」に関連して(①②)解決のために)

自分とは異なる意見を「聴き合う」体験を通じて視野を広げ、全ての生徒が授業のねらいを達成して満足感を得られるように、「少人数グループの話し合い→全体での情報共有→個人の考えをまとめめる」展開にする。また、個々の意見も互いに共有化できるようにして、集団での深い学びを実現したい。

## V 目標

- ①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信の4つの視点から、日本の国土の特色を大観し理解することができる。
- 世界と比べた日本の地域的特色を、①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信、の4つの視点から多面的・多角的に考察し、表現できる。
- 日本の地域的特色と地域区分について、持続可能な社会の実現を視野に入れ、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

## VI 全体計画 (総時数10時間)

時数	ねらい・学習活動等	評価の観点		評価方法と指導の留意点等
		知	態	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題図や分布図等から、日本の自然環境に関する特色を読み取り、理解する。世界と比べた日本の地域的特色を追究する単元課題を設定する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境に関する特色を簡潔にまとめているかを見取り、全体を紹介する。</li> <li>単元課題を見だし、その理由を予想しているかを見取り、全体を紹介する。(ノート、小テスト)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本列島が6つの気候区分に分類できる理由について多面的に考察して説明する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>地形と気候区分の関係性を考察してまとめていくかを見取り、その妥当性を検証する。(ノート、小テスト)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本は自然災害が多く、その分防災・減災対策に努めていることを理解する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>身近に自然災害があり、防災・減災に取り組んでいるかを見取り全体を紹介する。(発表、ノート)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化や過疎・過密問題の実態を読み取り、日本の人口に関する課題を理解する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの推移に加えて今後を予測するなど、時系列に整理して考察しているかを見取る。(ノート、小テスト)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本と世界、また日本国内の交通・通信網の発達の特徴を資料から読み取り、理解する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>交通・通信網の広がりや分布に着目して日本の中心拠点や整備の進み方を見取っているかを見取る。(発表、小テスト)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の資源・エネルギー利用の現状や日本の発電方法に着目して、日本の課題について多面的・多角的に考察する。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>他国の資源・エネルギー利用との比較から日本の現状と課題を捉え、現在の取り組みや将来の展望を考察しているかを見取る。(ノート、小テスト)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の産業が抱える課題やその背景を諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察する。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>食料自給率の低下や産業の空洞化に着目して課題を捉えているかを見取り、全体を紹介する。(ノート、小テスト)</li> </ul>
本時 9/10	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能性を考える上で最重要と思う視点を選び、根拠を示しながら論理的に説明する。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択した視点と理由に整合性があり、根拠を示しながら論理的に説明しているかを見取る。(発表、コラボノート)</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元課題に対する自分のまとめに基づいて、日本の地域区分を示す主題図を作成する。</li> </ul>		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の視点から日本の特色を捉え、各地域の分布や特色が分かるように表現しているかを見取る。(白地図、ノート)</li> </ul>



Ⅶ 本時の計画

- ねらい  
持続可能な社会をつくる上で日本が最優先で取り組むべき「視点」を選択し、その理由を、根拠を示しながら論理的に説明することができる。
- 展開

□□□□ = ICTの活用目的  
□□□□ = 対話の活用目的  
□□□□ = 1の「ねらい」を十分に達成している姿

過程	学習活動・ <b>主な発問</b> 等	想定される生徒の学習状況
問いの絞り込み	<ol style="list-style-type: none"> <li>これまで学習した日本の地域的特色を捉えるための「4つの視点」を再確認する。 <b>「4つの視点」とは何だったかな？</b></li> <li>日本の地域的特色を「持続可能性」という観点から捉え直し、本時の学習課題を確認する。 <b>学習課題：自分たちの将来のために最優先で取り組むべき視点はどれだろう</b></li> <li>現時点で最優先と考える視点を1つ選択し、同じ視点を選んだ人どうしでグループをつくる。</li> <li>既習事項を活用しながら、4つの視点と将来の日本社会との関連性を考察し、班の考えをまとめる。(個→班) <b>持続可能な日本社会をつくるため、最優先で取り組むべきことは何だろうか？</b></li> <li><b>各班の結論を聴き合いながら、根拠に基づいて考察する。</b> (全体)</li> <li><b>自分の思考を再構成し、本時の学習課題に対するまとめを自分の言葉で記入し、共有する。</b> (個→全体) <b>今日の授業で「気付いたこと」は、何だろう？</b></li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「何があっただかな」</li> <li>「視点それぞれに課題もあつたはずだ」</li> <li>「何年間くらしいの期間なら、持続可能と違ってよいのだろうか？」</li> <li>「自分、家族、地域、国全体…、どの規模で考えた方がいいのかな」</li> <li>「自分たちの班の考えが正しいはずだ」</li> <li>「日本は自然災害が多いから、まずは生きることが最も重要だ」</li> <li>「少子高齢化は秋田だけでなく全国的な問題。社会を支える根本の問題だ」</li> <li>「資源・エネルギーの自給率をもっと上げないと、将来が不安だ」</li> <li>「ICTは今後発展する上で不可欠。成長の鍵になりそう」</li> <li>「他班の主張にも一理ある。視点を1つに絞るのは難しいかもしれない」</li> <li>「日本は多くの課題を抱えている国だ」</li> <li>「どの視点も大事なので、迷ってしまう」</li> <li>「やっぱり、自分たちの考えが正しい」</li> <li>「他班の発表も根拠があつて、間違いとは言えない」</li> <li>「自分たちの将来と考えると、他人事ではなくなる」</li> <li>「日本には特色も課題も沢山あるんだな」</li> </ul>
個人や協働による追究		
振り返る		

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

指導の目的と手立て	見取りたい生徒の姿
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が本単元で学習した内容を思い出せるように、各授業で使ったプレートを用いる。</li> <li>生徒自身が課題意識をもてるように、4つの視点ごとの特徴と課題を確認し、簡潔に振り返る。</li> <li>考える際の同一条件として次の3点を挙げる             <ol style="list-style-type: none"> <li>「自分たちが社会で活躍する時代」</li> <li>「範囲は日本国及び国民」</li> <li>「現在と同程度以上の生活水準」</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信という4つの視点から、日本の特色を捉えてきたんだな</li> <li>世界から見ると、日本は様々な特徴や課題がある国なんだな</li> <li>○本時の学習課題を自分事として捉え、意欲的に学習に参加している。</li> <li>○自分の将来のために、他人事にはせずに今日の課題に取り組みむ必要があるそう</li> </ul>
<p>C-ラーニングのクイックアングメント機能で現時点での印象を選択入力し、結果を大型モニターに表示することで、学級全体の傾向を瞬時に共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを深めるため、同じ視点を選んだ人同士でグループを作るように指示する。</li> <li>生徒自身が判断して活動できるように、対話の相手を自由に選んでもよいことを伝える。</li> <li>生徒が既習事項を生かして話し合いができるように、移動時にノートの持参を促す。</li> <li>生徒が根拠に基づいて発表できるように、話型（結論＋根拠）を示す。</li> <li>生徒が自分の視野を広げるのに役立てられるように、参考になる意見や根拠をノートにメモするよう促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とは異なる選択をする仲間もいることを知り、意見の多様性に気付いている。</li> <li>○同じ視点を選んだ理由を伝え合うことで、根拠を補い合い、説明の準備が整っている。</li> <li>○前時までのノートの記述を生かして、根拠を説明しようとしている。</li> <li>○結論と根拠を示して論理的に説明している。</li> <li>・私たちは○を重視します。なぜなら○は全てに○の影響を与えるからです</li> <li>○他者の意見を自分の考えと比較しながら「傾聴」できている。</li> <li>・自分は○だと思っていたが、△△もやっぱり大事な だ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の「多角的な省察力」の育成を促すために、参考になった仲間の意見を取り入れながら自分の考えをまとめるように促す。</li> <li>生徒が他者の感想や意見をリアルタイムで共有しながら入力できるように、コラボノートの共有表示機能を使って入力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数の視点を組み合わせると、より持続可能な社会になるかもしれない</li> </ul> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>持続可能な日本になるために重要と考える視点について、仲間の意見を参考にしつつも、最終的な自分の考えを、根拠を示しながら論理的に表現できている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業で浮き彫りになった課題点を生かして、まとめる必要があるそう</li> </ul>

一本実践から見えてくることー

## 「問い直し」の主体と資料の取り扱い

共同研究者： 外池 智

(秋田大学教育文化学部・教科教育学講座)

### 1. 工夫されていた点

まず1点目は、生徒の課題と実践の工夫の対応である。指導案の「Ⅲ生徒観と指導について」において、生徒の課題が①～③と整理して示されており、それを受けて「Ⅳ研究の具体的な実践事項」では、それぞれの課題に対してどう対応するのかが明示されていた。時折、研究上の課題が優先され、眼前の生徒の課題と実践工夫がズレている事があるが、今回の指導案ではその対応関係がしっかりと明示されていた。

次に2点目は、授業中に展開される学習活動の自覚化である。これは、昨年の授業でも指摘した点である。本研究の「2研究主題と目指す子ども」の「(1)研究仮設」には「『問い・問い直し・振り返りのある学び』のプロセスの活性化」が掲げられている。このプロセスは、本校が積年の研究により得た成果であるが、本授業では、この「学びのプロセス」を活かし、本時の学習会代が提示された直後には「予想」学習展開の場面では「問い直し」という様に、各学習過程毎にラベルを示し可視化していた。自分達が、本時の授業展開の内、今どのような活動に取り組んでいるのかを可視化する事で常に自身の学習展開での位置を自覚化させていたのである。各プロセスで今どのような学習に取り組んでいるのかを意図的に自覚化させる事で、自身の取り組みを意識化し、省察を促す工夫が見て取れた。

最後に3点目は、ICTの活用である。GIGAスクール構想を受けて、本研究の「3 2年時の研究内容」のⅠの(1)の①には「ICTの三つの特質の明確化」の推進が掲げられている。今回の授業の場合は、①から④のテーマのどれに取り組みたいかの場面でCラーニングのクイックアンケート機能を、まとめの場面ではコラボノートのリアルタイム共有機能を活用していた。昨年

の実践に続き、モデル的なICT活用を提示できていたのではないかと。

### 2. 実践から見えてきた課題

まず1点目は、誰が「問い」「問い直し」のかという点である。この点は、昨年の実践でも指摘した点である。本研究の「3 2年時の研究内容」のⅡには「問い」や「問い直し」の在り方が提言されている。本来は、当然の事ながら生徒達自身から湧き上がる「問い」や「問い直し」が学習の推進力であろう。しかし、今回の授業の場合は、「問い直し」としての課題が授業者から提示されていた。学びの本質に立ち返った時、「問い」「問い直し」のは誰なのかを改めて考えていただきたい。

2点目は、資料の扱いについてである。学習課題を実証的に探るため、どんな資料が必要なのか。生徒達は既に①自然環境、②人口、③資源・エネルギーと産業、④交通・通信について学習を終えている。したがって、その学習の成果から自分自身で必要な資料を取り上げる事ができた。授業者が提示するのではなく、学習者自ら資料を活用する活動を設定してもよかった。

3点目は、論拠に基づく発表である。周知の通り、昨年度から全面実施となった新指導要領においても、PISAでの調査結果を踏まえ、子ども達の課題として示している点である。今回の授業では、グループ学習時や全体の共有場面において、資料に基づいた検討や発表が不十分であった。自身の思いや想像に留まらず、社会科であれば論拠に基づいた意見形成が求められる。

最後に4点目は、対話的学習場面の組織化である。生徒達は、既にミエルトークの手法を十分に身に着けている。しかし、今回のグループ活動場面では、大人数になる活動場面があり、その手法があまり活かされていなかった。4人程のグループではないグループ活動の場合、どのように組織的に対話的学習を展開するのか、検討する必要がある。

いずれにしても、問題提起性のある授業であり、授業者の今後に期待したい。

一本実践から見えてくること一

「社会的事象を時間、空間、相互関係の視点  
でとらえる」～生徒自らが行う、『協働的な  
学び』を通して～

共同研究者：加納 隆徳

(秋田大学教育文化学部・教育実践講座)

本実践は附属中学の幸野谷教諭が実践された授業「社会的事象を時間、空間、相互関係の視点でとらえる」について教科教育学的な視点から振り返りを行うことを目的とする。今回の実践は、学習指導要領でいうところの『地理的な見方・考え方』を用いた生徒による社会的事象を検討させることを主眼においた提案を行って頂いた。今回の学習指導要領では各教科において『見方・考え方』に注目しており、中学校学習指導要領解説（社会科編）でも「『社会的な見方・考え方』を働かせた「思考力、判断力、表現力等」の育成」の必要性が指摘されている。本実践はその意味でも、公立中学校の先生方を含めたすべての学校現場において、どのような学習活動があり得るのかを検討させる意味で、非常に貴重な提案をいただけたと考える。

本実践の特徴といえるのが、ESD の観点を取り入れた今回の学習課題であろう。別添の今回の学習指導案を見ていただければわかるとおり、幸野谷教諭は学習課題として、「自分たちの将来のために最優先で取り組むべき視点はどれだろう」を提示した。日本における社会の現状を考えたときに、様々な観点から未来を見通すことが必要なのは、すべての教科にとって必要なことである。そのなかで、時間的な意味を「最優先」という表現の元に、生徒たちに考察させようとした。社会科では、「最優先」という活動に近いものとして、公民的分野で、「ダイヤモンドランキング」などの手法があげられる。この手法のよい点として、生徒同士の価値観の表出ができる課題となっており、その上で、よりよい解決策を導き出す方法になっている。地理でも「最優先」という活動から、『時間軸』を念頭においた検討があったことは印象にのこ

る。すなわち、最優先が自分たちの世代の問題なのか、数百年の単位で考えるものなのか、もう少し先の未来を考えるのかという視点である。授業者からは、今の時代という限定をかけることによって、『最優先』という課題に現実をもたせることができた。一方で、生徒たちはその先の未来を見据えた意識が見られた点にも着目したい。ともすると、自分の世代だけがよければいい視点から脱却した考え方が見受けられたのは、その点を評価しながら、議論をすすめていくことの大切さを、我々の側も感じられた。

授業については我々の側でも学びたい点と、今後の課題点を示したいと思う。まず、学びたい点であるが、やはり課題の提示方法が工夫されており、生徒たちの学びを深く誘っていた点である。この課題から示せるのは、価値観の表出から、なぜ、その理由に正当性が持てるのかを議論するプロセスが重要なのであろう。実際、授業者自身もその点が念頭にあり、「想定される生徒の学習状況」にも「正しい」や「間違いとは言えない」といった表現があるのは、学習プロセスから、その先の評価を行う姿が想定されていると言えそうだ。故に、この授業を学生や若手教員が実施した場合、着目すべきは「学習プロセス」をマネジメントできるか否かが重要であり、学習課題そのものだけでは、よい授業になり得ないことに注意すべきであろう。また、今回の実践では ICT 活用を積極的にすすめる情報交流している姿も魅力的であった。本実践の今後考えていただきたい課題点としては、地理的分野と公民的分野での目標には相違点がないかという点である。どうしても今回、生徒自身の価値を表出させる場面設定が、公民的分野の学習と似通ってしまっている点が気になる点である。もちろん、地理でも未来を見通した活動は必要であるには違いないものの、地理と公民との間で棲み分けがしているのか。いらならないとするならば、重なり合う部分をどのように処理すべきかは、今後、学校現場で考えなければならない課題になるとおもわれる。

## 令和4年度の実践記録（数学）

## －実践記録（第3学年）－

## 1 単元名

「式の計算」 ー数学的な見方・考え方を働かせながら

道の面積の求め方を多角的に考察できるかー

## 2 具体的な実践事項との関連

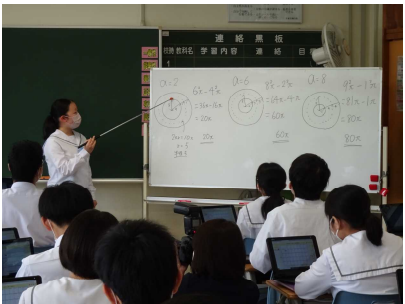
## (1) 瞬時の判断と柔軟な授業展開


「さらに言えることとはどんなことですか?」「次何を考えますか?」など、生徒の認知的な側面を刺激する支援的な発問をし、生徒から数学的な見方・考え方を引き出すことで、課題解決に導く力を育成しようとした。

## (2) 見通し、振り返りの場面でのICTの活用

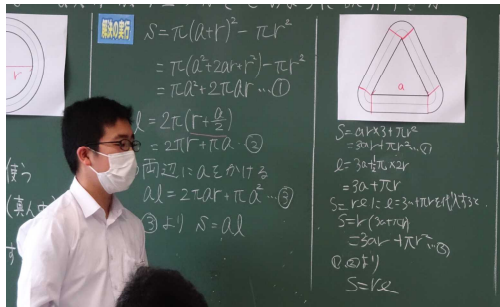
見通しの場面では、友達の考えを瞬時にヒントにできるようにし、振り返りの場面では、他の生徒との共有を図った。

## 3 授業の実際

過程	学習活動 「教師の発問や指名」 ■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）	教師の手立て ○：見取った生徒の姿 ◎：本時のねらいを達成している生徒の姿
問題の把握 見通し	<p>1 宿題の答えを確認する。 2 課題を設定する。 「あなたは次何を考えますか。」 ■主体的に本時の学習課題を設定できるようにするために発問した。</p>  <p>「すべての場合が成り立ちますか。」 「次に何を考えますか。」 ■ <math>a \times 10\pi</math> で答えを求めることができるのではないかという発言を取り上げ、具体的な数で成り立つことを確認し、課題につなげるために発問した。</p>	<p>○ <math>a</math> の数字と答えが関わっている。 ○ 円で考えたので、長方形や別の図形で考えた方がいいのではないかと。 ○ <math>a</math> が偶数だったので奇数の場合を考える。 ○ <math>a</math> に数を当てはめれば答えが出るのではないかと。 ○ <math>a \times 10\pi</math> で答えを求めることができるのではないかと。 ○ 3つの答えから、次何を考えるかと生徒が自由に思考していた。 ○ すべての場合に成り立つことを説明すればいいのではないかと気づいている。</p>

	<p>「具体的に何を説明すればいいのかな。」</p> <p>■本時の学習課題を明確にするために発問した。</p>	<p>○（道幅の面積）＝（幅）×（真ん中を通る線）を説明することを理解している。</p>
<p>解決の実行 問 い 直 し</p>	<p>3 円について考える。</p> <p>■目的に応じて式を変形したり、式の意味を読み取ったりするために、文字を使って（大きい円）－（小さい円）を考えた生徒の考えを取り上げた。</p> <p>4 円以外の図について考え、複数の考えを比較する。</p> <p>「円については成り立つことが確認できました。次は何を考えますか。」</p> <p>■学びの意欲を高めるために、生徒の自由な発言を大切にした。</p> <p>■円での学習を生かして説明できるか確認するために、角が直線で囲まれた正方形、長方形を取り上げた。</p>  <p>■角が曲線で囲まれている三角形を取り上げることで、新たな考え方に気づくこと</p>	<p>見通しを立てる場面を設定し、ICT（コラボノート）を活用することで、友達の考えを瞬時にヒントにできるようにする。</p> <p>○（全体）－（真ん中の円）、図形を変形して考えるなど見通しを立てることができている。</p> <p>○文字を使って説明することに悩んでいる生徒もいた。</p> <p>理解の定着を図るために、ペアで説明する時間を設ける。</p> <p>○長方形、ひし形、正方形、三角形などの別の図形を考えようとしている。</p> <p>本時のねらいを達成するために、正方形、長方形、三角形で角が直線、曲線に囲まれた6つの図形を提示し、その中から考える図形を選択する場を設定する。</p> <p>○角が直線の長方形の面積を選んだ生徒が多かった。</p> <p>○円で学習したことを生かして説明しようとしている。</p> <p>○簡単に引き算ではできないことに気づき悩んでいる。</p>

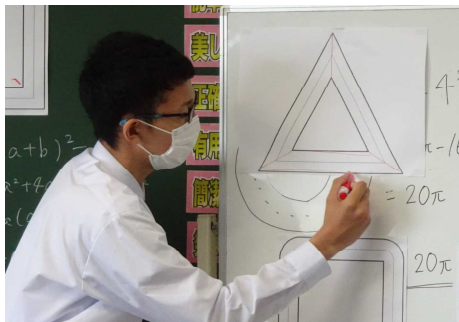
ができるようにした。



振り  
返り

「角が直線に囲まれた三角形はどう考えればいいでしょうか。」

■角が直線に囲まれた三角形を取り上げ、面積で求めることが難しい図形の考え方に気づくことができるようにする。



■図形を分割して説明する考え方を説明していたので、長方形に直して考えるという生徒を指名した。



ま  
と  
め

5 本時のまとめをする。

○一人の説明では、納得できていない生徒が多かった。

○曲線部分の3つのおうぎ形を1つに集め、円として考えることで面積を求めることができることを理解できている生徒が増えてきている様子。

○図形を円と長方形3つに変形することによって説明できることは理解している様子。

理解の定着を図るために、ペアで説明する時間を設ける。

生徒の思考を揺さぶり新たな考えを引き出すために、今までの方法では解決できない図形を取り上げる。

○今までの方法では解くことができないのではないかと考えている。

○角が直線に囲まれた三角形の方法を使って説明すればいいのではないかと考えている。

○長方形に直して考えれば説明できることは理解している様子。

他の生徒との共有やポートフォリオ化を図るために、ICT(コラボノート)を活用する。

○全体の面積から真ん中の面積をひく。

○図を変形する。

○円と長方形で考える。

6 振り返りをする。	◎面積の差で考えたり、図形を変形したりして、文字で説明することを理解している。
<p>《生徒の振り返りから》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な数で成り立つだろうと予想したことを、文字で説明する大切さに気づくことができた。</li> <li>・これからの学習では、より簡潔な方法を考えることを大切にしていきたい。</li> <li>・(道幅の面積) = (幅) × (真ん中を通る線) が成り立つことを他の図形でも考えてみたいと思った。</li> </ul>	

#### 4 授業の省察

教師から与えられた課題はなく、生徒の考えをつなぎながら学習課題を設定することが生徒の学ぶ意欲につながった。生徒自身が必要感をもつ課題設定をするために、問題を提示した後、「次に何を考えたい?」「さらに言えることとは?」「今日は何が解決できればよいのか?」などの発問が大切だと感じた。操作的な理解ではなく、構造的な見方で理解しているかを見取るべきだった。式変形を追うことに加えて、図で考える場の設定も必要であった。生徒が本当に他の図形で考えたいとの問題意識をもつためには、思考の停滞の時間を大切にすべきだった。今までの方法では解決できない図形を取り上げることで別の方法を考えたり、より簡潔な方法を考えたりすることができた。生徒の疑問をさらに取り上げ、全体場で議論して展開できればよかった。

## 数科学習指導計画

学級 3年A組 36名  
 授業者 高桑和哉  
 共同研究者 佐藤 学  
 加藤 慎一

### I 単元名と指導のポイント

「式の計算」

－数学的な見方・考え方を働かせながら道の面積の求め方を多角的に考察できるか－

### II 単元について

第1学年では、数量の関係や法則などを、文字を用いて式に表したり、式の意味を読み取ったり、文字を用いた式が数の式と同じように操作できることを学習をしている。第2学年では、文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力を養うとともに、簡単な整式の加法・減法、単項式の乗法と除法の計算について学習している。また、数量や数量の関係を捉え説明するのに文字を用いた式が活用できることや、目的に応じて簡単な式を変形することについて学習を進めてきた。第3学年では、これらの学習の上で立って、単項式や多項式の乗法、多項式を単項式で割る除法及び簡単な一次式の乗法の計算をできるようにする。さらに、式を用いる簡単な式の展開と因数分解を取り扱い、これによって、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明する力を養うことが本単元のねらいである。

### III 生徒観と指導観について

数学への関心が高く、意欲的に課題に取り組み姿が見られる学習集団である。また、諸調査からは、数量や図形などについての基礎的・基本的な知識・技能について十分に定着していることが分かる。

一方で、説明し合う活動には意欲的に取り組むものの、数学の用語を用いて簡潔に説明したり、相手を意識した説明をしたりすることには課題が見られる。また、与えられた問題の答えを導き出すことで満足し、「本当にそうなのか」「なぜこのような式で表せるのか」といった思考をしたり、答えから新たな性質を見いだしたりする姿勢も十分ではない。

指導に当たっては、生徒が問いを設定したり、考えを主体的に発言したり、疑問を感じたりするよう授業展開を心掛けたい。問題文から自分で図を考えたり、求める面積を条件を変えずに単純化したりすること、幅一定の道路の真ん中を通る線の長さや面積の関係がいろいろな図形で成り立つことと証明等を通して、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取ったり、統合的・発展的に考える力をさらに向上させたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

本校数学科では、学びのプロセスとして「問題を把握する段階」「解決の見通しをもつ段階」「解決を実行する段階」「問い直しをする段階」「学びをまとめる段階」の5つの段階を設定している。このプロセスを生かしながら、学びに向かう雰囲気や大切にし、生徒の発言をつなぐことで、考えを広めたり、より深めたりする。

特に「問題を把握する段階」では、問題文から自ら図形を考えることで、生徒の自由な発想や疑問を生かし学習課題を設定するようになりたい。「問い直しをする段階」では、複数の解法を比較したり、生徒の思考を揺さぶったりする中で簡潔性、一般性などにつながる生徒のつぶやきを取り上げ、その内容についての話し合いをすることで主体的な学びを実現する。「学びをまとめる段階」では、本時の学びを振り返り、ICTを活用した効果的な学習のまとめを行う。

### V 目標

(1) 単項式や多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をしたり、簡単な一次式の乗法の計算及び公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をしたりすることができる。

(2) 既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し表現したり、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明したりすることができる。

(3) 式の展開や因数分解をする方法のよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりしている。

### VI 全体計画（総時数18時間）

- 多項式の乗法と除法・・・（9時間）
- 因数分解・・・（5時間）
- 式の活用・・・（3時間）

時数	ねらい・学習活動等	評価の観点		評価方法と指導の留意点等
		知	思・態	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の公式や因数分解の公式を使って、数の計算を簡単にできる。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の計算にも乗法の公式や因数分解の公式が利用できることを理解しているか見取り、そのまま計算する場合と公式を使って計算する場合を比較検討を通して、能率的に計算できることを実感できるように助言する。（ノート・評価問題）</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>数や図形の性質などが成り立つことを、文字を使って説明することができる。</li> </ul>	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>文字を使った式を用いた問題解決の過程を振り返って評価・改善できるように比較・検討する場を設ける。 （観察・ノート）</li> <li>数や図形の性質などが成り立つことを、数量および数量の関係をとらえ、文字を使った式で説明することができる。具体的に数で調べる活動を通して、問題の意味を理解し、証明する必要性を感じることもできるようにする。 （ノート・評価問題）</li> </ul>
本時 3/3	<ul style="list-style-type: none"> <li><math>S = a\ell</math> という関係が成り立つことを図形を用いたり、文字を用いた式を利用したりして説明することができる。</li> </ul>	○		<ul style="list-style-type: none"> <li>道幅を直線部分とおうぎ形の部分に分けて考え、おうぎ形の部分は集めると円になることを理解し、文字を用いた式を利用して説明できるかを見取る。具体的な場面を文字式にして説明することが苦手な生徒には、数値を与え実際に計算することや気づくことができるようにする。 （観察・ノート）</li> </ul>

- 単元のまとめ・・・（1時間）



Ⅶ 本時の計画

1 ねらい

$S = a\theta$  という関係が成り立つことを図形を用いたり、文字を用いた式を利用したりして説明することができる。

2 展開

□ = ICTの活用目的  
 ~~~~~ = 対話の活用目的

□ = 1の「ねらい」を十分に達成している姿

| 過程       | 学習活動・ <b>主な発問</b> 等                                                                                                                                                      | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                  |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の把握見通し | 1 宿題の答えを確認する。<br><b>【宿題】</b> 円の周りに幅 $a$ の道をつくる。道の真ん中を通る線の長さを $10\pi$ とする。 $a$ の値が次のとき、この道の面積を求めよ。<br>( $a$ の値 2, 6, 8)<br>2 課題を設定する。<br><b>S = aθ が成り立つかをどのように説明するか?</b> | ・ 何か言えることないかな<br>・ 求める方法は他にないかな<br>・ 「面積は、幅と真ん中を通る線の長さで求めることができるのでは」                                                                                          |
| 解決の実行    | 3 円について考える。<br><b>主な発問</b><br>・ 次何を考えるの?<br>・ どうしてそう考えたの?<br>・ 何で困っているの?<br>4 円以外の図について考え、複数の考えを比較する。                                                                    | ・ 「文字を使って説明すればいいのでは」<br>・ 「道を長方形で考えればいいのでは」<br>予想される図<br>① 正方形<br>② 正三角形<br>・ 「正方形の周りにできる道は差では求めることができそうだ」<br>・ 「道を長方形で考えればいいのでは」<br>・ 「おうぎ形を集めて円にすればいいのではなか」 |
| 問い直し     | 4 本時のまとめをする。<br>5 振り返りをする。                                                                                                                                               | ・ 本時の学びを振り返り、まとめを考えている。<br>・ 友達の考えの良さを認め称賛し、さらに発展させた図形や他の図形について考えみよいうと意欲をもっている。                                                                               |

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                       | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・ 分かったことを確認するために、ペアで説明する場を設ける。<br>・ 主体的な学びを促すため、生徒の発言をつなぎながら学習課題を設定する。                                                                                                                                          | 見取りたい生徒の姿<br>○ 半径が違ってもなぜ $S = a\theta$ になるのだろうと疑問をもったり、文字で説明したらよいのではないかという考えをもとうとしている。<br>○ 自分たちで学習課題を設定したり、本時の学習のゴールをつかんだりしている。                                                                                      |
| ICT (コラボノート) を活用することで、友達の考えを瞬時にヒントにできるようにする。<br>・ 生徒の自由な発想を大切にするために、問題文から図形を考える場を設定する。<br>・ 複数の考えを比較検討する場を設定することで、 <b>統一的・発展的な考えをもつことができるようにする。</b><br>・ <b>生徒の思考を揺さぶり新たな考えを引き出すために、今までの方法では解決できない図形を取り上げる。</b> | ・ <b>面積の差で考えている。</b><br>・ <b>道を長方形の面積と考えている。</b><br>○ <b>与えられた問題から図を考え、成り立つ理由を文字を用いて説明しようとしている。</b><br>○ 「共通点」「違い」「よりよい方法」など、自分の考えや理由を図や式を用いて表現している。<br>○ <b>図の形や式の形をもとにして、共通性を考えたり、図形を単純化したりして、簡潔に求める方法を見い出している。</b> |
| ・ 本時の学びの本質を引き出すため、キーワードを問う。<br>他の生徒との共有やポートフォリオ化を図るために、ICT (コラボノート) を活用する。                                                                                                                                      | ・ <記述例>面積の差で考えたり、図形を変形したりして、文字で説明する。<br>面積の差で考えたり、 <b>図形を変形したりして、文字を用いた式を利用して説明することができている。</b> (観察・ノート)<br>○ 自らの変容を自覚したり、新たな問いを見い出したりしている。                                                                            |

※「主体的な行動力」「独創的な思考力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

## 令和4年度の実践記録（数学）

## －実践記録（第1学年）－

## 1 単元名

「データの分析」 ー生徒が必要感をもって学習問題をつくり上げることができるかー

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) 方向性を明確にした対話場面の設定

解決を実行する場面では、集団での省察を図るため、この単元で学んだ内容を振り返りながら、数学用語を用いて、学習課題を解決するためにはどのようなデータの表し方が適切であるかを検討する場を設けた。また、問い直しをする場面では、認知過程の外化を図るため、自分の考えをペアに伝え、お互いの考えを検討する場を設けた。

## (2) 瞬時の共有化を目的としたICTの活用

問い直しの場面や振り返りの場面においてコラボノートを活用し、互いの考えを瞬時に共有することで、生徒が自らの考えを広げるための手立てとした。

## 3 授業の実際

| 過程   | 学習活動<br>「教師の発問や指名」<br>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）                                                                                        | 教師の手立て<br>○：見取った生徒の姿<br>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題把握 | 1 この単元の学びを振り返り、自分の学習時間について関心をもつ。<br>「これまで、どんなことを学んできたか振り返りましょう。」<br>■生徒が本単元の学習内容を振り返ることによって、学習時間について関心をもてるのではないかと予測していたが、難しかった。 | ○これまでにこの単元で学んできた学習内容と共に、調べてきた「登校時間」や「睡眠時間」の内容について振り返っている。                                               |
| 見通し  | 2 本時の学習課題を確認する。<br>「自分の生活について数学の授業を通して見直してきましたが、次はどんな時間の使い方について考えますか。」<br>■生徒から「学習時間」について考えることを引き出したかった。引き出すことはできたものの、時間を要した。   | ○「登校時間」と「睡眠時間」以外の時間の使い方について考えている。<br>○「学習時間」を調べるのに対して前向きではない様子の生徒もいる。<br>○本時は「学習時間」について考えるのだというのを捉えている。 |

解決の  
実行

3 自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るために、データをどのように表せばよいか考える。

「この課題を解決するためには、どんなデータの表し方をすればよいでしょうか？」

■この単元で学んできたデータの表し方の中で、どの表現を用いるかを考えることにより、課題を解決するために何が必要かを捉えることができると考えた。

「自分で思いついた考えを、紙に書いてみよう。」

■4人での話し合いに入る前に、自分の考えを明確にしておきたかった。

「4人グループで話し合っ、これが大事だという表し方を、キーワードでホワイトボードに書いてみよう。」

■キーワードに絞る指示をすることによって、データの表し方の全てを使うということではなく、特にどれを使うのか、明確に示すことができると考えた。

『「長い方かどうか」を判断するための表し方をキーワードをお願いします。』

■キーワードで記入しているものの、複数書いている班が多く、学習課題に立ち返るために、全体に声を掛けた。

「代表値が多いかな…なんでそれを書いたのかを教えてもらおうかな。」

「4班さん、平均値を書いているのは、どうして？」

■生徒から出されたキーワードは概ね予想通りであった。

■平均値でよいのか悩む生徒が多く見られたため、平均値から検討を始めた。

「今の4班の意見に何か意見はありますか？」

○この単元で学んできたデータの表し方のそれぞれがどのような特徴を有しているか、振り返っている。



○これまでの学習を振り返りながら、データの表し方について自分の考えを書き出している。

ホワイトボードを活用し、4人グループで学習課題を解決するためのデータの表し方を検討する場を設ける。(集団での省察)

○「長い方かどうか」という学習課題を解決するために「中央値」を選択した生徒はいるが、併せて「平均値」、「ヒストグラム」を記載している生徒も多く見られた。

○長い方かどうかを比べるとき、ヒストグラムや、度数分布表と相対度数を併せて表したものが見やすい、という考えをもつ生徒も多い。



○平均値を用いてよいのか、悩んでいる生徒が多い様子。

○4班から「平均値を越えていたら、その集団の中では学習時間が長い方に入るという判断をしたが、短い人と長い人の差があることを考えると、平均値でよいのか悩んでもいる」という発表。

「同じように平均値を書いている8班の意見を教えてください。」

「他に、平均値について意見がある人は？」

■平均値でよい理由を全体で確認するため、平均値についての意見を続けて引き出し、集団での省察を図ろうとした。

「偏りがなければ、ということは、どんなヒストグラムのデータならいいのかな。」

■生徒がこれまでに調べてきた「睡眠時間」のデータを例に出しながら説明をしたため、全体で思い出すことができるように、「睡眠時間」のヒストグラムを提示した。

「最頻値と書いたのは、なぜ？」

■代表値のうち、平均値について検討をしたので、次は最頻値について検討しようと考えた。

「最頻値のよさって何だっけ？」

■最頻値について確認をすることで、「今回は最頻値ではないのでは？」という発言を引き出そうと考えたが、引き出せなかった。停滞を防ぐために、中央値も併せて、代表値を検討しようとした。

「代表値、他には…」

「2班さん、どうして中央値ですか？」

■まだ発言をしていない班に発言を促そうと考えた。

「他に中央値と考えた班は？」

■他にも中央値を書いた班があったので、生徒から更に意見を引き出そうとした。

「今日、まだデータはないけれど、つきとめたいことは何だっけ？」

■生徒の発言から、データによって活用すべき代表値は異なるのではないかという捉えが感じられたため、学習課題に再度立ち返ることで、今回は中央値が大切であることを押さえようと考えた。

「代表値以外の考え方もありますね」

「相対度数と書いた6班さんは？」

■代表値以外のキーワードについても検討

○8班は「中央値は人数の真ん中、平均値は全体の数値をまとめて出した値だから、中央値よりも正確な値が出るのでは」という発表。

○Yさんは「外れた値があるデータの場合、平均値は比べるのには向かない。偏りが無い場合なら平均値で比較しても良いのではないか」という発表。

○中央値や平均値を使って表せばよさそうだが、どちらを使えばよいのかはデータの偏りによるのではないかと、という考えを、多くの生徒が捉えた様子。

○最頻値周辺に多くのデータが集まっている分布であれば、長いかどうかの判断に使えるのではないかと4班の発表。



○「中央値があります」というつぶやきをする生徒が数名。

○平均値では、とびぬけた値があると影響を受けてしまう。中央値は真ん中の値だから、これを下回れば下の方、という2班の発表。

○「長い方か知るためには、真ん中より多いか少ないかというのを考えればよいから」という7班の発表。

○データの偏りによっては様々な代表値を使う要素は出てくるが、今回の学習課題を解決するためには中央値が大切であると、多くの生徒はつかんだ様子。

○データの分布によっては中央値以外のものも必要だろうという考えをもつ生徒もいる。

○「相対度数の合計が0.5を越えるかどうかで判断できる」という6班の発表。

しようと考えた。

「5班はヒストグラム、相対度数、代表値と書いてくれましたが、今回の学習課題を解決するのに特に大事なものは？」

「4班は？」

■代表値（中央値）が大切という発言を引き出そうと考えたが、引き出せなかった。『ドットプロット 代表値、自分の位置』と書いてある3班さん、考えを教えてください。」

■「ヒストグラムは見やすいので、ヒストグラムがあればデータの中央が分かる」という考えを払拭するため、ドットプロットを書いた班に発言を促した。

『長い方かどうか』というのを、『これ見れば分かる』と、ひとつに決めるとなったら、どれかな？話し合ってください。」

■班でひとつに意見を絞ることで、「長い方かどうか」を判断するためには中央値、もしくは累積相対度数を確認する必要があるという考えを引き出そうとした。

「Sさん、あなたの意見を教えてください。」

■Sさんが累積相対度数についてよい発言をしていたため、Sさんを指名した。

「中央値という意見が出てきましたが、他にはありませんか？」

■Hさんも累積相対度数について話し合っていたので意図的に指名したが、累積相対度数の発言は引き出せなかった。

「最頻値だと、長い方かどうかは分かりますか？」

「もう一度、学習課題を確認しよう」

■最頻値を用いれば課題を解決できるのかと迷う生徒の姿が見られたため、集団の中で長い方かどうかを判断する値として最頻値が適切かどうかを再考するために、学習課題に立ち返った。

4 アンケートの質問項目を考える。

「データを集めるためには、何をしなければ

○「ヒストグラムだと分布が大きく捉えられるが、細かくは相対度数を見ると分かる。」というKさん。

○「私たちの班の中では、ヒストグラム。」

○「6班と同じで、相対度数の合計を考えたらよいと思った」という4班。

○「ドットプロットはヒストグラムと違って、ドットで数が分かるし、中央値も分かる。だから自分の位置も分かる」というYさん。

○「ドットプロットは、数えることによって中央値も分かるところがいい」ということに、納得した生徒が多い様子。




○「中央値は真ん中の値だから、全体的に長い方か短い方なのかわかるから」というSさん。

○「元々の意見はヒストグラムだったが、階級の幅を変えたら見え方が変わった。中央値であれば、値が変わらない」というKさん。

○「最頻値だと分かりやすい」というHさん。

○中央値であれば「長い方かどうか」を判断することはできるが、最頻値は判断することができない場合があるのではないかと、という認識を得た生徒が多くいる様子。

○「アンケートをとらないといけない」とつぶ

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>問<br/>い<br/>直<br/>し</p> <p>ばならない？」</p> <p>「どんなアンケートをすればいいかな？」</p> <p>■質問するためにどんなことを考えるとよいかを生徒から引き出そうと思い、問い掛けた。生徒の発言は、概ね予想通りだった。</p> <p>「こういう聞き方をすると、いいのではないか？というキーワードを、コラボノートに入力しよう。」</p> <p>■発言していない生徒の視点も含め、様々な視点を得てアンケート質問を作成してほしいと考えた。入力された内容は、概ね予想通りだった。</p> <p>5 アンケートの質問項目とデータの表し方を組み合わせる。</p> <p>■他者に説明するところまでを見越して、アンケートの質問内容とデータの表し方を表現してほしいと考えた。</p> <p>6 自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るためにどうするか、ペアに自分の意見を伝える。</p> <p>「お互いにペアになって説明してほしいと思います。」</p> <p>■自分の考えを声に出して表現することで、より理解を深めることができると考えた。</p> | <p>やく生徒が数人。</p> <p>○「何を知りたいかによって、質問が変わってくる」とつぶやくKさん。</p> <p>○「平均的な学習時間か、前日の学習時間か」</p> <p>○「休日と平日だと、回答が違ってくる」</p> <div data-bbox="810 443 1417 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>質問のキーワードをコラボノートに入力する指示を出す。<br/>(瞬時の共有化)</p> </div> <p>○「(1日の学習時間の)平均」と入力する生徒が多数。</p> <p>○「平日の習い事もなく部活動もないとき」「塾での学習時間は入れるのか？」という条件を入力した生徒も何人かいた。</p> <div data-bbox="1008 815 1410 1115" style="text-align: center;">  </div> <div data-bbox="810 1137 1417 1294" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ペアで、自分が考えた質問項目とデータの表し方を相手に伝える場を設ける。<br/>(認知過程の外化)</p> </div> <p>◎アンケートで得たデータを中央値や累積相対度数を用いて表すことで、自分の学習時間が長い方かどうかを判断できることを、ペアの相手に説明している。</p> |
| <p>ま<br/>と<br/>め<br/>と<br/>振<br/>り<br/>返<br/>り</p> <p>7 次時に向けて学習のまとめをする。</p> <p>「まとめるためのキーワードは」</p> <p>■本時の学びを振り返り、本質を確認するために、キーワードを全体で確認した。</p> <p>8 振り返りをする。</p> <p>「振り返りを教えてください。」</p> <p>■本時の学びを全体で共有するため、データの表し方とアンケートの質問を結び付けて振り返りを記入していた2名の生徒を、意図的に指名した。</p>                                                                                                                                                                                                                                        | <p>○「中央値」「相対度数」というキーワードを出している生徒が多く見られる。</p> <p>○「ヒストグラム」と考える生徒も何名かいた。</p> <div data-bbox="810 1776 1417 1933" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>互いの考えを瞬時に共有することができるように、コラボノートに振り返りを入力するよう指示する。<br/>(瞬時の共有化)</p> </div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

## 《生徒の振り返りから》

- ・今日の授業ではデータがまだ出ていない上で自分の学習時間が長いかどうかを調べるコツを見つけることができました。また、質問の条件を合わせることでもっといいデータが出ると思いました。
- ・真ん中の値で自分が長いかどうかを知ることができるので、その真ん中の求め方を求めるのが今回の授業だったと思います。中央値を使うのは納得ですが、平均値は使えないのでしょうか。また、データに偏りがあった場合には、代表値も完璧とは言えないので、データが分からない限りには、中央値を使うか平均値を使うか一概には言えないと思いました。
- ・データを調べるときには何を求めたいかによって使う代表値などを変えることが必要だと分かりました。周りと比較するときは中央値。
- ・知りたい内容を変えると、データの表し方も変わってくるということが分かりました。今後、仕事などでデータを使うと思うので、その時はどんな表し方をすればよいか考えたいです。
- ・前回睡眠時間が適切かどうか調べた時は、最頻値を利用したけれど、今回は中央値を利用した方が良かったことが分かりました。時によって使う代表値を使い分けることが大切だと思いました。

## 4 授業の省察

- (1) 生徒はデータがない状態で、これまでに本単元で学んできた数学的な見方・考え方を働かせ、問題を解決しようとしていた。しかし、もっと生徒の考えを表出させ、学びを深めるための手立てが必要であった。自分の考えをもつために時間を確保することや、話し合い活動に入る前に前提の条件を全体で確認することにより、より学びを深めることができたのではないかと考える。また、「長い」という言葉に対する捉え方が生徒それぞれに違っていた。それによって生徒が想像するデータの分布が異なっており、そのために課題を解決するのに適切だと考えるデータの表し方が異なっていたようなので、課題で使われていた「長い」という言葉について、もっと深く意識した切り返しができたらよかった。更に、ねらいを達成するための学習形態として4人グループの話し合い活動を取り入れたが、他のグループを見に行くことを許したり、全員を一度起立させて発言させてから座らせるなど、学習形態をもっと工夫することで、より生徒の発言を引き出したのではないかと考える。
- (2) 生徒が「学習時間」を考えようとする課題意識をもたせる必要があった。これまでの単元の学びを振り返ることで「学習時間」を考えることに結び付けたいと考えたが、生徒の課題意識の喚起につながってはいなかった。生徒の課題意識を喚起し、より主体的な学びを実現するためには、単元構想を検討し、大きな単元の問題意識を明確にもつことが必要である。それにより、生徒が自分事としてデータの分析を捉え、主体的に学ぶ姿を引き出せるのではないかと感じた。

## 数科学習指導計画

学級 1年C組 32名  
 授業者 南陽子  
 共同研究者 佐藤 学  
 加藤 慎一

### I 単元名と指導のポイント

「データの分析」 一生徒が必要感をもって学習問題をつくり上げることができるかー

### II 単元について

小学校算数科では、統計的な問題解決の方法を知るとともに、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ及び帯グラフを学習し、度数分布を表やグラフに表したり、データの平均や散らばりを調べるなどの活動を通して、統計的に考察したり表現したりしてきた。

本単元では、これらの学習を土台としてデータを収集、整理する場合には、目的に応じた適切で能率的なデータの集め方や、合理的な処理の仕方が重要であることを理解できるようにすることが求められている。さらに、ヒストグラムや相対度数などについて理解し、それらを用いてデータの傾向を捉え説明することを通して、データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断ができるようにすることが求められている単元である。

### III 生徒観と指導観について

数学への関心が高く、意欲的に課題に取り組む姿が見られる学習集団である。また、諸調査の結果から、既習事項の基礎的・基本的な知識・技能について、十分に定着していることが分かる。

一方で、説明し合う活動には意欲的に取り組むものの、数学の用語を用いて簡潔に説明したり、相手を意識した説明をしたりすることができないことには課題が見られる。また、日常の事象を数学と結び付けて考えたり判断したりすることができないときもある。日常の事象から問いを見いだすことや、様々な方法で結論を導き出すことについても、改善を図る必要がある。

指導に当たっては、生徒が問いを設定したり、疑問を感じたりするような授業展開をする。そのため、生徒が日常の事象と数学が結び付いていることを実感できるように、身近な事象を授業で扱う。また、「次は何を考えますか」「どうしてそう考えたのですか」といった生徒の認知的な側面を刺激する発問に努めることによって、生徒が主体的に学ぶことができるようにしていきたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

本校数学科では学びのプロセスとして「問題を把握する段階」「解決の見通しをもつ段階」「解決を実行する段階」「問い直しをする段階」「学びをまとめる段階」の5つの段階を設定している。この5つの段階を大切にしながら授業することで、生徒が自分の考えを振り返り、修正しながら、より深く考察する力を伸ばしていきたい。

「解決を実行する段階」では、生徒が目的に合わせてデータの表し方を適切に選ぶことができるようにするために、互いの意見について確認し、その違いを捉えることができるような対話を取り入れる。その際には、主体的な学びを実現できるように、生徒の認知的な側面を刺激する発問に努める。「問い直しをする段階」では、アンケートによって集めたデータをどのように表し、分析につなげていくかを他者に説明し、お互いに確認する場面を取り入れる。それにより、生徒一人一人が数学の用語を用いた表現に習熟できるようにしたい。「学びをまとめる段階」では、効果的な学習のまとめとなるようにICT機器を活用する。

## V 目標

- データをヒストグラムや相対度数などに整理したり、統計的確率の必要性和意味を理解したりすることができる。
- 目的に応じてデータを収集・分析して批判的に考察したり、多数の観察や多数回の試行の結果を基にして統計的確率を表現したりすることができ。
- データの分布や統計的確率について、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返り返って多面的に検討しようとしていたりしている。

## VI 全体計画（総時数16時間）

- 度数の分布・・・（10時間）
- データの活用・・・（5時間）

| 時数        | ねらい・学習活動等                                                                                                                  | 評価の観点 |     | 評価方法と指導の留意点等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                                                                                            | 知     | 思・態 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 本時<br>1/5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の学習時間は附属中学校1年生の中で長い方かどうか」を分かるためには、収集したデータをどのような表し方で表せばよいのかを考える。</li> </ul>       | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じたデータの表し方を選ぶことができるかを見取り、それぞれのデータの表し方のよさや、どんな目的での表し方を用いることが適切なのかについて理解が深まるように助言する。（シート・観察）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                |
| 3         | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習時間に関するアンケートを作成・実施し、データを収集する。</li> <li>収集したデータを整理し、中央値や累積度数などを求めて、分析する。</li> </ul> | ○     | ○   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習時間に関するアンケートを実施してデータを収集することができているかを見取り、コンピュータの使い方などについて個別に支援する。（シート・観察）</li> <li>収集したデータから中央値や累積度数を求めて考察することができているかを見取り、中央値の求め方を個別に確認したり、自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るために適切な階級の幅になっていくかを確認するよう助言したりする。（シート・観察）</li> <li>データを中央値や累積度数などを用いて表し説明できているかを見取り、データのどこから自分の結論を主張することができるのかについて気付くことができるように助言する。（シート・発表）</li> </ul> |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の学習時間は附属中学校1年生の中で長い方かどうか」について、自分の考えを中央値や累積度数などを用いて分析し説明する。</li> </ul>            | ○     |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

- 単元のまとめ・・・（1時間）



Ⅶ 本時の計画

1 ねらい  
「自分の学習時間は附属中学校1年生の中で長い方かどうか」を知るために適切なデータの表し方を選び、その表し方を用いる理由を根拠を説明することができる。

2 展開

| 過程           | 学習活動・主な発問等                                                                                                                 | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                             |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の把握<br>見通し | <p>1 この単元の学びを振り返り、自分の学習時間について関心をもつ。</p> <p>2 課題を設定する。<br/>自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るためには、どうすればよだろうか。</p> <p>・どうすればよいかかな？</p> | <p>想定される生徒の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の1日の時間の使い方はどうか」</li> <li>「学習時間についてはどうだろうか」</li> <li>「自分の学習時間は、この学年の中では長い方かどうか、分からないな」</li> <li>「どうすれば、学習時間が長い方かどうかを知ることができるのかな」</li> </ul> |
| 解決の実行        | <p>3 自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るために、データをどのように表せばよいか考える。</p> <p>・何を使ってデータを表せば、長い方かどうか知ることができるかな？</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>「今まで学習してきたことのうち、何を言えばよいか」</li> <li>「平均値と自分の学習時間を比べたらよいのではないかな」</li> <li>「ヒストグラムにすると見やすいのではないかな」</li> </ul>                                                        |
| 問い直し         | <p>4 アンケートの質問項目を考える。</p> <p>・どんな質問をしてデータを集める？</p> <p>5 アンケートの質問項目とデータの表し方を組み合わせる。</p> <p>・集めたデータをどのように表す？</p>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>「どんな質問をしてデータを集めようか」</li> <li>「『学習時間』とは何を指すのかな？」</li> <li>「質問して集めたデータを、どのように表すと、長い方かどうか分かるかな」</li> <li>「自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るためには、この質問や表し方で適切かな？」</li> </ul>    |
| 振り返り         | <p>7 次時に向けて学習のまとめをする。</p> <p>8 振り返りをする。</p> <p>・今日の授業で、どんなことを考えましたか。</p>                                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>「今日の授業で学んだ大切なことは何か」</li> <li>「データの表し方にはそれぞれのよさがあるんだな」</li> </ul>                                                                                                  |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

□ = ICTの活用目的

〰 = 対話の活用目的

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                                                       | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>生徒が学習時間について関心をもつことができるよう、この単元の学びを振り返るスライドを準備し、モニターに映す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びを促すために、生徒の発言をつなぎながら学習課題を設定する。</li> </ul>                                                                                             | <p>見取りたい生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の学習時間が附属中学校1年生の中で長い方かどうかについて関心をもっている。</li> <li>自分たちで学習課題を設定し、どうすれば課題を解決できるのかについて、意欲を高めている。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>生徒が「自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうか」を知るための「どのようなたの表し方が適切かを検討する場を設ける。」<br/>ア) 集団での考察</p> <p>お互いの考えを瞬時に共有できるように、自分で考えた質問項目のキーワードをコーポノートに入力するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>質問項目を作成することが難しい生徒には、コーポノートに記入された内容をヒントにするよう助言する。</li> </ul> | <p>学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知るためには、中央値や累積度数を用いることが適切であると、理由を含めて話している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集団の真ん中よりも上か下かを分析したいから、中央値を使うとよさそうだな。</li> <li>累積度数が0.5を越えるかどうかでも分かりそうだ。</li> </ul> <p>データを集めるためのアンケートの質問を考案し、中央値や累積度数を用いて表すための説明を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生全体で考えてみるだけでなく、私は運動部に入っているから、運動部限定でも質問してみよう。</li> <li>集めたデータから中央値を求めることで、自分の学習時間が長い方かどうか知ることができる。</li> </ul> |
| <p>生徒が、自分が考えた質問項目とデータの表し方で、学習時間が長い方かどうかを知ることができると、学習時間についてペアでお互いに確認する場を設ける。ア) 集団での考察</p>                                                                                                                                                        | <p>集めたデータから中央値や累積度数を求めると、自分の学習時間が長い方かどうかを判断できることを、根拠を明確にして説明している。(観察・学習シート)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>生徒が本時の学びをまとめることができるように、大切にすることは何かについてキーワードを問う。</p> <p>お互いの考えを瞬時に共有できるように、コーポノートに記入した振り返りをモニターに映す。</p>                                                                                                                                        | <p>(記述例) データを集め、中央値や累積度数を用いて分析すると、自分の学習時間が1年生の中で長い方かどうかを知ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自らの変容を自覚したり、新たな問いを見出したりしている。</li> <li>データの表し方は目的に合わせて選ぶ必要がある。</li> <li>それぞれの表し方は何を知りたい際に選ぶだろうか。</li> </ul>                                                                                                                                                                                      |

ー本実践から見えてくることー

発問レベルを考える

共同研究者：佐藤 学

(秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻)

### 1. 発展型授業への取組とその実態

全国学力・学習状況調査、高等学校学習指導要領実施状況調査の質問紙調査から、小中高ともに発展的な学習の指導の取組は増えていますが、学習者が自律的に考えることについては、教師が問題を出して生徒が考えるという指導的発展型授業に留まっているようです（佐藤他，2022）。生徒の意識が働いて発展的に考える授業の実現にあたり、教師はどのような視点をもって支援にあたるとよいのでしょうか。

### 2. 本実践の考察から見えてくること

本実践は、中心が同じ大円と小円の間にできる道の面積が  $S=a^2$  に表せることを、他の図形についても考察し、一般式として捉えられることをねらっています。そのために、新たに考察の対象とする図形を何にするのかは、重要です。

新たに考察する図形を考えるのは、容易ではありませんでした。教師は、生徒の発想に期待して「この後、何を考えますか」の支援に徹していましたが、「 $a$  の値を変えてみる」「分からない」という反応が続きました。「円じゃない場合はどうなるのか」の発話を得られるまでの時間は 1 分 17 秒でしたが、それ以上に生徒の思考が停滞しているように見えました。

このように停滞したのは、教師の発問が、例 数学的対象と数学的考察が明確にしない、メタ認知的支援（表1、発問 A） であったからです。発問 C のように、数学的対象と数学的考察を明確にする認知的支援は停滞することなく進みますが、生徒は言われるままに「実行する」しかなく、生徒が考えるべきことが残っていません。学習の主体は生徒であるわけですから、生徒が思考すべきことを奪わないよう、教師は発問 A を心がけることが大切です。そのためには、日常的に生徒の思考に注意し、発問 A が

可能である要因を捉えていくことが大切です。本実践のように、発問 A が機能しない場合もあります。その場合は、発問 B<sup>1</sup> のように数学的考察だけでも明らかにする、発問 B<sup>2</sup> のように数学的対象だけでも明らかにするといった段階も必要です。そして、徐々に発問 A で機能するようにしていくことがよいと考えます。

表 1：発問レベル

| レベル               | 数学的対象  | 数学的考察      |
|-------------------|--------|------------|
| 発問 A ↑            | 何を     | 考えますか      |
| 発問 B <sup>1</sup> | 何か     | 同じようにいえますか |
| 発問 B <sup>2</sup> | 他の図形でも | 考えられますか    |
| 発問 C ↓            | 正方形でも  | 同じようにいえますか |

メタ認知的支援 A ← B<sup>1</sup>—B<sup>2</sup> → C 認知的支援

「 $a$  の値を変えてみる」という発話は、一般式にしたものを具体的に戻すので、問題解決を後退させるもので、発展的に考えることの難しさを示しています。しかし、これまでの学習において数量を変更することにより、見出した解決方法や概念、性質を広げてきた経験を基にした発話と見ることもできます。こうした生徒に必要なことは、 $a$  の値を変えてみることに一旦取り組み、問うべきことは他にあるとさらに考えることが必要と気づかせたいものです。そうすると、先の停滞状況は、多くの生徒が「問うべき問いは何か」を考えていたといえ、新たに考察する図形を考え出すことと同じくらいの価値があります。したがって、教師には、思考停滞の状況における生徒の発話や行動に、どのような意識が働いているのかを洞察し、その過程が重要であると価値付けていくとよいでしょう。

### 3. 本稿のまとめ

- 教師は、生徒の実態に合うよう発問レベルを調整し、生徒が自律的に発展的に考えていけるよう支援する。
- 教師は、停滞状況における生徒の意識を洞察し、価値付けていくことが求められる。

<引用文献>

佐藤学（2022）. 算数・数学における「自律的発展型授業」に関する質問紙調査の作成とその分析. 日本数学教育学会, 第 10 回春期研究大会, 当日資料.

一本実践から見えてくること

## 統計的探究プロセスを重視した

### 中学校数学科の授業デザイン

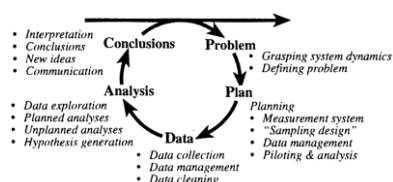
共同研究者：加藤 慎一

(秋田大学教育文化学部・英語・理数教育講座)

自分自身の学習時間が他の生徒と比べて長いといえるかについて、根拠を明確にして説明できるようにすることをねらいとした南先生の「データの活用」領域における授業である。

## 1 Data や Analysis, Conclusion を見据えた Problem と Plan

生徒における数学的に考える資質・能力を育成するために、「データの活用」領域における学習指導において、統計的探究プロセス(PPDAC サイクル)(図1)の充実を図ることが求められている(文部科学省, 2017)。



本実践では、特に、生徒 図1 (Wild & Pfanckuch, 1999) 自ら問題を設定すること(Problem), 設定した問題を解決するために必要となるデータは何かについて、そしてデータをどのように収集すればよいかについて考えること(Plan)を大切にしている。具体的には、自分自身の学習時間が他の生徒と比べて長いといえるかという問題を設定し、その問題を解決するためにどのようなデータが必要になるかについて、それらのデータを収集するためにどのような質問紙を作成すればよいかについて考える活動である。その過程において、生徒は、単に問題を設定したり、計画を立てたりすることに終始するのではなく、自分自身の睡眠時間が他の生徒と比べて長いといえるかという問題を解決した経験から、収集するデータによっては、根拠として平均値が適切にならない場合があることや、ヒストグラムでデータの散らばり具合を捉えることの必要性について説明するなど、Data や Analysis, Conclusion の段階を見据えて考えている様相

がみられた。

## 2 学びを創る責任を生徒に委ねること

授業の終盤において、生徒たちは、自分自身の学習時間が他の生徒と比べて長いといえるかを判断するために、収集したデータをどのように分析すればよいかについて認知的に葛藤していた。最終的には、南先生から、全体の50%よりも学習時間が長ければ、自分自身の学習時間が他の生徒と比べて長いといえるのではないかという理由から、中央値に着目することが重要であることを説明していた。

このとき、生徒たちは、学習時間が長いかどうかの「長い」を、どのように捉えていただろうか。もちろん、南先生の説明のように、全体の50%よりも学習時間が長ければ、自分自身の学習時間が他の生徒と比べて長いといえると判断する生徒もいるだろう。しかし、仮にデータを収集した結果、図2のようになった場合(中央値は1.5時間になる)、中央値によって学習時間が長いと判断すること

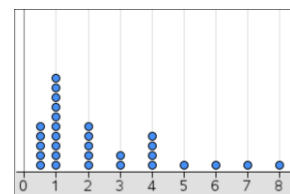


図2

には困難が生じることも考えられる。

学びを創る責任を生徒に委ね、教師が待つことも大切にしたい。認知的に葛藤している生徒に対する教師の支援が、ときには積極的な問題解決者として関与している生徒から、認知的に葛藤する機会を奪うことになりかねない。学びを創る責任を生徒に委ねる教室において、教師における「聞くという行為」が重要な役割を果たす。

教師における「聞くという行為」を大切にしたい授業を展開し、生徒における数学的に考える資質・能力を育成する今後の実践に期待したい。

### 参考・引用文献

文部科学省(2017). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 算数編.

Wild, C. J. & Pfanckuch, M. (1999). Statistical Thinking in Empirical Enquiry, *International Statistical Review*, 67(3), pp.223-265.

## 令和4年度の実践記録（理科）

## －実践記録（第1学年）－

## 1 単元名

「地層から読みとる大地の変化」

－時間的・空間的な見方を働かせて大地の成り立ちを問い直せるか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) 分析解釈が深まる問い直しの工夫

課題解決にあたり、曖昧な点を補うための追加実験や班同士のマーケティングディスカッションを行うことで、根拠の妥当性を高められるようにした。

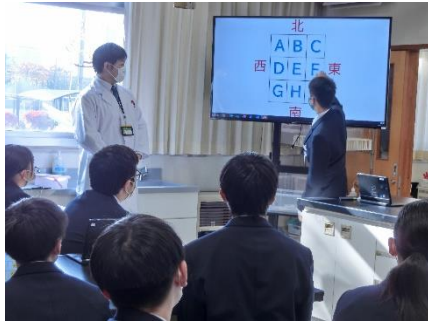
## (2) ICTの活用による科学的な視点の提示や転換

360° 全天球カメラでバーチャルツアーを作成することで、現地調査に近い状況を作った。実験の画像を他の班と比較することで、根拠の妥当性を高めた。実験の結果の提示や振り返りをJamBoardで行い、瞬時の共有化を行った。MetaQUEST 2を用いてVRで観察することで、地層中の柱状図を確認したり、安田海岸で実際に観察したりしている疑似体験を行った。

## 3 授業の実際

| 過程    | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 教師の手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題の確認 | <p>「教師の発問や指名」<br/> <b>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）</b></p> <p>1 前時までの学習を振り返る。<br/> 「安田海岸や、象潟の九十九島の様子を学習してきました。次は大仙市の先生の家の地下の様子を探ってみましょう。」<br/> <b>■既習事項を確認してボーリング調査を行い、未知の地下の様子を調べ地層の構造を推察する。</b></p>  <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>地下の見えない地層の広がりや傾きは、どのようになっているだろうか。</p> </div> <p>「ボーリング調査は1回30万円かかります。明確な方針がないと多額の予算を投じて掘らせることはできません。」<br/> <b>■1カ所では点、2カ所では線、3カ所では面になることを確認する。</b><br/> <b>■地層（面）の傾きは、東西の軸と南北の軸の2つの軸で考えることを確認する。</b><br/> 「学習班でどこを掘るのかを決めたらJamboardに入力しましょう。」<br/> <b>■面を調べるにはどこを掘れば良いのか、他の班の意見も参考にできるようにする。</b></p> | <p style="text-align: center;"><b>教師の手立て</b></p> <p>○：見取った生徒の姿<br/> ◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>前時までを想起できるように、安田海岸のバーチャルツアーを提示しておく。</p> </div> <p>○地層累重の法則や、水平堆積の法則を想起している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>モデル地層を寒天で作成し、地下の様子が分からないようにしておく。</p> </div>  <p>○学習班で東西方向と南北方向をどのようにして調べるか話し合っている。</p> |

「多くの班がまんべんなく掘るんですね。」  
 ■東西と南北の2つの軸が自分たちで決めた3カ所で本当に調べることができるのかを問い直す。



「その選択で、東西は分かるんですか？南北は分かるんですか？」  
 ■他の班の意見も取り入れながら、自分たちで再度考えさせる。

「6班はCDHを選んでいるのですが、どうしてですか。」

「1班はACIを選んでいますが、どうしてですか。」

「1班は東西と南北の2つの軸に平行ですね。6班は東西と南北に平行でないのですが、調べられるのでしょうか。」

「もう一度班で話し合っ、どこを掘ると東西方向と南北方向の傾きが調べられるのかを考えましょう。」

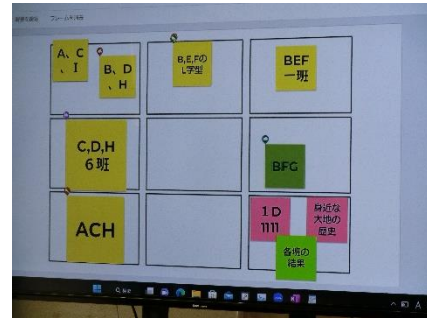


■振り返りで自己評価ができるように、今日の目標（評価）を確認した。

## 今日の目標

ボーリング試料や地層の図から地層の重なりを読みとることができたり、広がりや傾きについて南北や東西の2軸を根拠として推定し表現できたりしている。

○「AとGでは南北方向を調べることができる」  
 ○「AとHでは南北方向は確実に分かるのかな」

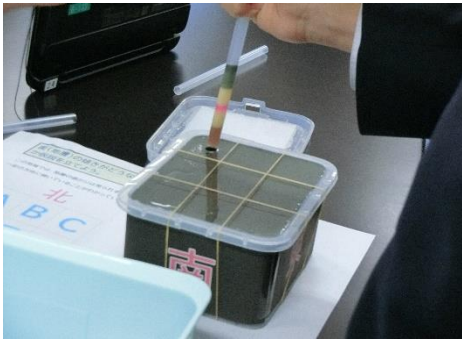


○「CとHで南北方向を調べます、CとDで東西方向を調べます」

○「3カ所を掘って面を調べるのだから直角がいいのではないか」

○「南北や東西の2軸を詳しく調べてみよう」

- 3 ボーリング調査を行う。  
「箱の中の地層の様子を、ボーリングを行って仮説を立ててみましょう。」



- ストローの中が見やすくなるように、タピオカ用の太いストローを準備する。



- ストローを立てて立体的に観察できるようにスタyroフォームを準備する。

「他の班の調査結果を聞きたいですか。3分時間を取るのでマーケティングディスカッションで聞きに行ってみましょう。」

- 4 4本目のボーリングを行う。  
「三春さんが、もう1カ所掘ると仮説がより確実になるので掘らせてほしいと言っています。追加予算を出しますのもう1カ所掘っても良いことにします。ただし、ここを掘るとこのような地層が出てくるはずだ、という予想を班でしっかり立ててから掘ってください。」



- 意欲的に予想を話し合っている。実験の結果を基に根拠をもって説明できている生徒が多い。

ストローがしっかりと押さえられ、ボーリングが的確に行われているか確認するために机間巡視を行う。

- 「地層は5層見つかった。3本とも鍵層の高さが違うな」

- 「東西方向は南に傾いているようだ」  
○「南北方向では西に傾いているようだ」

- 「ストローを立てると立体的で見やすくなった」  
○ふたを使って傾きを説明している班も見られた。  
○「他の班も南西に下がっている結果になっていた」  
○「他の班も、自分たちと同じ仮説を立てていた。自信がもてた」

もう一度ボーリングを行いたいという声がないか机間巡視で探し取り上げる。4本目のボーリングは、どのような層が出てくるか予想を立ててから掘らせるようにする。

- 三春さんが班の中でもう1カ所掘ったらより詳しくなるはずだと話している。

- 南西に地層が傾いているはずだから、南西側を掘ると全体的に下がっている様子が見られるはずだ。  
○中央を掘ると、端と端の中間くらいに鍵層が出てくるはずだ。

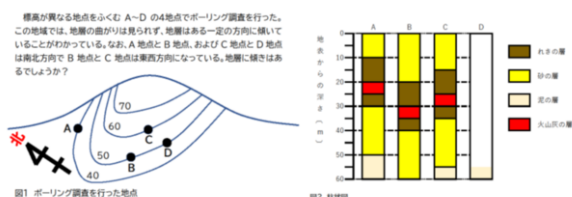
- 「自分たちが予想したとおりの地層が出てきた」  
○「予想が当たっていたということは、全体の層の傾きの仮説も正しいと言えそうだ」  
○「実験結果から立てた仮説は正しかった」  
○「東西方向と南北方向に分けて考えることができた」

「では、横の紙を取って仮説が正しかったかを見てみましょう。」



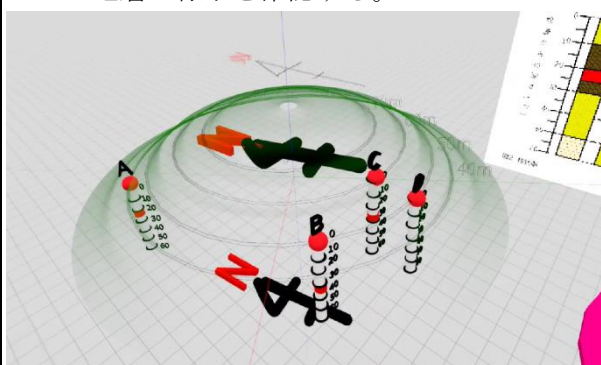
5 実際の地層では、どのようになっているのかを考える。  
「種子植物の実習を行ったときにお世話になった、大仙市にある農園です。この山に建物を建てるためにボーリング調査を行いました。柱状図から、地下の様子を推定してみましょう。」

■柱状図で地層の様子を確認する。

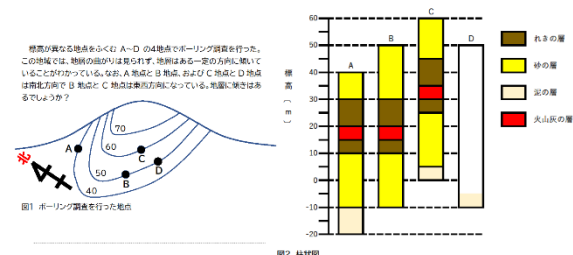


「柱状図は並べて考えてもなかなか分かりづらいですね。」

■VRで地層の様子を確認する。



標高をそろえてみました



◎実験の結果から、東西と南北の2軸を根拠として仮説を立てることができた。

- 「農園の地下も、地層は傾いているのかな」
- 「実際にある山の地下の調査では、どのような地層がでてくるのだろう」

- 「安田海岸のときも柱状図を見たけど、並べられるとよく分からない」
- 「掘った高さが違うと、並べて考えても難しいな」
- 「鍵層を使って傾きを調べることはできそうだ」

- 「山を動かしてすかしてみると地下の様子がよく分かる」
- 「地下の様子を横から観察したら、ボーリング調査の標高の違いが分かった」
- 「今回は柱状図をずらして標高を揃えることがポイントかな」

- 「標高を揃えた図を使うと、鍵層の高さの変化がよく分かった」
- ◎柱状図の標高を揃えることで、傾きを確認することができている

5 本時の学習を振り返る。  
 「今日行った実験から仮説を立てる流れは、実際に地質学者が行う研究と同じです。よく考えて仮説を導き出すことができましたね。」  
 「今日の振り返りをJamboardに入力しましょう。」

■振り返りの視点を伝え、自己評価ができるようにする。  
 「ボーリング試料や地層の図から地層の重なりを読みとることができたり、広がりや傾きについて方角を根拠として推定し表現できたりしている。」

振り返り

相手とのやりとりを通して改善できたことや、次時に取り組みたいことを書くよう指示する。

伝えなかった表現があればシートに書かせ、個別に添削することで個々の表現力上を支援する。

- 「実験では、ボーリング調査から仮説を立てることができた」
- 「自分の家の地下はどうなっているのかな」
- 「自分でVRを操作してみたい」
- 「△班の■さんの発表は分かりやすかった」

《生徒の振り返りから》

- ・ 今日の授業ではボーリング調査から地層の重なりを読み取ることができました。さらに班の人と協力して調査することができました。また、2つの軸を根拠として他の班の人に伝えることができて良かったです。
- ・ ボーリング調査をして、北東から南西に傾いていると仮説を東西と南北の2軸から立てて表現することができました。また、少ない本数で調査をするためにしっかり考えて3本ですることができました。
- ・ できるだけ少ない3回でボーリング調査をして、藤原先生の家の下の方の様子を探ることができました。特定の場所から中の様子を探ることができたので空間的な見方のコツを掴めました。
- ・ 今日は、ボーリング調査をしてどの方角に傾いているのかを予想を立てて調べることが出来ました。限られた本数で調べることは難しかったですが、工夫して調査することが出来て良かったです。

4 批判的・実践的省察

(1) 分析・解釈が深まる「問い直し」の工夫

ボーリング調査では、実験で掘った3本の資料から地層の傾きの仮説を立てた。もう1本掘るとしたらどこを掘るか、また、どのような層が見られるのかを考えてから追加実験を行うことで空間的な見方・考え方を働かせて分析・解釈を行い根拠をもとに論理的に説明する力を培うことにつながったと考える。また、過去の実験で使ったサクランボを栽培している農園を例に挙げながら、身近な場所の地層を調べた。実際の地層の柱状図から傾きを読みとるには標高を揃えることが必要になってくることに気付けるように工夫した。

(2) ICTの活用による科学的な視点の提示や転換

コロナ禍にあって、地層の観察はなかなか行うことができない。そのため、ICTを活用して秋田県



のジオパークである安田海岸をデジタルツアーで観察できるようにした。360° 全天球カメラを用いてバーチャルツアーを作成し、生徒はPCから自分が見たい層に移動して観察することができた。また、地中の柱状図の観察では、MetaQUEST2のGravitySketchを用いてVRで観察し、標高の違う柱状図を観察し、標高を揃えることで地層の広がりを知ることができることに気付くことができた。全体での意見の共有や振り返りでは、Jamboardを使うことで瞬時の共有化を図ることができた。また、振り返りを積み重ね、自分がどのような振り返りをしてきたのかを即座に見ることができるのは、学びの足跡と成長を確認することに非常に有効であった。

## 理科学習指導計画

学級 1年D組 32名  
 授業者 藤原正貴  
 共同研究者 原田勇希

### I 単元名と指導のポイント

「地層から読みとる大地の変化」

一 時間的・空間的な見方を働かせて大地の成り立ちを問い直せるかー

### II 単元について

地質事象について小学校での学習を発展させ、地層や岩石の観察を通して観察の仕方やスケッチの方法を習得し、観察、実験の結果や試料をもとに、大地の過去を読み取れる地層などを学習する単元である。特に、大地の変化は、日常生活に深く関わり合う自然現象であり、防災の意識を育てることが出来る。

小学校では、第4学年で「雨水の行方と地面のようす」、第5学年で「流れる水の働きと土地の変化」、第6学年で「土地のつくりと変化」について学習してきた。本単元は、小学校での学習経験をもとに、観察、実験を通して、そこで生起する地質的事象に関心をもち、それらの事象は長大な時間と広大な空間の中で互いに関連しながら、絶えず変化してきたものであることに気付かせることに適している。「時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりする」という見方・考え方を働かせ、大地の成り立ちと変化についての観察、実験などを行い、地層について理解できる単元である。それらの観察、実験などに関する基本的な技能と、「結果や資料を分析して解釈し、特徴や規則性を見いだして表現すること」や「探究の過程を振り返ること」という資質・能力を身に付けることができる学びになると考えている。

### III 生徒観と指導観について

生徒たちは、テレビやインターネットを通して、火山や地震などの現象についての映像を目にする機会も多く、地震の揺れも経験している。しかし、そのような経験がある生徒でも、大地が長大な時間の中で絶えず変動し続けていることについてはなかなか認識できていない。大部分の生徒は、大地は動かないものと思っており、大地の変動について地質時代の長大な時間と地球レベルの広大な空間でとらえるという地学特有の見方・考え方は育っていない。大地の観察活動においても、露頭のスケッチにおける比較、計測、分類、記録、類推などの観察力も十分とは言えない現状にある。

また、本校の生徒は既習事項から推論したり考察したりする力が高いが、知識に比重を置きがちであり、本質的な部分を根拠を基に説明する力に課題がある。そのため、本単元では地学の基礎的・基本的な知識と秋田県のジオパークの一つである安田海岸の地層を舞台にして、時間的・空間的な見方・考え方を働かせ、観察、実験の結果を根拠として大地の成り立ちを説明する力を培いたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

地層のパワーチャートツアードでの観察結果やモデル実験などの体験を基に、科学的に思考・表現する場を多く設ける。地層の広がりに関しては、内なる視点（実際の露頭でのながめ）と外なる視点（写真や模式図を見るときのがめ）との視点移動がスムーズに行えるようにしたい。

本時の「問い直し」では実際のボーリング調査では標高が異なるという例を取り上げ、ICTを活用しVR空間で火山灰層をボーリング地点に当てはめて傾きを確認する活動を取り入れる。仮説→検証→考察のプロセスの中で多様な意見に触れながら、Jamboardを用いて仮説や検証方法の妥当性を検討したり、考察を深めたりできるよう、生徒主体の学びを実現したい。

## V 目標

- (1) 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、地層の重なりと過去の様子についての基本的な概念や原理・法則などを理解できる。また、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。
- (2) 地層の重なりと過去の様子について、問題を見いだし見直し見通しをもって観察、実験などを行い地層の重なり方や広がり方の規則性などを表現することができる。
- (3) 地層の重なりと過去の様子に関する事物・現象に進んで関わり、見直しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を培いながら、自然を総合的に見ようとする。

## VI 全体計画（総時数9時間）

- 1 地層のつくりとはたらき・・・（1時間）
- 2 堆積岩・・・（1時間）
- 3 地層や化石からわかること・・・（1時間）
- 4 大地の変動・・・（1時間）
- 5 身近な大地の歴史・・・（5時間）

| 時数        | ねらい・学習活動等                                                                                                                  | 評価の観点 |   | 評価方法と指導の留意点等                                                                                                                                                                                               |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                                                                                            | 知     | 態 |                                                                                                                                                                                                            |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>安田海岸の地層から、どのようなことを読み取ることが出来るのかを考え話し合う。</li> <li>安田海岸の地層の形成過程について仮説を設定する。</li> </ul> | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の学習から、露頭の観察を行うための方法を考え、露頭の観察の計画を立案し、課題を見いだし見通しを見取る。（発言分析・行動観察・記述分析）</li> </ul>                                                                                    |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層のようすをスケッチする。</li> <li>ミクロの視点で地層のようすを調べる。</li> </ul>                               | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>露頭の全体像を把握しながら、スケッチで記録し、堆積岩の粒子の大きさや、色の違いなどから異なる層があることを見いだしたりして見るかを見取る。（発言分析・記述分析）</li> <li>露頭の観察記録をもとに、各層のでき方（堆積環境）や環境の変化を推定しているかを見取り、全体を紹介する。（発言分析・記述分析）</li> </ul> |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>大地の過去のようすを考え、マクロの視点で地層のようすを調べる。</li> </ul>                                          | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層を東西、南北の2軸の方向で捉え、空間的な見方を働かせることができるようにVRを用いる。</li> <li>ボーリング試料や地層の図から地層の重なり方を読み取り、広がりや傾きについて根拠をもって推定し表現しているかを見取り全体を紹介する。（発言分析・記述分析）</li> </ul>                      |
| 本時<br>4/5 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボーリング実験を行い、柱状図を作成して地層の重なりを推定する。</li> <li>空間的な見方を働かせ、根拠をもって推定し表現する。</li> </ul>       | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層の年代を捉え、時間的な見方を働かせながら推定し、表現することができるかを見取り全体を紹介する。（発言分析・記述分析）</li> </ul>                                                                                             |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>ボーリング実験の柱状図から、地層の形成過程を推定する。</li> <li>時間的な見方を働かせ、根拠をもって推定し表現する。</li> </ul>           | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>地層の年代を捉え、時間的な見方を働かせながら推定し、表現することができるかを見取り全体を紹介する。（発言分析・記述分析）</li> </ul>                                                                                             |

Ⅶ 本時の計画

1 ねらい  
 ポーリング試料や地層の観察の結果を分析し解釈する活動を通して、地下の地層の広がりや傾きについて、既習の内容と関連付けながら推定し表現することができる。

|      |                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2 展開 | 過程                                                                                                                                                          | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 問い   | <p>学習活動・主な発問等</p> <p>1 360°画像を見ながら、地層の重なり方を振り返る。</p> <p>2 学習課題を確認し、実験計画を立てる。</p> <p>地下の見えない地層の広がりや傾きは、どのようにになっているだろうか。</p> <p>箱の中の地層は、どうやって調べたらよいでしょうか。</p> | <p>想定される生徒の学習状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地層は古い順に積み重なっている」</li> <li>「曲がったり割れたりしていることもある」</li> <li>傾きを調べるにはどこを調べると分かるかな</li> <li>「ポーリング調査をすればいい」</li> <li>「ポーリング調査は、何カ所行えばいいのだろうか」</li> </ul>                                                                                                |
| 直し   | <p>3 箱の地層に対しポーリング調査を行い、試料を採集し、地層の広がりや傾きをグループで推定し表現する。</p> <p>4 3D地形を用いて、地層の広がりや傾きを個人で推定し表現する。</p> <p>3Dモデリングされた仮想の地形でのポーリング調査と比較してみましょう。</p>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>「面を調べるから3カ所掘ろう」</li> <li>「ポーリング試料を並べて地層の高さを比較してみよう」</li> <li>「南北方向と東西方向の2つの軸で考えてみよう」</li> <li>「方向と傾きを考える必要があるな」</li> <li>「実際の地形は、ポーリングを行った調査地点の標高が違うな。」</li> <li>「標高をそろえることが必要だな」</li> <li>「地層を見付けて広がりや傾きを考えるのは、箱の考え方と同じだな」</li> <li>「JamBordで他の人の意見も見てみたい」</li> </ul> |
| 振り返り | 表現・伝達                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>「他の班のデータも参考にすることでより説明がしやすくなった」</li> <li>「火山灰層の位置で傾きを考えることができた」</li> </ul>                                                                                                                                                                                              |

※「主体的な行動力」「独創的な発想力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

□ = ICTの活用目的  
 □ = 対話の活用目的

|                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                                                                                      | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>地層の重なり方の既習事項を振り返るために、男鹿市安田海岸の360°パナーチャルツアを提示する。</li> <li>本時の目標と評価基準を伝える。</li> <li>モデル実験用に、中が見えない箱に地層を作り準備しておく。</li> <li>地層の広がりや傾きを調べるために、ポーリング調査のモデル実験を演示してみせる。</li> <li>実際のポーリング調査は、1回の調査で多額の費用がかかるため、最小限の回数にする必要があることを伝える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>見取りたい生徒の姿</li> <li>地層ができた要因について、時間的・空間的な見方・考え方を働かせている。</li> <li>地層は下に行くほど古い層になるな。</li> <li>課題の解決には、ポーリング調査が有効であることに気付いている。</li> <li>ポーリング調査は、最低でも3カ所必要であることに気付き始めている。</li> <li>東西方向と南北方向の両方を調べる必要があるな。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ポーリング試料を比較するための地層層が分かりやすくなるように赤色で着色しておく。</li> <li>発表の機会を増やし、他の班のデータを参考にできるように、考察を発表する場を設ける。</li> <li>イ) 認知過程の外化</li> <li>瞬時の共有化のためにJamBordを準備する。</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>東西南北のどの方向に傾いているのかを、3カ所のポーリング試料を基に考えようとしている。</li> <li>傾きとなる火山灰層から傾きを導き出そうとしている。</li> <li>この地層は水平ではないな。</li> <li>傾きに傾いているぞ。2つの軸で考えよう。</li> </ul>                                                                    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>空間的に地層を捉えることができるように、VRを用いる。</li> <li>空間的な見方を働かせるために、方位と傾きに注目して地層の広がりを表現する場を設定する。</li> <li>試行の繰り返しができるように、OneNoteに考察を記録できるように促す。</li> </ul>                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>ポーリングの結果を、地盤からの標高をそろえることで地層の傾きを考えている。</li> <li>ポーリング試料や地層の図から地層の重なり方を読み取り、広がりや傾きについて東西と南北の2つの軸を根拠として推定し表現することができる。</li> <li>(PowerPoint, OneNote)</li> </ul>                                                      |
| 他者の思考を瞬時に共有できるように、大型モニターに振り返りを映し出せるように準備しておく。                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して実験の過程が適切であったか振り返っている。</li> <li>ポーリング調査を行い、火山灰層を調べること、地層の傾きを知ることができた。また、VRを使用すると傾きのようすがさらに分かりやすくなった。</li> </ul>                                                                                              |

ー本実践から見えてくることー

理科における「見方・考え方」を効果的に  
働かせる文脈設定と教材のあり方

共同研究者：原田 勇希

(秋田大学教育文化学部・英語・理数教育講座)

## 1 はじめに

秋季公開研究協議会で公開された授業、「『地層から読みとる大地の変化』ー時間的・空間的な見方を働かせて大地の成り立ちを問い直せるかー」は、主に以下2点について、今後の授業づくりに生かすべき重要な視点を提供したと考えられる。

## 2 「見方・考え方」を働かせる優れた文脈設定

理科における「見方・考え方（“*discipline-based epistemological approach*”）」とは、自然科学に特有な認識論的接近を指し、これは「深い学び（“*authentic learning*”）」の実現のために不可欠である。つまり、理科授業の中で学習指導要領が求める学びを実現するためには、自然科学が実社会で展開される文脈（すなわち、科学者による科学、市民による科学）を授業に持ち込み、子どもがそれを追体験する機会にできるかが鍵となる。

秋季公開研究協議会で提案された授業の題材は、「ボーリング調査の結果をもとに地下の地層の様子を推論する」ことであり、これは実社会で展開される自然科学の具体的な文脈である。このとき科学者などの調査主体は、ブラックボックスである地下の空間的構造を推論するため（目的論、すなわち「見方」）、まずどの地点をサンプリングすべきかを例えば条件制御の考え方に基づいて決定したり、得られた多地点のデータをもとに比較したり、多面的に考えたりする（方法論、すなわち「考え方」）。

本授業は、この題材が持つ「深い学び」の実現可能性を可能な限り生かせるよう、「（教師の）家を建てる際の調査」という具体的文脈と、「ボーリング調査に要するコスト」という実社会に存在する調査上の制約を与えることで、真正（*authentic*）

な自然科学を教室に再現し、子どもが科学者などの調査主体と同様の「見方・考え方」を働かせながら探究する場を実現したと考えられる。

また、この文脈設定を生かした教師の発言や発問、授業運営も重要な効果をもたらした。例えば、3回の調査に基づき地層の傾きの「仮説」を立て、その仮説に基づいて4本目の調査で得られるであろうデータを具体的に「予想」してから調査を行うように促したことは、現実の科学における仮説演繹法を授業に持ち込んだ出色の事例と言えよう（また、この展開が子どもの発言を拾って即興的に行われたものであることも追記しておく）。

## 3 「見方・考え方」を働かせる優れた教材研究

実社会で展開される自然科学の文脈を重視し、それをそのまま理科の授業に持ち込もうとすると、ときに子どもにとって解決したい、または解決すべき事柄から遠ざかり、却って虚構性を強調しかねないというジレンマに陥ることがある。

本授業では、寒天を用いた地層モデルを教材としたことで、学習課題に現実性を与えることに成功した。これを可能にした要因は、本授業が①現実（自然の事物）を精度良く近似したモデルである教材に対し、②現実の科学者が実際に行う目的（見方）と方法（考え方）により接近することを重視した点にあると考えられる。すなわち、子どもにとって想像するしかない実社会の文脈を探究の対象とするのではなく、実社会の文脈を精度良く近似した眼前の教材に対して喚起される「問い」を探究することで、間接的に真正（*authentic*）な自然科学を教室に再現したのである。

このとき、教材がどの程度自然の事物を近似できているかが問題となる。本授業で提案された教材は、地下の様子がブラックボックスになっていること、ボーリングによって地層の重なり方が部分的に明らかにできること、得られたボーリング結果を並べて視覚的に比較できることなど、実際の地層やボーリング調査の重要な要素を精度良く近似している。このことが、子どもの学びにより一層の真正性を与えたのではないだろうか。

## 令和4年度の実践記録（音楽）

## －実践記録（第2学年）－

## 1 題材名

「詩のイメージに合った歌をつくろう」

－ 教育用ボーカロイドを活用した知覚と感受の視点で歌をつくる活動は、より豊かな感性の伸張につながったか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) 「ボーカロイド教育版」を活用することで、生徒が直感的な旋律づくりに取り組む

「ボーカロイド教育版」を活用して、生徒が詩のイメージから感受したことを、音楽の要素を知覚しながら直感的な歌づくりに取り組んだ。それによって、より意欲的で個性的な創作活動につながると考えた。

## (2) 音楽科における「プログラミング学習」の実践

生徒は、音の長さ・高さ・リズムを組み合わせるなどのさまざまな内容を深く考え、試行錯誤を重ねて詩のイメージを伝える歌の創作に取り組んだ。それによって、論理的な思考力を育むことができると考えた。

## 3 授業の実際

| 観             | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                         | 教師の手立て                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 題材の設定<br>(問い) | <p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図(教師の試行錯誤)</p> <p>1 本時の課題を確認し、発表の準備をする。</p> <p>■本時の課題や流れを確認し、発表の準備をしているか、生徒の様子を確認する。</p> <p>■タブレットの起動を確認して、本時の授業において、支障のある不具合がないか机間指導しながら確認しておく。</p> <p>「今日の課題は『詩のイメージを伝えて作品を発表し、仲間の作品の工夫した点を見つけよう』です。各グループで自分たちの作品を披露して、その作品の工夫点を発見しましょう。」</p> | <p>○：見取った生徒の姿</p> <p>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <p>発表の手順を確認し、グループ内の役割分担の確認するように指示する。</p> <p>苦手意識をもつであろう生徒も前向きに取り組めるよう、サポートできる生徒を意図的に入れたグループ編成をしておく。</p> <p>○グループの役割を確認し、本時の活動に入る準備ができている。</p> <p>○本時の創作活動の流れと見通しをもっている。</p> |
|               | <p>2 グループごとに作品の紹介を行う。発表は、詩から感じたイメージを発表し、ボーカロイド教育版を使って作品を披露する。</p>                                                                                                                                                                                                            | <p>各グループの工夫点を各自がメモできるように、コラボノートを準備しておく。</p>                                                                                                                                                                              |

「各作品の工夫点を見つけ、コラボノートにメモしていきましょう。」

■各班の工夫点を生徒一人一人が考え、それらをメモしていくことで、この後のグループでの話し合いを活発にしたい。

■各班とも自らタブレットを操作し、大型ディスプレイに接続してボーカロイド教育版を使って作品を再生することで、ICT機器を柔軟に使うことができる生徒達にしたい。

■自分たちの作品を、自らICT機器を使って伝えることで、主体的な態度が育っている。

■発表の間は、生徒の作品を確認し、工夫している点を教師の視点で見つける。また、生徒達の主体的な態度についても観察する。

「みなさんが記録したメモは、全員で共有することができます。どんなことを見つけたか、後で確認しておきましょう。」

■コラボノートの特徴である全員で内容を確認することができる長所を生かして、自分たちの作品に対する仲間の考えを知り、自らの作品を多角的に評価することができる。

「それでは、各班からの発表をお願いします。」



詩から感じ取ったイメージを簡潔に伝えて、ボーカロイドの演奏をするように伝える。

自分たちのタブレットを使って発表した後に、音楽室のオーディオを使ってもう一度聴き直すことで、作品の雰囲気を感じ取ることができるようにする。

○「空への疑問を表している感情をイメージした。分からないことを空に訪ねているような曲にした」

○「跳躍した音のつながりを少し入れよう」

○「繰り返しの部分を入れよう」

○「優しい感じが伝わってきて、どこか神聖で静かなイメージ」

○「欲張らない人間の美しさを感じる」

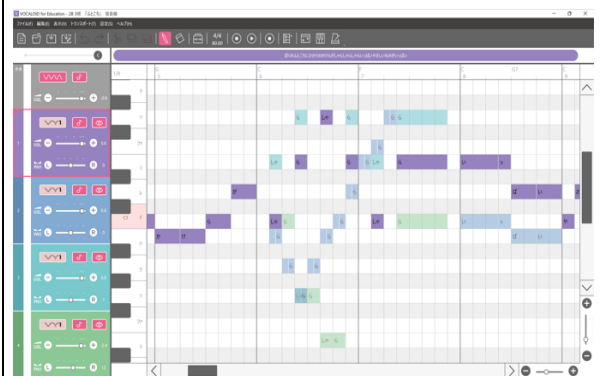
○「人間の複雑さや醜さを表す」

○「風を感じるくらい静かな情景や自然全体が生きているというイメージ」

○各グループで役割を決め、自分たちが感じ取ったイメージを伝えていた。

○タブレットPCやボーカロイド教育版を自ら操作して再生することで、自分たちの作品を発表した実感をもつことができた。

○音楽室のオーディオで、さらに充実した音で聴くことで、作品のよさや雰囲気をじっくり味わうことができている。



音楽活動

(知覚・感受)

言語活動

3 印象に残った作品から、詩のイメージを伝えるための工夫点について話し合い、ホワイトボードにまとめる。

「印象に残った作品の工夫点について学習グループで話し合い、考えをまとめて発表しよう。」

「ホワイトボードには、自分たちが見つけた工夫点は黒、イメージは赤、自分たちの工夫点と似ている点は青にしてみましょう。」

「音楽を構成する要素〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャ〉に着目して工夫点を説明しよう。」

「もう一度聴いてみたいグループの曲は、自分たちのタブレットを Teams に接続して聴いてから、話し合いに向かってください。」

■ ミエルトークで自分たちの考えを視覚化して、より活発な話し合いになるようにする。

■ 視点の違いを、色を変えてボードに書くことによって、より多角的で深い考えに到達できるようにする。

■ ICT機器を活用して、作品を聴き直すことで、より工夫した点を深く考えることができるようにした。

「完成したホワイトボードは、タブレットで写真を撮り、コラボノートに貼り付けしておこう。」

■ ホワイトボードに記載した内容を互いに共有し、後で確認できるようにする。



ミエルトークで話し合いを行うことを指示し、音楽を構成する要素に着目するように助言する。

各作品を聴き直すことができるように、演奏データを Teams に一元化しておく。

② 印象に残った作品の工夫点について学習グループで話し合い、考えをまとめよう。

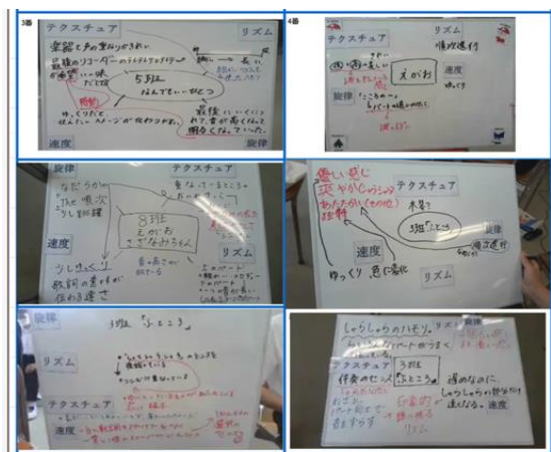
- ・ミエルトークで話し合おう。
- ・今日の中心題は、「〇班 題名」
- ・ボードに 黒（工夫した点）  
→ 赤（～なイメージ）  
青（自分たちの工夫と似ていること）

・ボードが完成したら、タブレットのカメラで撮影。「元の大きさ」にチェックを入れて、コラボノート（ボーカロイド発表会②）に貼り付けよう。

- 「もう一度あの作品を聴いてみよう」
- 「〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャ〉の、どの要素に着目しようかな」
- 「この作品は、伴奏や旋律が詩のイメージによく合っているな」
- 「この詩から穏やかなイメージを感じた」
- 「ボーカロイドの演奏が、自分たちのイメージ通りでよかった」

◎ 詩のイメージを伝えるために試行錯誤した曲作りの工夫点を考え、伝え合うことができている。

ホワイトボードに記載した内容を互いに共有しその記録が残るように、生徒自身で内容を写真に写してコラボノートに貼り付けるように指示する。



4 グループごとに、自分たちが見つけた作品の工夫点を発表する。

「アシスタントさんとミセルさんで発表をお願いします。」

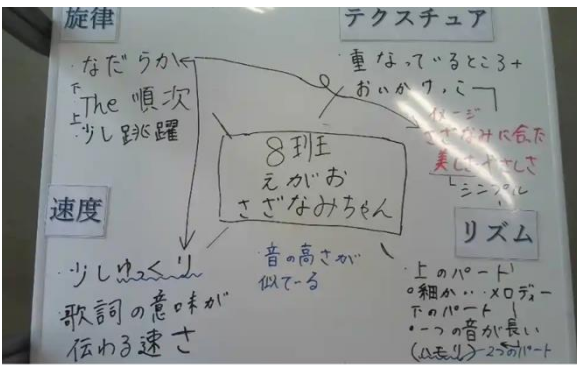
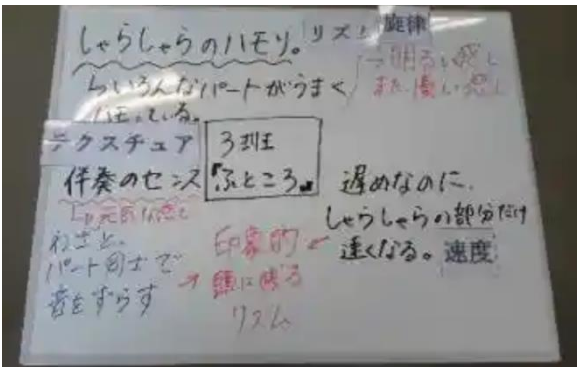
「自分たちの考えと比較しながら聴きましょう。」

■日頃行っている発表の方法を使うことで、自分たちの考えをより自由に表現できるようにする。

■自分たちが考えた工夫点と比較することで、自分たちの考えを更に深めさせたい。

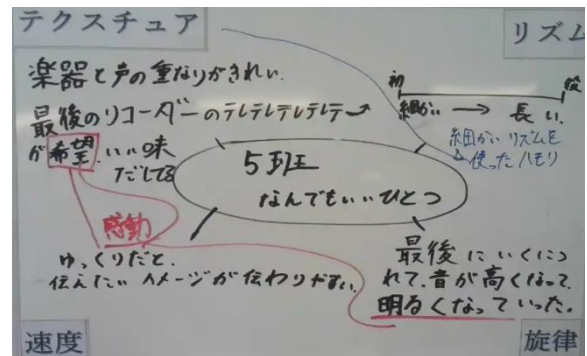
「実際に自分たちの工夫した点はどんなことであったか、発表していただけますか。」

■発表した工夫点は、そのグループが実際に工夫したことであったかを確認することで、互いの考えを尊重し合う姿勢を育て、自分たちの考えにより深い価値付けをつけさせたい。



学習グループ(ミエルトーク)のルールで発表するように指示する。

- 「優しい感じの伴奏を選んでいた」
- 「『シャラシャラ』のオノマトペのところを、リズムをずらすなどして工夫していた」
- 「『シャラシャラ』の部分を強調するために、リズムを細かくしていた」
- 「前半は順次進行、そして『シャラシャラ』の部分では、音の重なりを増やして強調していた」
- 「最初順次進行であり音も重ねていないところが、自分たちの工夫した点と似ていた」
- 「速度がゆっくりで、優しい感じが伝わってきた」
- 「リズムを細かくすることで、テンポが速くなったような錯覚が感じられた」
- 「リズムをずらすことで、印象深い部分になる」
- 「後半の部分になると音域が高くなり、明るい感じが伝わってくる。」
- 「最後のリコーダーの音色が希望を表していて、この班が伝えたかった詩のイメージにつながっている」
- 「さざ波を、重なっている旋律や追いかけてこしている旋律で表していた」
- 「旋律がなだらかなことと、速度がゆっくりなことが、さざ波を表す工夫であった」





|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 過程の評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>5 本時について、振り返りを行う。</p> <p>「今日の振り返りを、コラボノートのリフレクションシートに記入しよう」</p> <p>■リフレクションシートの一元化と評価を円滑にするために、コラボノートを活用する。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>コラボノートを使ったリフレクションシートに記入するように指示する。</p> </div> <p>○本時の活動について、自分の活動を具体的に振り返ることができている。</p> |
| <p>《生徒の振り返りから》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他班の発表を聞いて、僕の班の曲は少し盛り上がり欠けている感じがしました。もう少し印象に残る部分をつくることも必要だと思いました。</li> <li>・強調したい部分が、いくつかの工夫でより印象に残りやすい曲になっていると感じました。他のグループの意見から、より工夫がわかりました。</li> <li>・細かいリズムでハモリを入れたり、他の所はシンプルにしたり、私たちのグループで考えた工夫をした歌ができたと思います。他の班の歌を聴いて、様々な工夫を知ることができてよかったです。</li> <li>・みんな同じボカロのソフトを使っているのに、それぞれのよさがある全く違う曲ができているのが面白いと思いました。これからもこのソフトを使うと思うので、今回の発表から学んだ工夫する点やイメージを生かして作品づくりに取り組んでいきたいです。</li> <li>・「シャラシャラ」の部分だけをいろんなリズムを使ってハモらせたことで、あふれ出す感じがみんなに伝わってよかったです。</li> <li>・他の班は、自分たちとはまた違った工夫をしていて、おもしろかったです。3班の「シャラシャラ」のハモリが頭に残りました。次に歌を作る機会があったら、頭に残るリズムはどうやったらつくることができるのかを考えてつくってみたいです。</li> <li>・他のグループの作品を聴いて、詩のイメージに合うような旋律とテンポでした。全員が全然違う曲になっていたことがすごいと思いました。今度またつくる機会があったら、他のグループのも参考にしてみたいです。</li> <li>・今日はいろんな班の曲を聴いてたくさんの工夫を見つけることができました。音の重なりを工夫したり、音をずらしたりして印象的な曲をつくっていたのですごいと思いました。</li> <li>・今日はいろいろな班の発表を聴いて、自分のグループの改善点や、改めてよいと思ったところが見つかりました。自分たちのグループは他の班と比べてたくさんの音を使っていたと思います。これからもボーカロイドを使っていろいろな曲をつくりたいです。</li> <li>・今回の授業で、他の班の発表を聴いて、「最初に伴奏を決めておけば」という気持ちになりました。私自身も作曲に関して何も知らない身なので、「コードガイドを使ってハモリを考えればよかったな」と思いました。</li> <li>・詩のイメージに合ったボーカロイドをつくってみて、その詩から感じたイメージを自分の音楽にして曲に表すことができました。また、他の人の作品を聴いて、それぞれ曲から感じたイメージが違ったりするのがわかりました。そのイメージを伴奏・リズム・速度・ハモリなどのすべてで表されており、どれも魅力的な音楽でした。また自分でボーカロイドをつくる機会があったら、今回他の人から学んだ工夫を使って、さらにより作品ができるようにしたいです。</li> </ul> |                                                                                                                    |                                                                                                                                                                     |

#### 4 授業の省察

- (1) 今回「ボーカロイド教育版」を活用して授業をつくろうとした動機は、生徒が直感的な操作で自分の表現したいことを形にすることで、より意欲的に活動し、独創的な作品づくりができるだろうと考えたからである。実際に題材を展開していくと、楽譜の知識や記譜の技術が高い生徒だけでなく、全員が音の要素（リズムや速度、音色やテクスチャなど）をよく考えて創作活動に向かうことができていた。これは、まさしく直感的な操作で曲を完成させることができる「ボーカロイド教育版」の利点を生かした授業展開であったと考える。その利点の一つは、音符を使った記譜ではなく、音価と音高をブロックで表して創作する方法である。音符を使って五線上に書いていく知識と技術は、音楽に専門的に携わっていない生徒にとって高い壁である。だが、ブロック状で表した音価や音高は、まさしく直感的な感覚で旋律をつくり上げていくことができる内容であった。もう一つは、伴奏の和音構成音が操作画面にガイド表示されることである。和音の構成音を五線上で考えていく作業は、音楽に専門的に携わっていない生徒にとって慣れない作業である。それらを視覚的に分かりやすく示す「ボーカロイド教育版」の機能は、直感的な操作で曲づくりをすることにつながっていた。これらの直感的な操作によって、生徒は詩のイメージから感受したことを基に、音楽の要素を知覚しながら旋律を考えて曲づくりに向かうことができたのであろう。そして、より一層個性的な作品づくりにつながったと考える。今後の課題としては、生徒が「ボーカロイド教育版」で直感的に行ったことを五線上の楽譜の知識・理解として身に付けることができないかということである。今回は、「ボーカロイド教育版」の利点をフルに生かした内容であったが、楽譜としての知識・理解と連動することで、より深い音楽性を追究した作品づくりや、他の表現活動につながる創作活動になると考える。現在の「ボーカロイド教育版」では、五線上に記譜する機能は備わっていない。他のソフトやWebアプリを活用することで、五線としての知識・理解にもつながるものと考えられる。また、ソフト自体の表現力も課題である。あくまでも「ボーカロイド教育版」は、操作性を重視したものであり、ボーカロイドの表現力を追究したものではない。それゆえに、ボーカロイドの声は機械的であり、そこに音楽的な表現を求めるのは無理がある。自分たちで演奏したり歌ったりするためのツールとしての利用はよいが、最終的な作品としては、音楽表現の豊かさという点で物足りないのである。無論、教育版でないボーカロイドは、より高い表現力を有している。また、今後ソフトがよりアップデートされ、さらにリアルで音楽表現の豊かな「ボーカロイド教育版」も登場することであろう。これらの課題がある中、ICT機器を活用した創作活動の一例として、本実践は示すことができたのでないだろうか。今後も、このようなICT機器の活用によって、生徒一人一人の表現力や独創性をより高めていくことを目標に、創作活動を進めていきたい。
- (2) 本実践は、音楽家における「プログラミング学習」を意識している。詩から感じ取ったイメージを感受し、それらを具現化するために音の長さや高さを入力し、それらを聴いて修正し、試行錯誤を重ねて一つの曲を完成させていく作業は、プログラミング学習の思考と重なると考える。授業で生徒たちは、「ボーカロイド教育版」でつくった旋律を聴き直して、何度も修正を重ねながら創作活動に向かっていた。その修正する過程では、音の高さや長さ、テンポや伴奏の種類など、様々な音楽的要素を知覚することができていた。順次進行や跳躍進行など、以前の学習内容も生かしながら試行錯誤を重ねている様子も伺うことができた。これらの思考は、まさしくプログラミング的な思考と重なっている。また、このような「プログラミング学習」は、他の活動でも取り入れることができることを改めて感じた。例えば、合唱活動で自分たちの歌声を聴き直し、表現や技能に関して試行錯誤して、歌声を作り上げていく過程などは、まさしくプログラミング的な思考を生かした活動ではないだろうか。今後、このような「プログラミング学習」を更に取り入れていくことで、生徒の論理的な思考を育てていきたい。

## 音楽科学学習指導計画

学級 2年B組 31名  
 授業者 清水 功一  
 共同研究者 石原 慎司

### V 目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、歌をつくることができる。
- (2) 旋律、リズム、速度、テクスチャアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつとともに、曲に対する評価とその根拠について自分なりに考えながら、互いの作品を聴き合うことができる。
- (3) ポーカロイド教育版を用いた歌をつくる活動に関心をもち、主体的・協働的に創作と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

### II 題材について

本題材は、既存の詩から自分たちが旋律にしたい詩を選び、そのイメージを自分の言葉で具現化していく。そのイメージを基に、知覚と感受の視点で歌を創作するという内容で構成している。知覚と感受の視点とは、作曲者が詩のイメージを感じ、それを音楽として表現するために必要な旋律の音と音のつながりやリズム、速度や音の重なりを考え、それらを知覚することである。この視点を加えることにより、創作に向かう生徒の手順が明確化され、これまでに培った「感性」や「知識」「技能」を最大限に生かしながら、創意工夫する力の育成を機能的に図ることができる。なお、生徒は1年次の「いろいろな音階をつかって旋律をつくろう」という題材において創作活動を行っており、自分たちが選んだ音階を使って、順次進行や跳躍進行の特徴を使いながら旋律づくりを行っている。また、歌づくりで使う詩は、国語科の授業で学習している谷川俊太郎、工藤直子の詩集から選ぶことにした。ここでは、言葉のまとまりを考えて群読をするなど、歌づくりに必要な知識を学習している。本題材では、それらの経験を生かし、音楽を形づくっている要素である〈旋律〉に〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャア〉の要素を加えることで、全体の流れを考え、詩の雰囲気合った歌の創作を行う。完成後に、創作した作品を聴き合い、詩のイメージを表現するために工夫した点を見つけ合い、それを共有する。これにより作曲者は聴衆の反応を知り、「表現」としての創作が完結し、自己評価に結びつく。これらの経験は、〈形式〉〈構成〉を踏まえたさらなる曲づくりにつながっていくことであろう。本題材の学習における「感性」を駆使しながら「創造」する過程においては、ICTを活用する。これにより、生徒一人一人の表現が広がり、より一層個性的な創作活動ができることを期待している。

### III 生徒観と指導観について

豊かな表現力と発想をもった生徒が多い。特に合唱活動は、小学校で合唱集会を行うなど、美しい響きで歌おうとする意識が高い。しかし、ここ最近新型コロナウイルス感染症大防止対策によって歌唱活動が制限される中で、生徒の歌唱表現力を存分に生かして活動できる場面が少なくなっているのも事実である。その状況において、感染対策を十分に講じて活動できる分野の一つが、創作活動であると考え、昨年度も、創作活動を多く取り入れ、新たな発見や喜びを見いだすことができた。本題材での指導を通して、1年次に高めた旋律創作に関わる「感性」をさらに研ぎ澄ませたい。具体的には、音楽を形づくっている要素〈旋律〉に加えて、〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャア〉の視点を加える。〈リズム〉においては、詩中の言葉のまとまりを理解してリズムを考えることができる。〈速度〉は、詩のイメージが聴き手に最も効果的に伝わる曲の速さを選択できる。〈テクスチャア〉では、和音の音を基にして、美しく響く音の重なりを考え、本指導を通して、これら「感性」の伸展を図りたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

本題材では、「ポーカロイド教育版」を活用することで、生徒が直感的に旋律づくりに取り組む。そして、生徒一人一人の思考がポーカロイドの歌声で作品となる。作品を共有する場面では、他者の思考を瞬時に共有しデータの一元化と保存ができるように、「コラボノート」を使って発表を視覚化、データ化する。また、本題材では、詩のイメージを聴き手に伝えるために、創作の手順を重視し、詩の長さ・高さ・リズムを組み合わせたなどのさまざまな内容を深く考え、それを聴いて修正し、試行錯誤を重ねて一つの作品を完成させていく。これらは、音楽科における「プログラミング学習」を意識しており、試行錯誤することが論理的思考へとつながる。「創造性」を発揮する場に導く「手段」として有効であると考えると考えた実践である。

### VI 全体計画 (総時数8時間)

| 時数        | ねらい・学習活動                                            |   | 評価の観点<br>知・思・態                                                                     | 評価の方法と指導の留意点                                                                                                         |
|-----------|-----------------------------------------------------|---|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                     |   |                                                                                    |                                                                                                                      |
| 1         | ・リズム譜の書き方を覚えて、リズムと記譜の関係を理解する。                       | ○ | ・リズム譜の書き方の例を見ながら記譜の仕方を覚え、既習の曲を使って記譜できる力が身に付いているか見取り、間違いは指摘して再考するように促す。<br>(ワークシート) | ・リズム譜の書き方の例を見ながら記譜の仕方を覚え、既習の曲を使って記譜できる力が身に付いているか見取り、間違いは指摘して再考するように促す。<br>(ワークシート)                                   |
| 1         | ・ポーカロイド教育版を操作しながら、歌を創作する活動への関心を高める。                 | ○ | ・ポーカロイド教育版の操作を通して、歌づくりの方法とコツを覚えようとしているかを見取り、その完成した旋律の出来映えを称賛し、他者に紹介する。<br>(観察)     | ・ポーカロイド教育版を使った《キラキラ星》の旋律の編曲を通して、音の重なりのおもしろさや美しさを味わうように促し、他者に紹介する。<br>(ポーカロイドの保存ファイル、観察)                              |
| 1         | ・オリジナルのキラキラ星を編曲することを通して、音の重ね方を理解し、響きのおもしろさや美しさを味わう。 | ○ | ・文字数に気を付けて、自分たちが歌にしたい詩(谷川俊太郎、工藤直子)を読んで、表したいイメージをもつ。                                | ・歌づくりのルールの中で詩を選んでいるか見取り、文字数が多すぎると指摘して、再考するように促す。<br>・自分たちが感じた詩のイメージをグループでまとめて、コラボノートに記載しているか見取り、他者に紹介する。<br>(コラボノート) |
| 3         | ・知覚と感受の視点から、詩のイメージに合った歌づくりを行う。                      | ○ | ・知覚と感受の視点から、詩のイメージに合った歌づくりを行う。                                                     | ・詩のイメージを前提に、音楽を形づくっている要素〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャア〉を基に歌の旋律を考えているか見取り、作品の独創性や完成度を称賛する。<br>(観察、ポーカロイドの保存ファイル)                |
| 本時<br>8/8 | ・作品を聴き合って、詩のイメージを伝えるための工夫点を話し合い、互いの考えを共有して感性を深める。   | ○ | ・作品を聴き合って、詩のイメージを伝えるための工夫点を話し合い、互いの考えを共有して感性を深める。                                  | ・聴き合った作品について、詩のイメージを伝えるための工夫点を共有して互いの考えを共有しているか見取り、次の創作活動に生かすように促す。<br>(コラボノート)                                      |

Ⅳ 本時の計画

- 1 ねらい  
完成した曲を聴き合い、詩のイメージを伝えるための工夫点を考え、伝え合うことができる。
- 2 展開

| 過程                    | 学習活動・主な発問など                                                                                      | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題                    | 1 本時の課題を確認し、発表の準備をする。<br>詩のイメージを伝えて作品を発表し、仲間<br>の作品の工夫した点を見つけよう。                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の課題や流れを確認し、発表の準備をしている。</li> <li>「他のグループはどんな歌ができたのかな」</li> <li>「ボーカロイドはうまく動いてくれるかな」</li> </ul>                                                                                                                                                     |
| 問い                    | 2 グループごとに作品の紹介を行う。発表は、詩から感じたいイメージを発表し、ボーカロイド教育版を使って作品を披露する。<br>各グループの作品を発表しよう。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用して、主体的に発表している。</li> <li>各作品の工夫点を見つけ、配付したシートにメモしていく。</li> <li>「ボーカロイドがききちゃんと動いてよかった」</li> <li>「自分たちの作品は、どんな評価かな」</li> <li>「詩のイメージがよく伝わってくる作品だな」</li> </ul>                                                                                     |
| 音楽活動 ↑ (知覚・感受) ↓ 言語活動 | 3 印象に残った作品から、詩のイメージを伝えるための工夫点について話し合い、ホワイトボードにまとめる。<br>印象に残った作品の工夫点について学習グループで話し合い、考えをまとめて発表しよう。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習グループ（ミエルトーク）に分かれて話し合いをしている。</li> <li>「あの作品がとても印象に残っている」</li> <li>「もう一度あの作品を聴いてみよう」</li> <li>「〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャ〉の、どの要素に着目しようかな」</li> <li>「この作品は、伴奏や旋律が詩のイメージによく合っているな」</li> </ul>                                                                |
| 振り返り                  | 4 グループごとに、自分たちが見つけた作品の工夫点を発表する。<br>5 本時について、振り返りを行う。                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードとコラボノートを使って発表している。</li> <li>「詩の穏やかなイメージを伝えるために、なだらかな音のつながりを多く使った」</li> <li>「詩の生き生きとした様子を伝えるために、速い速度と細かいリズムを使っていた」</li> <li>「自分たちとは違った雰囲気のある歌が、たくさんあった」</li> <li>「ボーカロイドを使って、今度は自分で歌をつくってみよう」</li> <li>「次の創作の時間は、さらに本格的な歌づくりにしたいな」</li> </ul> |
| 過程の評価                 |                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

＝ICTの活用目的  
＝対話の活用目的

＝1の「ねらい」を十分に達成している姿

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                               | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動の全体像を捉えることができるようにする。</li> <li>苦手意識をもつ生徒も前向きに取り組めるよう、サポーターでできる生徒を意図的に入れたグループ編成をしておく。</li> </ul>              | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちの作品を聴いてもらい、仲間の作品を早く聴きたいという雰囲気になっている。</li> <li>自分たちの作品は、なかなか自信があるぞ。</li> <li>早く仲間の作品も聴いてみたい。</li> </ul>                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>詩から感じ取ったイメージを簡潔に伝えて、ボーカロイドの演奏をするように伝える。</li> <li>各作品の工夫点を見つけ、配付したシートにメモするように伝える。</li> </ul>                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分たちでタブレットPCを大型ディスプレイにつなげて、主体的に発表している。</li> <li>この詩から穏やかなイメージを感じた。</li> <li>言葉の遊びが見られる楽しい詩。</li> <li>選んだ詩は、躍動感がある。</li> <li>ボーカロイドの演奏が、自分たちのイメージ通りよかった</li> </ul>                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽を構成する要素〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャ〉を使って説明できるように伝える。</li> <li>個々の意見をつないで全体像を把握するために集団での省察（ミエルトーク）を行うように指示する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>聴き取ったメモやICTを活用して、協働的に話し合いに参加し、詩を伝えるための工夫点を考えている。</li> <li>言葉が反復するおもしろさを、細かいリズムや反復を使っていた。</li> <li>生き生きとした詩のイメージを、跳躍する音のつながりを使って表していた。</li> <li>透き通った詩のイメージが、声の重なりで表現されていた。</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードに記載した内容を互いに共有し、その記録が残るように、生徒自身で内容を写真に写してコラボノートに貼り付ける。</li> <li>学習グループ（ミエルトーク）のルールで発表するように指示する。</li> </ul> | <p>詩のイメージを伝えるための工夫点を見つけ、〈旋律〉〈リズム〉〈速度〉〈テクスチャ〉などと関連させて、聴いている。<br/>(ホワイトボード、コラボノート)</p>                                                                                                                                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動を、NES評価の視点で振り返るよう、指導する。</li> <li>リフレクションシートの一元化と評価を円滑にするために、コラボノートを活用する。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動について、自分の活動を具体的に見つけられる。</li> <li>自他のよさに気づき、自分の考えをまとめていく。</li> </ul> <p>〔N 次は他者の工夫点を参考に、さらに納得した歌をつくってみよう。<br/>E 音楽の要素の視点から、他グループの工夫した点を見つけることができた。<br/>S 発表や話し合い活動に満足した。〕</p>      |

一本実践から見えてくることー

## ICTを駆使した音楽教育（創作）にみる 意義とその課題・注意点について

共同研究者：石原慎司

（秋田大学教育文化学部・教育実践講座）

### 1 共同研究の方向性について

これまでの共同研究で継続して取り組んできた点は、既習の知識や技能を応用・発展させ、次の新たな学習において活用させる、ということであった。かつての例でいえば、西洋音楽の音楽理論上の知識や演奏技術、つまり、五線譜で音楽を理解する力やそれをどのように演奏（表現）するのかという技術を歌舞伎のせりふ回しを学習する際に利用したことがあった。異文化の既習事項を自文化の学習方法論として応用することには長短はあるものの、それがなければ生徒たちの学習活動の幅は狭く、また、浅いものとなっていたことに加え、学習の積み上げがなされない単発的な単元になっていたはずである。異なる音楽種の単元を有機的に連関させるならば、学習が縦横に広がり、知識や技能を活用する力と新たな価値を見出す力、すなわち学力が養われていくと考えられる。これは生徒たちが継続的に動機付けを得て授業参加していく点においても重要と捉えており、既習事項は学習指導要領の「共通事項」を中継させつつ、様々な単元で活用させたい。

### 2 ボーカロイドとICTの意義

今年度の共同研究もまた、生徒が既に得た知識や技能を前提として、彼らの有している感性をさらに高めるような授業計画を授業者には検討して頂いた。その結果、ICTを駆使して昨年取り組んだ五音音階に基づく旋律創作をさらに深化させ、「ボーカロイド」を用いた創作授業を行うに至った。

ボーカロイドを用いた授業の説明は授業者の文章を参照して頂くことにして、ボーカロ

イドの授業を見て感じた意義について述べたい。創作とは、「作曲作品」が最終的な完成物になるわけだが、今回の創作の過程では随時ボーカロイドに演奏（歌唱）させながら誰にとっても試行錯誤しやすい、という点で画期的であった。ユニバーサルデザイン的教材ともいえよう。そして、作品は紙に書かれた無音の状態が完成品になるところを、ボーカロイドはそれを歌詞付で歌ってくれるので、生徒はすぐさま自己評価でき、自ら改善努力がしやすかったと思われる。それゆえに活動そのものがすぐに楽しくなって集中していく様子が窺えた。これは内発的動機付けが得られたことを意味しているだろう。加えて、創った作品はグループ内で検討したり、クラス全体にICT経由で公開し、他者の作品に対するコメントしたり、閲覧もできるため、人に見せるための作品、つまり、社会的動機付けも関係していたように思われる。このような過程を通しつつ、各自の力量の範囲ながらも作品を完成させたことは成功体験となり、セルフエスティームも充足されたはずである。

### 3 ボーカロイドにおけるICTの課題

ICTの普遍的な課題点としては、この学習内における適切な目的や到達点の設定に加え、学習経験を今後の学習とどのように連関させていけるか、という点であろう。中長期的な視点による授業計画が求められる。

ボーカロイドを振り返ると、その歌唱は強弱やテンポは調整できても、歌は単調で表現の変化まではつけられない。つまり、この機械には作曲者（生徒）の自己表現上の限界が内在していたのである。そこに気が付き、知覚できる感性が機械を操る者には必要である。これは歌唱実技や鑑賞など、従来のアナログ的な授業によって磨かれうるものである。また、ICT推進の中における「教え手」としての教師の役割も検討課題であろう。

## 令和4年度の実践記録（美術）

## －実践記録（第3学年）－

## 1 題材名

「15歳の自画像」

－「ひらめき」「試行錯誤」「共感」を往還しながら、自分らしさを表現できるか－

## 2 具体的な実践事項との関連


## (1) ICTの三つの特質

課題や作品を効果的に大型モニターに提示したり表現の可能性を広げたりするためのツールとして、ICTを活用することができた。作品のアイデアを練ったり編集したりする発想や構想の場面や、タブレットで自分の見たい部分をズームして見る活動などでも活用することが出来た。また、作品の制作過程を記録することで、個々のリフレクションと同時にポートフォリオの作成へとつなげることもなった。

## (2) 対話の三つの方向性

授業の中に意図的に主体的・対話的な話し合い活動を設定することで、自分の思いや願い、他者への気持ちやあこがれなどの心情を明確にしながらかつ独創的なひらめきが生じるようにした。鑑賞活動だけではなく、発想や構想場面、制作途中のアドバイスなど様々な場面で人と意見を交わし、関わり合いながら制作に向かうことができるようにし、多様な考えや表現を認め合うような雰囲気作りを心掛けた。

## 3 授業の実践

| 過程                                                   | 学習活動<br>「教師の発問や指名」<br>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）                                                                                                                                                               | 教師の手立て<br>○：見取った生徒の姿<br>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問い<br>の<br>練<br>り<br>上<br>げ<br>・<br>ひ<br>ら<br>め<br>き | <p>1 自分が作成した『人生の樹』と『手形アート』を鑑賞する。<br/>「2年前の自分の『手形アート』と今年の『人生の樹』です。手形アートに自分の手を合わせてみてごらん。」</p>  <p>「手形アート」「人生の樹」鑑賞</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分の思いや願い、考えを再認識することができるように、今年度描いた『人生の樹』と入学時に描いた『手形アート』を準備する。</p> </div> <p>◎自分が描いた作品の鑑賞を通して、自分でも気が付かなかった、自己の内面性や心の成長を認識している。</p> <p>○「指が一関節分伸びていてびっくり！こんなに小さかったんだ」</p> <p>○「1年生の時こんなこと書いてるんだな。懐かしいな」</p> <p>○「私ってこんな色を使って、こんなことを考えてたんだな。忘れていた」</p> |

2 自分の外見的特徴を鏡で観察したり、内面を考えたりしながら自分を表すキーワードをイメージマップに記入する。

「自分を表すキーワードを言葉で書き出してイメージマップにしてみよう。」

■自分を表現した2つの作品「手形アート」と「人生の樹」に書かれている言葉を参考にしながら、自分を表現するキーワードをできる限りたくさん書き出せるようにする。

「次に目の前いる班のメンバーに、『その人らしさ』を表すキーワードを付箋に書いて、プレゼントしよう。目標は一人に対して3枚以上です。」

■自分では気が付かない自分のことを第三者の友人から言葉にしてもらうことで、客観的に自分のことを見つめる機会となるようにした。

■小さなカラー付箋が一人に9枚以上集まる班活動にすることで、イメージマップがキーワードで埋まるようにした。それらの言葉から制作の構想を練ることができるようにした。

■自分らしさを表現するために、どんなものを画面に入れると効果的か、具体例を言葉で提示することで、イメージを明確にすることができるようにした。

■「〇〇さんって〇色のイメージっぽい」「〇〇さんと言ったらやっぱり〇〇部」などという生徒のつぶやきを拾い、他者からの言葉をキーワードにしながら構想を練ることができるようにした。

互いの外面と内面について、班で話し合いながらイメージマップに言葉を記入していくことで、見方・考え方を広げる。

(付箋の活用)

○班で話し合いながらイメージを言葉に置き換え、イメージマップに記入することで、自分らしさのキーワードを明確にしている。

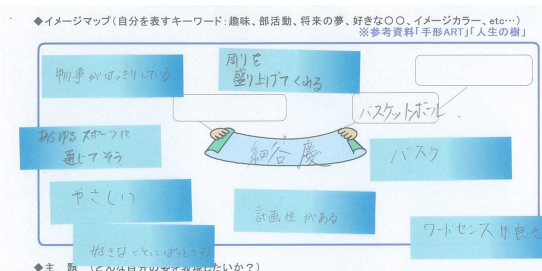
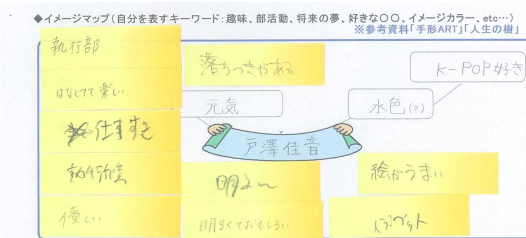


〔1年「手形アート」〕

〔3年「人生の樹」〕

○相手を見つめ、双方向にコミュニケーションを取りながら、互いの「その人らしさ」を言葉にして付箋に書き、付箋をプレゼントしている。

○「自分のことって、考えてもなかなか思い付かなくて言葉にできないけれど、人のことは書きやすいし思い付くな」



〔生徒のイメージマップシート〕

3 自分らしさを表現するための背景や服装、ポーズ、表情、一緒に描く小物やイメージ色等を考える。

「あなたの自分らしさって何ですか？」

■あくまで外見にこだわりをもち肖像画のように描いた作品、目に見えない自分の内面を色や形で表現した作品、自分のこだわりを様々な現実のものに置き換えて表現した作品など、多様な自画像の表現を提示した。表現方法を選択することで、より自分へのこだわりをもつことができるようにした。

自分らしさを表現するためにどんなものを画面に入れると効果的か、具体例を言葉で提示する。

背景 服装 ポーズ 表情 趣味 部活動  
好きな物 イメージカラー 目標 将来の夢など

- ◎自分の内面と向き合い、自分らしさとは何かを考えながら表現の構想を練っている
- 「背景に何を描けば私らしいのかな」
- 「私っていえば何かな？」
- 「好きな神社に参拝する自分の姿を描きたい」
- イメージマップにあるたくさんのキーワードの中から、より自分らしさを表現するワードを2つマークし、構想を練っている。

問  
い  
直  
し  
・  
試  
行  
錯  
誤

4 撮影した画像をもとに構図を考える。  
※必要に応じて追加撮影する。

- (1) レイアウトの決定、画面の縦横
- (2) 自分のサイズ、画面に入れる割合
- (3) ポーズ、表情
- (4) 画面の人数

「自分らしさを表現するにはどんなポーズや表情、構図が効果的か考えよう。」



〔授業板書と参考作品提示〕

「前回撮影した写真の他に、追加で撮影してもいいよ。教室や校庭、グラウンドに撮影に行きたい人はおいで。」

■一度自分で決定したらそれで完結ではなく、何度でも方向性を変えることができるようにした。

自画像への苦手意識を取り除くことができるようタブレットPCのカメラ機能を活用する。撮影した画像を組み合わせたり加工したりすることで、自分のイメージを客観的な視点で可視化できるようにする。

- ◎自分らしさを表現するために何を画面に入れるべきか考え、表現のイメージを膨らませ、構想を練っている。
- 「充実した日々や夢に向かう姿を表現したい」
- 「学習や進路で悩んでいる今の自分の姿を表現したい」
- 「部活動に燃える自分の姿を描きたい」
- 「今の自分の頭の中にあるものを全部画面に描き込んでみたい」
- 「好きな武将の肖像画に自分の顔を当てはめてみたい」
- 「今自分が過ごしている学校の中を背景にしたいから、撮影に行こう」
- 「やっぱり部活動に取り組む自分の姿を描きたいから、グラウンドを背景にしたいから撮影に行こう」





〔鏡を見て描く生徒〕

※構図を決定した人から制作する。

■自画像を描くにあたり、どんなものをプラスして描くことで、より自分らしさが表現されるか、参考作品を提示しながら声掛けをした。

■鏡を机の上に置いて、じっくりと自分の顔を観察して描く人、撮影した画像を活用し、合成したりフィルター加工したりしながら描く人、何も見ずにスケッチブックに向かい描く人など、デジタルとアナログそれぞれの表現を個々の感性で選択することができるよう、受容的な雰囲気や声掛けを心掛けた。

5 制作中の作品やアイディアスケッチを撮影し、保存・投稿する。

「スケッチブックに描いたアイディアスケッチや撮影した画像を保存し、Teamsに投稿してください。」

「現段階での自画像の構想を、何人かにプレゼンしてもらいます。」

■制作の過程を保存することにより、自分の表現を客観的な視点で見ることができるようになる。

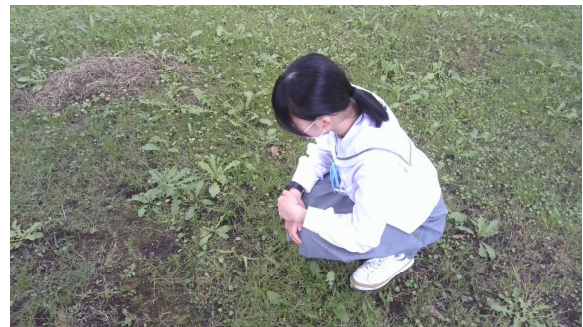
○「鏡だと正面の姿しか見えないから、斜め後ろや後ろ姿の自分の姿を撮影したい。友達と一緒に廊下に行って撮影してもらおう」

カメラは使用せず、鏡をじっくりと観察しながら描いてもよいと指示する。

撮影画像と他の画像を組み合わせレイアウトを工夫することもできることを伝える。

○撮影した画像をトリミングやフィルター等で加工しながら、構図を考えている。

○何度でも撮影できるカメラ機能のよさを生かし、たくさん撮影した写真をもとに表現のイメージを膨らませている。



〔生徒投稿：レイアウト参考写真〕

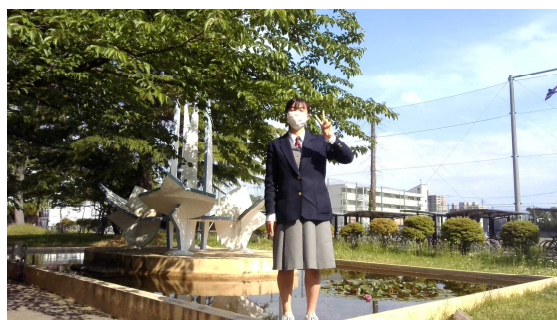
友人の発想やレイアウトが瞬時に視覚情報となって投稿されるのを見て、より発想の幅を広げることが出来るようにする。



〔生徒投稿：レイアウト画像〕

■スケッチブックにおおまかなラインで手描きしたもの、校外外で撮影した写真、加工したり合成した画像など、どの表現方法でもよいと声掛けすることで、気軽に投稿することができるような雰囲気にした。

■Teamsに投稿したアイディアスケッチやレイアウトのもととなる写真を大型モニターに映し出し、投稿される友人の様々な発想をリアルタイムで見ながら、構想を練ることが出来るようにした。



〔生徒投稿：参考写真〕

- 「まだレイアウトは決まっていなくても、まず写真だけでも投稿してみよう」
- 「描きたい自画像のイメージは決まったけど、まだ描けない。写真をもっとたくさん撮影してから決めたい」

振り  
り  
返  
り  
・  
共  
感

6 友人の発想やレイアウトを鑑賞し、表現の工夫を知り、自分の制作の見通しをもつ。  
「現段階での構想プレゼンです。大型モニターに画像が映った人にプレゼンしてもらいます。」



〔構想のプレゼン〕

■短時間でスケッチブックにレイアウトを写実的に描いた、比較的制作スピードが早めの生徒1名、校庭で印象的に撮影された写真を投稿した生徒1名、おおまかなレイアウトをスケッチブックに描いた生徒1名、計3名の生徒を意図的に指名した。まだ構想が決まらない生徒にとって参考となるように指名した。

自分のイメージをふくらませたり、次時に向けて構想を練り直したりすることができるように、友人の発表からレイアウトの工夫や様々な表現方法、発想を探るように伝える。

- ◎友人の発想やレイアウトを鑑賞し、構想プレゼンを聞きながら共感し、次の時間に向けての自分の制作の見通しを明確にもっている。  
(Teamsを活用したりフレクション)
- 「自分に銃を向けているのは何でなんだろう。どんな思いが込められているのか知りたいな」
- 「斜め後ろから撮影した写真が印象的で、写真だけでいい感じになってる」
- 「ジブリは自分も好きで映画をよく見ていた。『ハウルの動く城』の一場面に自分の姿を入れたレイアウトがかっこいい。自画像は苦手と思っていたけれど、自分の顔を描くだけでなく、自分の好きなものを絵の中に入れることで、楽しく描けそう」
- 「写真の構図がかっこいい。もうそのまま自画像のレイアウトとして使えそう。来週までに私もいい写真を撮影しよう」

### 《生徒の振り返りから》

- ・友達のレイアウトがかっこよかった。次の美術の授業までに、家で写真撮影をして構図を考えてきます。
- ・色を塗りながら自分の好きなものを付け足していきたいです。服装に悩んでいます。アンティークな感じにしたいです。
- ・私の好きなジブリ風にします。柔らかい色になるように塗りたいです。背景はきれいな青空にします。自分らしさを出していきたいです。
- ・周りをもっと華やかにして、ハッピーな感じを出したいです。
- ・背景の森を絵の具で塗っていこうと思います・
- ・自分の好きな神社を中心に描き、社のところに自分の心情を表してみたいと思っています。
- ・楽譜とか貼って背景はコラージュに挑戦したいと思っています。前髪にささげた中学校生活を描きたいと思っています。
- ・楽しく本を読んでいるときと、現実逃避で本を読んでいるときの違いを表現したいです。背景は暗い方と明るい方で塗り分けたいです。
- ・マーカーや絵の具で描きたいと思っています。背景は銀河鉄道風にする予定です。
- ・自分の好きなゲームの映像と組み合わせて書こうと思っています。映像がまだないので探して書きます。
- ・背景に自然、附中を取り入れて自分を描きたいです。後ろから太陽の光に照らされているのも表現したいです。
- ・自分が好きなものを周りに散りばめる感じにしたいと思っています。なるべく隙間がないようにいろいろなものでうめたいです
- ・グループの中でヒゲダンと剣道がイメージとして強かったのでこうしました。
- ・目の周りにたくさんの漢字を書いて漢字が好きなどを表現しようと思いました
- ・背景はまだ途中です。クラリネットを6年間やっていて、高校で続けるか続けないか分からない心情を描こうと思っています。
- ・シャイな自分を表すために少し下を向いてしゃがんでいる自分を描きたいです。
- ・自分の好きなものをとにかくたくさん描きました。

## 4 授業の省察

### (1) デジタルとアナログの融合

2年前の自分の手形に手を合わせコメントを読むことで、自分の心身の成長を目に見える形で実感し、今の自分を考えるきっかけとなった。デジタルの利便性、可視化の可能性とリアルな体験の併用の必要性や大切さを改めて実感した。

オンライン（Teams）の投稿機能を活用しての発想・構想の紹介（プレゼン）は、撮影写真や手描きのアイディアスケッチを用いてプレゼンができるので、共感と同時に視野を広げたり深めたりすることができた。ICTの活用は美術科においても必要なことではあるが、様々な材料体験や表現方法の試行錯誤、「手」を使うことによる脳の発育など、省略してはいけないことがたくさんあることを我々美術教師は忘れてはいけない。デジタルとアナログの両方の利点を融合さ

せた授業展開の工夫に取り組みたい。

## (2) 言語表現とICTの効果的活用

こういう自分の姿を表したい、その理由を言葉で書く。シンプルな活動であるが、それをやることで表現がぐっと焦点化され、さらに表現に必要な材料を集め出すようになる。そして、撮影した写真を加工したりフリー素材の映像と合成したりしながら構想を練るなど、イメージを可視化できるツールとしてのICTの活用は、美術科ならではのものである。タブレットPCで撮影した自分の姿や画像検索により、イメージを可視化し自分の思いを明確にすることができる表現ツールの活用により、表現の幅は確実に広がったと感じている。鏡に映る自分の姿と対面しながらひたすら自画像を描く活動ももちろん魅力的であるが、一人一台のタブレットPCの活用により、「絵を描くのが苦手」という生徒が発想・構想の試行錯誤の過程を楽しみながら、制作に意欲的に向かうことができるようになった。また、教師側からの作業指示や情報提示においても、タブレットPCに向かうのか対面でするのかで情報量が全く違うので、その利便性とどちらが効果的かを実践し検証していきたい。

## 美術科学習指導計画

学級 3年C組 35名  
授業者 伊藤知佐子  
共同研究者 長瀬 達也

### I 題材名と指導のポイント

「15歳の自画像」

－「ひらめき」「試行錯誤」「共感」を往還しながら、自分らしさを表現できるか－

### II 題材について

私たちは毎日、何らかのタイピングで自分の顔を見る。生まれてから今まで、自分の顔を見ない日は無いが、自分の顔の形や作り、輪郭や目口鼻の配置等を意識して見ることはあまり無い。本題材は「自画像を描く」表現題材であり、中学校において一般的に取り組まれるものである。しかし、「自画像」に対しては、多くの生徒は強い抵抗感を示す。自分の顔に自信がもてなかつたり、他人と比較したり、そもそも人物を写実的に表現することは技術的に難しいため、「うまく描けないから嫌だ」と感じてしまう。さらに思春期の生徒にとっては自分自身の外面だけでなく、内面を見つめることにも抵抗を感じ、表現活動自体を敬遠してしまいう傾向が見られる。そんな多感な時期だからこそ、自分の心と対話し、不安や迷いと向き合い、夢や願いを言葉にしながら、自分の姿を色や形で表現するこの題材が大切である。その表現活動を通して、生徒は自己肯定感を高めると同時に造形的な見方・考え方を深めることができる。そして、思考力や判断力を働かせながら表現することを通して、発想力や構成力を高め、追究する姿勢を育むことができる。また、互いの表現を見ることで、他者と自己との違いを認識し、自分と他者のよさを再認識する機会となる題材である。

### III 生徒観と指導観について

本学年の生徒は、1年生ではスケッチや絵文字、螺鈿工芸などの課題に取り組んだ。2年生では身の周りにある様々なものと美術との関わりについて話し合い、自分と美術との関わりや社会の美術の役割について考えた。諸活動において与えられた課題に集中して熱心に取り組むことができ、ける集団で、互いに声を掛け合い、協力しながら学習に向かう雰囲気がある。美術の学習においても、表現や鑑賞の課題に集中して取り組むことができる。だが、一人一人の制作の過程を見ると、自分の発想や表現に自信がもてず、戸惑っている場面も見られ、次のステップに進むことができなくなってしまう。それを軽減するためにICTを活用する。15歳の今の自分のありのままの姿、感情予測される。それを軽減するためにICTを活用する。15歳の今の自分のありのままの姿、感情や理想とする姿、思いや願い、夢を言葉にしなが色と形に置き換えて表現することを通して、自分自身と対話することができる活動にしたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

課題や作品を印象的に提示したり、表現の可能性を広げたりするためのツールとしてICTを活用する。制作のアイデアを練ったり描きたい対象物を探したりする発想・構想の場面、作品を大型モニターやプロジェクターで映し出したりする活動など、様々な場面での活用を試みたい。タブレットPCのカメラ機能を活用しての静止面や動画の撮影は、生徒たちにとって魅力的な活動である。一人でじつと鏡を見つめるよりも、他者と関わり合いながら自分の姿を撮影し、客観的な視点で自分の姿を見つめることができる。その画像からイメージを膨らませ、自分の外面だけでなく、内面も見つめることができるようにしたい。また、作品の制作過程を毎時間撮影しポートフォリオを作成することで、客観的な視点で作品を見つ直す機会となり、表現と鑑賞の一体化を図る。

## V 目標

- 色彩や材料などの性質やいろいろな表現技法を理解し、自分らしさを表す方法を工夫することができる。
- 自分自身の内面と向き合いながら表現の構想を練ることができる。
- 自分らしさを表すことに関心を持ち、主体的に表現活動に取り組んでいる。

## VI 全体計画（総時数10時間）

| 時数              | ねらい・学習活動等                                                                                                                                                                                                                           |   | 評価の観点 |   | 評価方法と指導の留意点等                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|-------|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                 | 知                                                                                                                                                                                                                                   | 思 | 知     | 態 |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1               | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々な表現方法で制作された自画像を鑑賞し、その人物の内面について考える。</li> <li>自分を様々な構図で撮影する。</li> </ul>                                                                                                                      | ○ | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>描かれている物や背景、人物の内面に着目して作品を鑑賞することができているか、ミエルボードの記述から見取る。（発表、行動観察）</li> </ul>                                                                                                                                                   |
| 2<br>本時<br>3/10 | <ul style="list-style-type: none"> <li>人体の比率を知り、鏡やタブレットPCの画像を見ながら、自分の顔を描く。</li> <li>自画像作成のもととなる自分の写真を撮影する。</li> <li>自分の外見的特徴を鏡で観察し、イメージマップを作成する。</li> <li>自分らしさを表現するための背景や服装、ポーズ、表情、一緒に描く小物等を考える。</li> <li>アイディアスケッチをする。</li> </ul> | ○ | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>頭部と人体の比率とバランス、顔の目、鼻等の比率を理解できているかを見取り、できていない場合は実際に計測するよう助言する。（行動観察、スケッチブック）</li> <li>自分で撮影しても友人から撮影してもらってよいことにする。また、カメラは使用せず鏡をじっくりと観察しながら描いてもよいこととする。</li> <li>自分の内面を考えて、イメージマップに自分らしさを表す言葉を付け加えるよう助言する。（イメージマップ）</li> </ul> |
| 6               | <ul style="list-style-type: none"> <li>自画像を制作する。</li> <li>自分らしさを表現する構図の工夫をする。</li> <li>様々な画材や表現技法を選択して活用し、自画像を制作する。</li> <li>作品を撮影し、プレゼンテーションを作成する。</li> </ul>                                                                      | ○ | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>スケッチブックに描いてもタブレットPCを活用して写真や映像を用いてのアイディアスケッチでもよいこととする。（行動観察、作品）</li> <li>小学校6年間で中学校2年間で習得した、様々な表現技法を活用することができているかを見取り、表現技法や画材を提示する。（作品）</li> </ul>                                                                           |
| 1               | <ul style="list-style-type: none"> <li>自画像作品のプレゼンテーションをする。</li> <li>質疑応答をする。</li> <li>作品を互いに鑑賞し、感じたこと考えたこと、作品から感じたイメージ等を発表し合う。</li> </ul>                                                                                           | ○ | ○     | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>活用した表現技法や工夫、見どころを教科言語を用いて説明することができているかを見取り、称賛する。</li> <li>意見交換により自分の作品に自信を持ち、友達のよさを認め合うことができているかを見取り称賛する。（プレゼン発表、質疑応答）</li> </ul>                                                                                           |

Ⅶ 本時の計画

1 ねらい

自分の内面と向き合い、自分らしさとは何かを考えながら表現の構想を練ることができる。

2 展開

□ = ICTの活用目的

〰 = 対話の活用目的

□ = 1の「ねらい」を十分に達成している姿

| 過程   | 学習活動・主な発問等                                                                                                                                                                                                                 | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問い   | <p>1 自分が作成した「人生の樹」と「手形アート」を鑑賞する。</p> <p>2 自分の外見的特徴を鏡で観察したり、内面を考えたりしながら自分を表すキーワードをイメージマップに記入する。</p> <p>自分を表すキーワードを言葉で書き出してイメージマップにしてみよう。</p> <p>3 自分らしさを表現するための背景や服装、ポーズ、表情、一緒に描く小物やイメージ色等を考える。</p> <p>あなたの自分らしさって何ですか？</p> | <p>・自分が作成した作品を見ることができ、心と身体<small>の成長や変化を感じ取る。</small></p> <p>・「すごい！私の手ってこんなに小さかったんだ。成長してる」</p> <p>・「私らしさって何かかな？まずは、部活と趣味、好きな食べ物と将来の夢は……」</p> <p>・「○○さんのイメージカラーは、□□だから○○色じゃないかな」</p> <p>・「どんなポーズにしようかな？全身にしようか、上半身にしようか、顔をズームにしようかな」</p> <p>・「私の自分らしさって何だと思う？」など友人とコミュニケーションを取りながら自分らしさを追究している。</p> |
| 問い直し | <p>4 撮影した画像をもとに構図を考える。<br/>※必要に応じて追加撮影する。<br/>(1)レイアウトの決定、画面の縦横<br/>(2)自分のサイズ、画面に入れる割合<br/>(3)ポーズ、表情<br/>(4)画面の人数</p> <p>自分らしさを表現するにはどんなポーズや表情、構図が効果的か考えよう。</p> <p>※構図を決定した人から制作する。<br/>5 制作中の作品やアイディアスケッチを撮影し、保存する。</p>   | <p>・撮影した画像をトリミングやフィルター等で加工しながら、構図を考えている。</p> <p>・画像を見ながら班で話し合い、互いの表現やレイアウトの工夫の情報を交換している。</p> <p>・「やっぱり○○さんの背景には、グラウンド（テニスコート）が似合うよ」</p> <p>・「動画で素振り（シュートフォーム）を撮影してあげるから、スクリーンショットにして静止画にしたら」</p> <p>・制作の課程を保存することにより、自分の表現を客観的な視点で見つめている。</p>                                                      |
| 振り返り | <p>6 友人の発想やレイアウトを鑑賞し、表現の工夫を知り、自分の制作の見通しもつ。</p>                                                                                                                                                                             | <p>・「こんなレイアウトもかっこいいな。次の美術の授業までに、家で写真撮影して構図を考えてこよう」</p>                                                                                                                                                                                                                                             |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                                                    | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>・自分の思いや願い、考えを再認識することができるように、今年度描いた「人生の樹」と入学時に描いた「手形アート」を準備する。</p> <p>・互いの外面と内面について、班で話し合いながらイメージマップに言葉を記入していくことで、見方・考え方を広げる。</p> <p>・自分らしさを表現するために、どんなものを画面に入れると効果的か、具体例を言葉で提示する。</p> <p>背景、服装、ポーズ、表情、趣味、部活動好きな物、イメージカラー、現在の目標、将来の夢など</p> | <p>見取りたい生徒の姿</p> <p>○自分が描いた作品の鑑賞を通して、自分でも気が付かなかつた、自己の内面性や心の成長を認識している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あの頃は幼かったな。</li> <li>・こんなこと書いていたんだな。</li> <li>・少し恥ずかしいけれど、こうやって見ると自分も成長しているんだな。</li> </ul> <p>○班で話し合いながらイメージを言葉に置き換え、イメージマップに記入することで、自分らしさのキーワードを明確にしている。</p> <p>○自分らしさを表現するために何を画面に入れるべきか考え、表現のイメージを膨らませ、構想を練り始めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩んでいる姿を表現したいな。</li> <li>・充実した日々や夢に向かう姿を表現したいな。</li> </ul> |
| <p>自画像への苦手意識を取り除くことができるようタブレットPCのカメラ機能を活用する。撮影した画像を組み合わせて加工したりすることで、自分のイメージを客観的な視点で可視化できるようにする。</p> <p>・カメラは使用せず、鏡をじっくりと観察しながら描いてもよいと指示する。</p> <p>・撮影画像と他の画像を組み合わせてレイアウトを工夫することもできることを伝える。</p>                                               | <p>○何度でも撮影できるカメラ機能のよさを生かし、たくさん撮影した写真をもとに表現のイメージを膨らませている。</p> <p>○タブレットPCのフィルター加工等を活用した表現等にも取り組み、イメージを瞬時に映像化できるおもしろさを感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしさを表現するのは難しいけれど楽しいな。</li> <li>・背景に何を加えたらいいかな。</li> </ul> <p>自分の内面と向き合い、自分らしさとは何かを考えながら表現の構想を練っている<br/>(行動観察、タブレットPC、スケッチブック)</p>                                                                                                                                   |
| <p>自分のイメージをふくらませたり、次に向けて構想を練り直したりすることができるように、友人の発表からレイアウトの工夫や様々な表現方法、発想を探るように伝える。</p>                                                                                                                                                        | <p>○友人の発表に共感し、次の時間に向けて自分の制作の見通しを明確にもっている。<br/>(teamsを活用したリフレクション)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

ー本実践から見えてくることー

### 本校美術科の指導に学ぶこと

共同研究者：長 瀬 達 也  
(秋田大学大学院教育学研究科)

本題材の授業には、各学校の教員や、教員を目指す学生にとって、学ぶべきことや参考となることがあった。主な2点を挙げてみる。

#### 1. 創造に躊躇しない意欲の醸成

本題材はいわゆる自画像表現の題材である。自画像表現の題材は、小学校図画工作科や中学校美術科でたくさんの実践があり、現在も題材の「定番」と認識されている。図画工作科や美術科の授業で、デューラー・レンブラント・ゴッホなど有名画家の自画像を鑑賞してから、あるいは意識しながら自画像に取り組んだ経験がある方は少なくないだろう。

頻繁に扱われる自画像表現の題材であるが、授業者が指摘している通り、実は思春期の中学生にとっては非常に難しいものである。「ありのままの姿を表現しよう」などと教師から提示されても、抵抗感が生じると考えられる。

大概の思春期にある中学生は、自分の外見が他者からどう見られるのかに対して小学校時代より、過度とも言えるくらいに気にしてしまう。外見に対する恥ずかしさや不安感が渦巻いている。よく表現できても、できなくても、作品を全面的に肯定することは難しいだろう。

では、外見ではなく、内面表現でよいことにすれば解決だろうか。これも、他の生徒の前で自分の喜怒哀楽が錯綜するような思春期の内面を率直に、そしてあるがままに表現することには、強く抵抗や苦痛を感じると考えられる。

そこで授業者は自己の外見を客観的に描くだけでなく、「出身地、服装、場所、雰囲気、背景、ポーズ、持ち物、所属部活動、趣味、夢」などに視点を当てて表現することも、「自画像」となることを本題材の導入において、自作のスライドショーによるプレゼンテーション「15歳の自画像」を提示して丁寧に説明している。こ

の中には、1年次での自分を「手形アート」で表現した「○○を色で表すと」や、卒業生が取り組んだ自画像表現の作品画像もあって、発想の一助となっていた。

これだけでなく授業者は、イメージマップを用いて発想や構想に取り組む方法も提案している。生徒たちは例えば、自分のどんな面を見せればよいのか、あるいは自分の何を誇張化、象徴化すれば効果的なのかなどと、柔軟に試行錯誤して考えるようになっていた。自然に、そして躊躇せず、他者に自らアピールしたいことを創造的に表現するようになっていたのである。

#### 2. 表現の材料や用具としてのICT

本題材では授業者がICT活用を提案している。提案が可能なのは、ストレス無しにICTを使いこなせるところまで、本校生徒が成長しているからである。本校では全教員が教育活動全体で継続して、ICTを教育活動のツールとして活用している。この環境によって生徒たちも、ツールとしてICTを学習や表現で活用することができている。この成果や価値は大きい。

ふだん使わない、つまり身に付いていないツールで学習したり、表現したりすることは難しいことであり、むしろマイナスである。ふだんから継続的に、クレヨン・パスや水彩絵の具のように、これから一層身近な存在となるICTを習熟して活用することが非常に重要である。表面的な目新しさからではなく、新しい見方や考え方が生まれてくるからである。

本題材の授業では、美術教育において生徒が得ることや、教員が果たす責任のために、ICTを活用するという原則が崩れていなかった。生徒たちの中には、オーソドックスに鏡を利用する生徒もいたし、パソコンで参考作品検索や画像編集などを行う生徒もいたのである。ICTを表現の材料や用具の一つとして、選択して活用できるように、生徒が授業者の3年間の指導で成長していた姿があった。

以上、本題材では授業者の手立てによって、生徒が有能な「表現者」として、借り物ではない「リアルな自分」を表現する姿があった。

## 令和4年度の実践記録（保健体育）

## －実践記録（第1学年）－

## 1 単元名

「体育理論」－運動やスポーツがもつ「する・みる・支える・知る」

といった多様な楽しみ方について考えを深めることができたか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) ICTの三つの特質

「Teams」、「C－ラーニング」を活用し、これまでの自他の考えについて客観的に触れ合い、学習の軌跡を確認したり、本時の学習を振り返ったりすることができるようにした。

## (2) 対話の三つの方向性

一人一人が自分の経験や考えをもちながら話し合いに臨み、自他の考えを広げたり、深めたりすることができるようにした。そのためにも、相手に対して明確に伝えたり、説明したりする対話、相手のよさや立場を踏まえた傾聴や伝え合いが進められる機会を設けた。

## 3 授業の実際

| 過程     | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 教師の手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題を捉える | <p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）</p> <p>1 これまで学習した運動やスポーツの4つの関わり方を再確認する。</p> <p>「前回学習した4つの関わり方にはどんな関わり方があったのでしょうか。」</p> <p>■前時の学習内容に触れ、本時の活動がスムーズに進められるようにする。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>「豊かなスポーツライフを実現するためには、中学生として4つの関わり方に具体的にどう関わればよいのでしょうか。」</p> <p>■4つの関わり方において、得意や苦手という視点以外から運動やスポーツとの多様な関わりについて考え、新たな価値を発見してほしい。</p> | <p>○：見取った生徒の姿</p> <p>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <p>○「主に運動やスポーツには、する、みる、支える、知る、の4つの関わり方があった」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・前時の学習内容と生徒の振り返りについて、Teamsを用いて共有する。</p> <p style="text-align: center;">（瞬時の共有化）</p> </div> <p>○モニターを見たり、話を聞いたりしながら、本時の学習課題を自分ごととして捉えている。</p> <p>○4つの関わり方のうち、指定された一つの関わり方について、どう楽しむか具体的に考えている。</p> |



3 提示されたテーマについて、自分の考えをまとめ、グループで話し合う。

「指定された関わり方について、具体的に自分の考えをまとめよう。」

■自分の考えを明確にもつことで、話し合いの材料や多くの視点を見つけてほしい。

「自分の考えを紹介しながら、4人で話し合おう。」

■4人での話し合いでは、他者に自分の考えを伝えるとともに、様々な考え方に触れる。

「同一テーマで話し合っているグループと情報交換をして、自分たちのテーマの具体的な楽しみ方をまとめよう。」

■8人での話し合いでは、4人で話し合った内容を伝え合いながら、よりよい考えを導き出し、発表に向けた打ち合わせも行う。

4 自分たちのテーマについて、ワークショップ方式で発表する。

「自分たちで話し合った具体的な楽しみ方を紹介しよう。」

■話し合った結論について、役割分担をしながらはっきりと他者に伝えてほしい。

5 自他の発表等を踏まえ、自分が大切にしたい関わり方について考える。

「自分たちの話し合いや他グループの発表を参考にしながら、自分が大切にしたい関わり方を具体的に考えよう。」

■自分で考えたことや他者の考えたことを生かしながら、自分が大切にしたい具体的な関わり方を見つけ、その内容を相手に伝えるための整理をする。

○前時の話し合い活動によって出された関わり方の例も参考にし、自分が経験したことも含めながら自分の考えをまとめている。



○互いに発表や意見交換を行い、自分たちの話し合いテーマについての具体的な楽しみ方について話し合っている。

○ホワイトボードも使いながら、自分たちの考えをまとめようとしている。

・発表の際は、ホワイトボードを活用しながら話し合いの過程や結論を発表し、それぞれのテーマの楽しみ方が共有できるようにする。

(認知過程の外化)

○「誰もが行きやすく、自由に使える施設、場所で体を動かす。」


○「スポーツ中継や動画サイト、SNS、マンガ、アニメなど多様な触れ方がある。」

○「試合観戦でチームを支えたり、グッズを購入したりすることも支えることになる。」

○「マスメディアやSNSを活用して、ルールやスポーツの知識を得る。」

○自グループ以外の話聞き、新たな視点や考え方について触れることができている。

○「する、みる、支える、知る」のそれぞれの多様な関わり方についての理解を深め、自分が大切にしたい関わり方を見つけている。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>6 自分が大切にしたい関わり方について伝え合う。<br/>「自分が大切にしたい関わり方について互いに伝え合おう。」</p> <p>■運動やスポーツの多様な関わり方について、互いに自分の日常生活に関連して考えてほしい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>◎運動やスポーツへの関わり方について、自分の考えを相手に伝えたり、互いに認め合ったりしている。</p>                                                                                                                                  |
| <p>まとめ<br/>振り返り</p> <p>7 本時の学習で考えたことや学んだことについて振り返る。<br/>「関わり方について知ったり、伝え合ったりした活動によって、確認できたことや新たに気付いたりしたことについて振り返ってみよう。」</p> <p>■運動やスポーツとの多様な関わり方を実践するきっかけをつくるとともに、今後の体育分野の運動領域との関連付けができるようにしたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>○自分で考えたことや相手の考えに触れたことにより、運動やスポーツの多様な関わり方についての意識が高まった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・話し合い結果や振り返りを瞬時に共有するため、TeamsとC-ラーニングを使う。<br/>(瞬時の共有化)</p> </div> <p>○自分自身の運動やスポーツとの関わり方について具体的に考えることで、自分の日常生活でも実践できることについて発見できた。</p> |
| <p>《生徒の振り返りから》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツは、多くの人たちが支えあって成り立っているのだと思いました。知ることによってスポーツが楽しくなったり、誰かと一緒にすることによって、よりスポーツを楽しむことができるのではないかと思います。</li> <li>・友達とはじめてみたり、身近なところから楽しむことが大切だと思った。これからもスポーツなどを楽しく続けていきたい。</li> <li>・実際にスポーツを「する」前に試合やマンガを「みる」と、より一層スポーツを楽しめるのではないかと、と思いました。オリンピックや試合をみて、いろいろなスポーツについて知ったうえで、やってみたいと思いました。</li> <li>・スポーツをするには、スポーツをする人だけでなく、審判やスタッフさん、家族など、たくさんの人に支えられているということを知ることができました。これから、スポーツなどをするときには、感謝の気持ちを大切にしていきたいです。</li> <li>・スポーツができる環境には多数の人達が協力してくれているということを、改めて知ることができました。スポーツの関わり方について、さらに深掘りすることができたと思います。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                                                                           |

## 4 批判的・実践的省察

## (1) 「未来を自立的に生きる－出会い・発見・喜びのある秋田の学びを通して－」について

今回の体育理論分野の学習は、保健体育科の研究主題「運動を『する・みる・支える・知る』楽しさや喜びを味わう」を実現するための礎となる学習である。この学習を深めることにより、体育の多様な関わり方に出会い、体育学習や日常生活における運動の実践の仕方等を発見することに結び付く。具体的には「様々な視点」や「多様な考え方」に触れることで運動やスポーツとの多様な関わりを認知し、楽しさや喜びの味わい方の幅が広がることになる。

## (2) ICTの三つの特質（瞬時の共有化、思考の可視化、試行の繰り返し）について

前時の学習活動の確認や本時の振り返りについては、ICTを使うことで瞬時の共有化や思考の可視化を図ることができた。TeamsとCラーニングを用いた学習シートや振り返りでは、そのやりとりをスムーズに進めることができた。

課題としては、授業中に相手の発表等を聞きながらメモ等をとる際、タブレットPCの使い方に工夫が必要であることが挙げられる。前時までの授業では生徒がパソコンでメモをとる形で行っていたが、発表者の方を見ずにタブレットPCを見ながらメモ内容をひたすら打ち込むという姿に違和感を覚え、発表を聞くときにはタブレットPCは使わないこととした。ICTを使うことによって学習が停滞したり、ねらい達成の妨げになったりする可能性があるかと判断したからである。今後は、指で書くようなホワイトボード機能等を活用し、発表者に対する失礼がないように、「聞くこと」「書くこと」を両立していきたい。

## (3) ねらいを達成させるための手立て（学習の質を高めるポイント）について

話し合い活動の流れをルーティーン化させることで、教師側の説明時間を最小限にし、生徒の活動機会や時間を確保するようにした。そして、必要感のある身近な学習課題を設定することで、全生徒が自分の考えを明確にもつことができるようにし、各グループでの話し合いがスムーズに進められるようにした。また、話合うための資料として前時の学習活動の内容を紹介し、前時とのつながりももたせるようにした。さらに、自分たちで話し合った内容について全ての生徒が発表できるようにするために、ワークショップ方式によって発表場面を設けることができた。これらにより、自他の多様な考え方に触れるとともに、自分の考えを様々な場面で相手に伝えることができた。

今回の授業において、生徒が話合うテーマ選択は全て教師側からの指示によるものとした。テーマごとの人数のばらつきが出ることにより、発表機会のばらつきやタイムロスを避けるためである。それによって、全生徒の発表の場を確保することと時間の有効活用はほぼ達成できたものの、自己の課題を発見するというねらいの達成には課題が残った。今後は自己決定させる場面と発表機会の確保を両立させる実践を展開したい。

## 保健体育科学習指導計画

学級 1年A組 32名  
 授業者 藤倉修  
 共同研究者 松本奈緒

### V 目標

- (1) 運動やスポーツが多様であることについて、次の視点から理解することができる。
  - ・運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び面白い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。
  - ・運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。
  - ・世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。
- (2) 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。
- (3) 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むことができる。

### VI 全体計画 (総時数3時間)

- 1 運動やスポーツの必要性和楽しさ・・・ (1時間)
- 2 運動やスポーツへの多様な関わり方・・・ (1時間)
- 3 運動やスポーツへの多様な楽しみ方・・・ (1時間)

| 時数        | ねらい・学習活動等                                                                                                            | 評価の観点 |   | 評価方法と指導の留意点等                                                                                                                                                   |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|           |                                                                                                                      | 知     | 態 |                                                                                                                                                                |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツの必要性和楽しさについての学習に積極的に取り組みることができる。</li> </ul>                           |       | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツが多様であることについて、記述や意見交換などから見取り、他の考えに触れたり、自分たちの考えを紹介したりすることで、必要性和楽しさを学習できるようにする。<br/>(ホワイトボード・発言・ワークシート)</li> </ul> |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツは、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があることを理解する。</li> </ul>               |       | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツがもつ「行うこと、見ること、支えること及び知ることなど」の多様な関わり方があることについて、自分自身の実態と照らし合わせて考えることができるようにする。<br/>(ホワイトボード・発言・ワークシート)</li> </ul> |
| 本時<br>3/3 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。</li> </ul> |       | ○ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動やスポーツとの関わり方について話し合うことにより、自分の関わり方を再確認したり、新たに気付いたりしたことや今後の自分の生活に役立てられるようにする。<br/>(ホワイトボード・発言・ワークシート)</li> </ul>        |

### I 単元名と指導のポイント

「体育理論」ー運動やスポーツがもつ「する・みる・支える・知る」といった多様な楽しみ方について考えを深めることができたりかー

### II 単元について

体育理論の内容は、体育分野における運動の実践や保健分野との関連を図りつつ、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するため、第1学年では運動やスポーツの多様性を、第2学年では運動やスポーツの効果と学び方を、第3学年では文化としてのスポーツの意義を中心に構成されている。それらを学習することが、中学校期における運動やスポーツの合理的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送る上で必要となる運動やスポーツに関する科学的知識等の習得につながるものとなる。その効果的な習得のために、体育分野の他の運動に関する領域との関連を図りつつ、3つの資質・能力を育成していく。

第1学年の学習内容である「運動やスポーツの多様性」では、その必要性和楽しさ、多様な関わり方、多様な楽しみ方についての学習を通して、体育の見方・考え方を育み、現在及び将来における自己の適性に応じた多様な関わり方を見つけることができるようにすることが大切である。

### III 生徒観と指導観について

当該学級において、スポーツを会場やTVで見たことがあるという生徒は約70%であり、運動する機会が多い生徒がその多くを占める。また、所属部活動等の補助役員として「支える」という関わり方をしたことがある生徒は40%程度である。本校の夏季休業中における自由研究では、保健体育分野の研究をした生徒は全て運動部の所属生徒であった。このことから、運動やスポーツへの関わり方は、「する」ということが主となっている状況が見られる。

体育の見方・考え方は、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点から踏まえて、運動やスポーツをその価値や特性に着目しながら楽しさや喜びとともに体力の向上を果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方によって、育まれるものである。また、全ての生徒が運動やスポーツの必要性に気付くことは、運動の得意や苦手に関係なく運動を楽しむとうとする意欲につながる。多様な楽しさから生みだされてきた運動の楽しさに気付くことは、生徒の運動機会の二極化傾向を緩和することにもつながり、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成にも結びつくものと考えられる。

### IV 研究の具体的な実践事項

- (1) ICTの三つの特質 (随時の共有化、思考の可視化、試行の繰り返し) との関連
  - 「Cラーニング」を活用し、これまでの自他の考えについて客観的に触れ合い、学習の軌跡を確認したり、本時の学習を振り返ったりすることができるようにする。また、話し合い場面においては、「Teams」によって自分たちの活動のヒントとして活用できるようにする。
- (2) 対話の三つの方向性 (集団での省察、認知過程の外化、教え合い) との関連
  - 一人一人が自分の経験や考えをもちながら話し合いに臨み、自他の考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。そのためにも、相手に対して明確に伝えたり、説明したりする対話、相手のよさや立場を踏まえた傾聴や教え合いが進められるようにする。

Ⅶ 本時の計画

1 ねらい  
運動やスポーツがへの関わりが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。

| 2 展開     | 学習活動・主な発問等                                                                                                         | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                              |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 過程       | 1 これまで学習した運動やスポーツの4つの関わり方を再確認する。<br>「4つの関わり方」には何が合った？                                                              | ・運動やスポーツは「する、みる、支える、知る」の4つの主な関わり方があった。                                                                                                                    |
| 課題を捉える   | 2 本時の学習課題を確認する。<br>豊かなスポーツライフを実現するためには、中学生として4つの関わり方についてどう関わらなければならないのか                                            | ・「スポーツをする楽しさを考え直そう」<br>・「スポーツ観戦の楽しさをPRしよう」<br>・「補助役員で感じたことを思い出そう」<br>・「どんなことを知ると、豊かなスポーツライフを送ることができるだろうか」                                                 |
| 課題解決     | 3 自分の考えを明確にし、既習事項を活用しながらグループでの話し合い活動をする。                                                                           | ・「目標達成や健康づくりを目的とする」<br>・「スポーツ観戦で余暇を楽しむ」<br>・「活動を支えることで地域を活性化する」<br>・「健康づくりのための方法を知る」                                                                      |
| 問い直し     | 4 自分たちが話し合った内容についてワークショップ方式で発表する。<br>自分たちが話し合った関わり方や楽しみ方について紹介しよう                                                  | ・「自分に合ったスポーツを見つけ、機会に応じて楽しむことが、健康づくりをする」<br>・「部活動や秋田のスポーツを応援する」<br>・「スポーツボランティアで自分も楽しむ」<br>・「トレーニング方法や健康づくりの情報を調べよう」                                       |
| 見直し      | 5 他グループの発表や質問されたこと等を踏まえ、自分の考えをまとめ、今後の生活において、具体的にどのように運動やスポーツと関わっていこうと思えますか                                         | ・「競い合うスポーツだけではなく、力を合わせて達成するようなスポーツもしたい」<br>・「バランスよく全ての関わり方に触れることが大切だと思う。毎日の運動や観戦、授業での活動などで関わりたい」                                                          |
| まとめと振り返り | 6 自分の考えを4人組で伝え合う。<br>7 本時の学習で、考えたことや学んだことについて振り返る。<br>様々な関わり方を知ったり、伝え合ったりする活動によって、確認できたことや新たに気付いたりしたことについて振り返ってみよう | ・「することが少ないので、家族や友だちと一緒に運動する機会をつくりたい」<br>・「知識や理論を知ること、練習の効果を高められるように運動を行いたい」<br>・「話し合いを通して、色々な形によるスポーツの楽しみ方に気付くことができた」<br>・「スポーツや運動との関わり方について、家族とも話題にしてみた」 |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「独創的な省察力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

□ = ICTの活用目的  
□ = 対話の活用目的

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・前時の活動を思い出すことができるようにするため、キーワードや振り返りコメントを紹介する。<br>・スムーズに話し合い活動に移行できるようにするため、グループやテーマを指示する。<br>・話し合った結論を相手に伝わりやすくするために、実践する内容に具体性を取り入れるように説明する。<br>・個人やグループの考えを深めるために、個人で考えた後、4人で自分たちのテーマについて話し合いを進めてから、同一テーマのもう1グループとの意見交換を行うように促す。<br>ウ) 教え合い ア) 集団での省察・意思決定<br>・多角的・多面的な意見交換ができるようにするために、自分たちが話し合った内容を他のテーマで話し合っているグループへ説明するように伝える。<br>イ) 認知過程の外化 | 見取りたい生徒の姿<br>○4つの関わり方に対して、深く追求しようとする意欲を高めようとしている。<br>・4つの関わり方のうち、自分があるものがない関わり方にはどんなものがあるだろうか。<br>○本時の学習課題を、自分のこととして捉え、意欲的に学習に参加している。<br>・豊かなスポーツライフを送るために、色々な関わり方について、自分に合ったものを見つきたい。 |
| ・個人やグループの考えを深めるために、個人で考えた後、4人で自分たちのテーマについて話し合いを進めてから、同一テーマのもう1グループとの意見交換を行うように促す。<br>ウ) 教え合い ア) 集団での省察・意思決定<br>・多角的・多面的な意見交換ができるようにするために、自分たちが話し合った内容を他のテーマで話し合っているグループへ説明するように伝える。<br>イ) 認知過程の外化                                                                                                                                                  | ○経験したことや感じたことを伝え合い、それぞれの関わり方の楽しさを見出している。                                                                                                                                               |
| ・自分の生活に生かすことができるようにするため、自分のこれまでの運動との関わり、話し合い活動や発表内容を受けて、どうすれば豊かなスポーツライフを実現できるか具体的に考えるように促す。<br>・互いの結論を確認し合うために、自分がどの関わり方を重視し、具体的にどう関わっていくかを伝え合うように促す。                                                                                                                                                                                              | ○互いに発表や意見交換を行うことにより、自分に合う関わり方を見つかけようとしている。<br>○結論や理由を示しながら、関わり方についてのポイントを説明している。<br>○他グループから出た意見や質問を参考にし、様々な視点から考えることができています。<br>○中学生の自分に合った関わり方について、具体的性のある関わり方を見つけている。               |
| ・今後の自らの生活に役立てるため、スポーツや運動との関わり方、話し合い活動の成果を関連させて振り返るように促す。<br>イ) 認知過程の外化                                                                                                                                                                                                                                                                             | 運動やスポーツへの関わり方に関する課題を見つけ、その解決に向けた自分なりの考えを伝えることができています。                                                                                                                                  |
| 話し合い結果や振り返り、瞬間に共有するため、TeamsとC-ラーニングを使う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | ○運動やスポーツとの関わり方について、再確認したり新たに気付いたりしたことを今後の生活に役立てようとしている。<br>・活動を通して、様々な考え方に触れ、自分自身のことについて考えることができた。                                                                                     |

## —本実践から見えてくること—

多様な運動・スポーツとの関わり方を論議し表現する体育理論の授業

共同研究者：松本 奈緒

(秋田大学教育文化学部 スポーツ・健康教育講座)

「生涯スポーツ」という言葉は人間が一生何らかの形でスポーツに関わっていく、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を体育を通じて獲得していくという、大きな目標を示す言葉である。従来の生涯スポーツはスポーツを行う「する」を中心に考えられてきたものであるが、スポーツとの関わりをスポーツを行う事で実施する「する」以外にもスポーツ観戦を含む「見る」、スポーツボランティア等を含む「支える」を含めるとより多くの幅広い人達に関わることができるであろう。本実践は通例でいうと軽視されがちな「体育理論」を運動やスポーツとの関わり方を知ったり、考えを深める時間として設定することで、このような部分を補完する意味のある時間として設定されていた所が興味深い点であった。

本実践では教科書等はいわずに、話し合いを中心に生徒達の多様な意見を引き出す形式の授業展開であった。各班に配られたホワイトボードを上手く活用し、様々な意見を生徒は活発に出していく。この授業案を相談された際に、話し合い中心の授業展開をする場合、教師が話し合いの場だけ設けて何も準備をしない、あるいは、知識の部分が皆無の授業は避けたいと思い、ヒントカードとして具体的な資料を出すことと意見集約のための工夫をお願いした。この点が上手く機能し、ヒントカードの例を参考にし、検討しながら、自分オリジナルの意見を時間を活用しながら出せ

ていたように思う。

意見を出す場面だけでなく、各班の意見を発表し、お互いに助言したり価値づけたりする場面においても工夫が、見られた。各班の意見を移動式のホワイトボードにまとめ、発表者がその前で説明し、順次場所を移動しながら発表を聞く発表の仕方の工夫があった。発表者も1名だけではなく、複数の発表の機会を設けることで輪番とし、発表の機会も全員に保証することが出来ていた。各発表場面が活気づき、生徒がやる気を出して発表・質疑応答する場面が見え、大変良かったように思う。

ICTの活用については、授業中では、自分の意見をPCに書き込む場面が見られた。ワープロ機能を用いて入力する場面では生徒達はだいぶ慣れていて、スムーズに入力していた。1時間のみでの参観ではその入力内容がどのように活用されているのか、分かりかねる部分もあったが、授業では入力するだけでそれを上手く活用する場面が見られなかった。ICTの活用という視点で見れば、手書きで入力する所をワープロでPCに入力するだけでは不十分であったように思う。記入した内容が他の生徒のものも含めて、即座に画面等を通じて生徒に見せる等のICTの特徴を充分利用したより良い活用方があったのではないか。ICTの活用については、課題が残るのではなかったらうか。

最後になるが、生徒が授業のまとめとして発表してくれた感想に「自分は文化系部活動に入っていてスポーツを行う機会は少ないが、見るとか支えるならできそうだ。」と今後のスポーツ従事が発展する見通しが感じられるものがあった。本研究授業を実施したことで生徒達の今の、あるいは、数年後のスポーツ従事が改善したのならこれ程大きな成果はないと考える。

## 令和4年度の実践記録（技術・家庭）

## －実践記録（第2学年）－

## 1 題材名

「幼児との関わり」

－課題別グループでの話し合いを通して、幼児とのよりよい関わりを見つけることができるか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) 対話の三つの方向性



生活や社会の中から問題を見だし課題を設定するという力を育成するために、幼児との関わり方について同じ課題意識をもった生徒で話し合うことで、よりよい関わり方について集団での深い学びにつなげた。

## (2) 柔軟な授業展開

問い直しの場面では、ゲストティーチャーの助言を取り入れることで、新たな気づきが生まれるようにした。その気づきを生かして、これまでの自分の考えを見直したり深めたりできるような授業を展開した。

## 3 授業の実際

| 過程    | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 教師の手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題の発見 | <p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）</p> <p>1 前時までの学習を振り返る。<br/>「幼児の身体的特徴にはどんなものがあったらう。班の人と話してみて。」</p> <p>■自分の考えを、近くの生徒に伝え、自信をもっている様子の生徒を見つける。<br/>■生徒の反応は予想通り。新しい考えより、前時までの学習を生かして考えている生徒がほとんどである。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。<br/>「自分たちの課題を解決するために、幼児とどんな関わり方をしたらよいらう。」</p> <p>■前時に定めた自分たちの課題を確認させ交流への期待を高める。</p> | <p style="text-align: center;"><b>教師の手立て</b></p> <p>○：見取った生徒の姿<br/>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>幼児が生活している様子について、瞬時に共有化できるように、大型モニターに提示する。</p> </div> <p>○「自分たちと比べて手足が小さい」<br/>○「体の割に頭が大きい。だから転びやすい」</p> <p>○自分たちの班の課題を確認し、本時の話し合いの見通しをもっている。</p> |

|                                              |                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学<br/>び<br/>の<br/>共<br/>有</p>             | <p>■本時の活動を説明し、これまでの学習を生かそうとする生徒の様子を見取る。</p>                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>課<br/>題<br/>方<br/>法<br/>の<br/>検<br/>討</p> | <p>3 課題別グループで、幼児とのよりよい関わり方について話し合い、全体で共有する。</p> <p>「幼児の成長につながる関わり方ができればいいね。」</p> <p>「班で話し合った後、全体で発表してもらいます。」</p> <p>■机間指導をしながら、生徒の思考の傾向を捉える。</p> <p>■話し合いが停滞している班に、「どうしてこう考えたの?」と声かけをして意見に根拠をもたせるようにする。</p> | <p>○どんなことに気を付けながら関わったらよいか、グループで意見を出し合っている。</p> <p>○「前の授業でやっていたけれど、話す時に視線を合わせるとかやった方がいい」</p>  <p>○ホワイトボードを活用することで、各々の考えを可視化している。</p> <p>○幼児と実際に触れ合う場面を想像している。</p> <p>○自分の考えを、グループのメンバーに伝えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>発表の際は、ホワイトボードを活用し、それぞれのグループの根拠が学級全体で共有できるようにする。</p> </div>  <p>○「幼児に積極的に話しかける。その時、難しい言葉は簡単に、ジェスチャーを使うといった意見が出ました」</p> <p>○「何でもやってあげるのではなく見守りながらできないことがあったら手伝ってあげることで幼児の自主性が光るのでは?」</p> |



|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | <p>4 幼稚園教諭の助言をもとに、自分たちが考えた関わり方について修正したり、検討し直したりする。</p> <p>「附属幼稚園の先生にインタビューをお願いしました。年齢別にお話ししてもらっています。見てみましょう。」</p> <p>■インタビューを聞きながらメモを取る様子が見られた。しかし、付け加えた内容についてグループで再検討したり、どの部分を見直したかの話し合いには進展しなかった。</p> <p>■明確な指示が必要だった。</p> | <p>◎幼児の心身の発達や生活の特徴など既習事項に着目して、よりよい関わり方を提案したりその根拠を説明している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>幼稚園教諭の助言を瞬時に共有化できるように、大型モニターに提示する。</p> </div> <p>○「5歳児のダイナミックな動きってどんな動き方なんだろう」</p> <p>○年齢別の違いや共通点に気づき、メモを取っている。</p> |
| <p>新たな手法</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | <p>5 本時の学習の振り返りをする。</p> <p>「振り返りを発表してもらいましょう。」</p> <p>■机間指導しながら幼稚園教諭の助言によって、新たな気づきが生まれている生徒を見取り、指名する。</p>                                 | <p>○「幼児と関わる時に気を付ける点に気づき、幼児の成長に関わる関わり方をしたいと思った。3歳の子どもたちは初めての集団生活で緊張しているから、幼児同士の距離や僕たちとの距離が近づくような交流をしたい。」</p> <p>○より深く関わるという視点をもてた生徒がいる。</p> <p>○幼児との関わりに、前向きな気持ちをもっている。</p> <p>○振り返りの時間が不足している生徒がいる。</p>                                                 |
| <p>《生徒の振り返りから》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3、4、5歳児の違い、共通点を園の先生の話聞いて、しっかりと学ぶことができた。また、自分たちの班の課題を解決するための関わり方について、私は、中1の時の職場体験学習で学んだことを生かして話し合うことができた。訪問した時は、たくさんの幼児とコミュニケーションをとって関わっていきたい。</li> <li>・ ミエルトークはよくできたが、話し合いの論点がずれてしまった。だが、関わり方については他の班のものも参考にできたからよかった。また、幼稚園児と遊ぶ時には、先生たちのインタビューにあった通り、園児にけがをさせないように頑張りたい。</li> <li>・ 今日の授業の中で、幼児のことを第一に考えて関わり方を考えることができたのでよかった。けがの面などでは、あまり考えることができていなかったなので、その辺りも考えて自分たちの</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                         |

課題を解決できるように関わっていきたいと思う。

- ・自分が幼児の時に実際に経験した出来事から、今の私たちが関わりの際に注意しなければいけないことについて深く考えることができた。年齢にかかわらず、思いやりをもって接することは大切だと改めて実感した。

#### 4 授業の省察

本時は自分たちで設定した課題別グループで話し合いを進めた。一般的な幼児との関わり方で大切だと思われることについて、生徒は既習事項からある程度は一人で考えることができるが、さらに深い部分にたどりつくためにも、本時はミエルトークを活用した。

学習した知識や技能を実践に生かせる場が題材の中に設定されていることで、話し合う必要性が生まれていたように感じる。生徒は、「学習したことは〇〇だけれど、実際の中では△△なのではないか」「職場体験学習で幼稚園を訪問した時に□□だった」といった意見交流を通して様々な考えと出会うことができていた。しかし、話し合いが一般的な意見のやりとりで終わってしまった班もあった。さらに話し合いを効果的なものにするためにも、自立思考の時間を保障し、話し合うための材料をもたせる工夫も必要である。また、学習課題のつくりが、「自分たちの課題をどのように解決するのか」「幼児とどのように関わるのか」といった二段重ねになっていたために、話し合っている内容が、グループによってずれていた部分もあり、整理する必要があった。

終末において幼稚園教諭のインタビューを活用した。生徒同士の話し合いでは分からない現場の生の声を聞くこと、年齢別に幼児の様子を聞くことは生徒の考えを深めることにつながった。映像データとしたことで、生徒は自分の見たいタイミングでもう一度見ることもでき、他の学級、次年度も活用できるといったメリットもある。

また、教室内に「幼児期の発達段階」を掲示することで、話し合う際の一助となり、視覚的な情報を効果的に活用できたと考える。

## 技術・家庭科（家庭分野）学習指導計画

学級 2年A組 32名  
 授業者 三浦 幹子  
 共同研究者 堀江さおり

### I 題材名と指導のポイント

「幼児との関わり」

一 課題別グループでの話しを通して、幼児とのよりよい関わり方を見つけていくことができるか

### II 題材について

「A家族・家庭生活」の内容においては、課題をもって家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、家族・家庭生活に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、家族・家庭や地域における生活の課題を解決する力を養い、家庭生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

現在、少子化、幼児虐待など子どもにも関わる社会問題は増え、子どもを取り巻く環境も変化もつ幼児を理解し、思いやりの心や感謝の気持ちなどを育て、自己を含めた人間の成長や発達とそれに関わる家庭や地域、周囲の環境の影響や重要性を認識させることができると考える。実践的・体験的な学習の場として幼稚園訪問を行い、実際に幼児と触れ合う体験をすることで幼児への関心を高め、生徒自身も家族や周りの人々に見守られて成長してきたということを実感させたい。また、コロナ禍によって様々な影響を配慮し、園と綿密な連絡を取るとともに準備を十分整え、生徒が幼児と主体的に関わることができるようになる。

### III 生徒観と指導観について

本学級の事前アンケートによると7割の生徒は幼児に対して「かわいい」など好意的に捉えているが、3割の生徒は苦手だと感じている。苦手な理由としては、「幼児に対してどのような反応をしたらよいか分からない」「泣かれた時にどう対応したらよいか分からない」「関わる機会がないから」などが挙げられた。不安な気持ちを軽減させるために、訪問する幼稚園についても事前学習を行う。本時は、実際に幼稚園を訪問した時の幼児とのよりよい関わり方を考える時間となる。事前に設定した幼児の遊び、言葉、情緒などの課題別グループに分かれ、発達段階や活動状況、感染症予防に応じた関わり方を考えさせたい。その際、これまでの学習で習得した知識及び技能、家族からの話や自身の生活経験、幼稚園教諭のアドバイスを参考にさせながら、関わり方の工夫を考えられるようにする。幼児との触れ合いが意義のある活動になるためにも、関わりに対する期待や不安を整理し、根拠に基づいた提案ができるように助言したい。そして生徒一人一人が、幼稚園訪問のイメージをつかみ、活動の展望がもてるよう指導していきたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

(1) 対話の三つの方向性

生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定するという力を育成するために、幼児との関わり方について同じ課題意識をもった生徒で話し合うことで、よりよい関わり方について集団での深い学びにつなげる。

(2) 柔軟な授業展開

問い直しの場面では、ゲストティーチャーの助言を取り入れることで新たな気づきが生まれるようにする。その気づきを生かして、これまでの自分の考えを見直したり深めたりできるようにする。

## V 目標

- (1) 幼児との交流を通して、幼児の発達や生活の特徴に応じた関わり方について理解している。
- (2) 幼児の心身の発達や生活の特徴に応じた関わり方を工夫し実践することができる。
- (3) 幼児と触れ合う活動に向けて、課題をもち主体的に取り組もうとしている。

## VI 全体計画（総時数7時間）

| 時数             | ねらい・学習活動等                                                                                                                                                      | 評価の観点 |     | 評価方法と指導の留意点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                |                                                                                                                                                                | 知     | 思 態 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1<br>本時<br>2/7 | <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園訪問に向けて、幼児との関わりについて問題を見だし、課題を設定する。（幼児の言葉、情緒、遊び、運動機能に関わることなど）</li> <li>課題別グループでの話し合いを通して、幼児とのよりよい関わり方を見つける。</li> </ul> |       | ○   | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の興味・関心や既習事項をもとに、幼児と関わる上での課題を設定しているかを見取り、課題設定ができない生徒には個別に助言する。（学習シート）</li> <li>幼児の心身の発達や生活の特徴など既習事項に着目して、よりよい関わり方を提案したり、その根拠を説明したりしているかを見取る。関わり方の捉えが不十分な生徒には、グループ内で確認するよう助言する。（ホワイトボード、行動観察、学習シート）</li> <li>幼稚園訪問当日の活動の流れについて理解し、注意事項をまとめて見取る。活動の流れがつかめていない生徒には、できている生徒の学習シートをモニターに提示し、確認できるようにする。（学習シート、行動観察）</li> <li>課題に沿って幼児と関わっているか活動状況を見取り、関わることでできない生徒には個別に助言や支援を行う。（行動観察）</li> <li>幼児と関わることで課題解決したこと、新たな発見や更に関わりたいことについてまとめて見取ることを確認し、まとめられない生徒には、活動時の写真を提示し支援する。（コロボノート）</li> <li>学んだことを共有し、次の学習や生活に生かそうとしているかを見取る。まとめが不十分な生徒には視点を示すことで、体験や学びを紹介できるようにする。（行動観察、学習シート）</li> </ul> |
| 1              | <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園訪問当日の活動の流れや心構えを確認する。</li> </ul>                                                                                      |       | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 2              | <ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園を訪問し、事前学習をもとに幼児と触れ合う。</li> </ul>                                                                                     |       | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1              | <ul style="list-style-type: none"> <li>コロボノートを活用し、幼稚園訪問のまとめを行う。</li> </ul>                                                                                     |       | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 1              | <ul style="list-style-type: none"> <li>まとめたことをグループや学級で共有化する。</li> </ul>                                                                                        |       | ○   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

Ⅶ 本時の計画

- 1 ねらい  
 幼児の心身の発達や生活の特徴など既習事項に着目して、よりよい関わり方を提案したり、その根拠を説明したりできる。
- 2 展開

| 過程      | 学習活動・主な発問等                                                                                                                                                                    | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問題の発見   | 1 前時までの学習を振り返る。<br>2 本時の学習課題を確認する。<br>自分たちの課題を解決するために、幼児とどんな関わり方をしたらよいか<br>3 課題別グループで、幼児とのよりよい関わり方について話し合い、全体で共有する。<br>課題解決に向けて、どんな関わりができるか各グループで話し合いますよ<br>どうしてそのように考えたのですか。 | 想定される生徒の学習状況<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児と自分たちとでは様々な違いがあるかな」</li> <li>・「周りの人に支えられて成長してきた」</li> <li>・「実際に触れ合えるのは楽しみだな」</li> <li>・「うまくコミュニケーションがとれるのだろうか」</li> <li>・「小さい子は怖い」</li> <li>・「幼児にどんなふうに話しかけたらいいのかな」</li> <li>・「自分から遊びを提案してもいいのかな」</li> <li>・「コロナ対策を忘れないようにしよう」</li> <li>・「話ができなかったらどうしよう」</li> <li>・「体の大きさが違うから怖がらせてはいけない」</li> <li>・「視野の広さが違うと何に気を付けないといけないのかな」</li> <li>・卒園生は園の様子をつかんでいる。</li> <li>・グループで考えたことを具体的に説明しようとしている。</li> </ul> |
| 解決方法の検討 | 4 幼稚園教諭の助言をもとに、自分たちが考えた関わり方について見直す。<br>アドバイスを生かして、見直しましょう。                                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分たちの考えはこのままでいいこう」</li> <li>・「幼稚園の先生の話を聞いて、行動の根拠が明確になった」</li> <li>・「自分たちが考えている以上に、幼児と触れ合う人たちは深く考えているのだな」</li> <li>・「早く幼稚園に行って、園児と話してみたいな」</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 直し      | 5 本時の学習の振り返りをする。                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日の自分の学び方はN.E.S.のどれかな」</li> <li>・「今日の学習のねらいは達成できたかな」</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック文字で示しています。

＝ICTの活用目的

＝対話の活用目的

| 指導の目的と手立て                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 見取りたい生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幼児が生活している様子について、瞬時に共有化できるように、大型モニターに提示する。<br>・互いの思考の共通点や相違点をつかめるように、近くの人と考えを伝え合うように促す。<br>・個々の意見をつなぎ、全体像を導き出すために集団での省察を行うように指示する。<br>・グループで話し合う際に、互いの考えを可視化できるようにホワイトボードを用いる。<br>・交流のイメージをもたせるために、附属幼稚園の様子や交流の条件を提示する。<br>・幼児の年齢別の発達の様子（体の大きさや運動機能など）について想起できるように、資料を準備する。<br>・課題が異なるグループとの相違点や共通点を確認し、よりよい関わり方につながるようにする。<br>幼稚園教諭の助言を瞬時に共有化できるように、大型モニターに提示する。また、繰り返しタブレットで視聴できるように準備する。 | 見取りたい生徒の姿<br>○これまでの学習を振り返り、幼児の言動や生活の様子を想起している。<br>○幼児との交流に意欲が高まっている。<br>○グループのメンバーと協力して課題解決を目指すとしている。<br>○幼児の安全や発達段階、感染症対策を踏まえた関わり方を考案している。<br>○これまでの生活経験、既習事項、自分の疑問、気付きなど多くの意見を交換している。<br>・自分のやりたいことを押しつけず幼児の気持ちを優先させる。<br>・体の大きさの違いがあるから目線を合わせる配慮が必要だ。<br>・幼児の言葉をしっかりと聞いてあげよう。<br>・真似をされないように乱暴な言葉遣いはしない。<br>○他のグループの話を聞くことで、自分の考えを広げている。<br>○幼稚園教諭の助言を得ることで、新たな気付きが生まれ、考えた内容について見直しや修正をしている。<br>○幼児の特性や個性に応じた関わり方の大切さに気付いている。<br>・関わる中で、幼児の思いをくみ取ることが大切だ。<br>幼児の心身の発達や生活の特徴など既習事項に着目して、よりよい関わり方を提案したり、その根拠を説明したりできる。<br>（ホワイトボード、行動観察、学習シート）<br>○次時の活動の見通しをもっている。<br>・園児に早く会いたいな。 |
| N評価については「向上したい点は何か」<br>E評価については「どんな自分を発見できたか」<br>S評価については「どんな点に満足できたか」を記述するように指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

—本実践から見えてくること—

よりよい生活を工夫し、創造する  
—実生活を検証・評価し、計画・実践する  
学びを通して—

共同研究者：堀江さおり

(秋田大学教育文化学部・教育実践講座)

## 1 本実践の特徴

少子化が進む現在、生徒の日常では一人っ子であったり兄弟姉妹がいても年齢が近いなどで幼児と関わる機会が大幅に減少しており、幼児と接することそのものが特別な出来事になりつつある。また、生徒自身は幼児期を経て、発達・発育し中学生となっているが、「育てられている」という自覚のもと周囲の関わりを見ていたわけではないため、周囲が子どもの成長に良くも悪くも影響を与えるというイメージをはっきりとは持ちにくい。

子どもを育てていくことは、その保護者だけでなく周囲の適切な協力も必要である。生徒に直接的にも間接的にも幼児の成長に関わるという自覚と意識を育むことは、自分自死が望む将来設計を実現するためにも必要不可欠な学習といえるだろう。

本実践は幼稚園訪問を核に幼児との関わり方を実践的・体験的に学ぶことを通して、幼児の成長に貢献するための生徒なりの理論の確立を目指しているだけでなく、生徒自身の養育者としての成長を促すことも目指している。

## 2 本実践の概要と生徒の様子

導入では、これまでに学習した幼児の発達や成長の特徴を踏まえ、グループ毎に設定した幼児と関わるうえで解決したい課題を確認し、幼児への思いを膨らませていた。生徒が設定した課題は、遊びを通して運動機能を向上させる、人との関わりを通して情緒を育てる、積極的に話しかけることで言語能力の向上を促すなど多岐にわたっており、周囲が幼児の

成長を促していることを十分に考えていた。

展開では、実際に幼児と接する場面をイメージしながら、育てる主体としてどうすべきかを検討していたが、「怖がらせないためにどうしよう?」「本当に受け入れてもらえるかな?」など不安を感じつつも、「幼稚園の先生ってすごいよね」「うちの親も色々考えていたんだな」など幼児の成長に良い影響を与えるための働きかけを検討していた。生徒が、自分たちの想像している幼児と実際の幼児には乖離があることを十分理解していたため、指導教諭が提示した幼稚園教諭からのアドバイス動画は効果的であった。月齢毎の幼児の特徴と関わり方のポイントから、自分たちの課題解決手段を再度見直し修正を加える、判断がつかないので現場で確認しながらやってみようなど、より建設的に幼稚園訪問に取り組む姿勢がみられた。幼児が中学生と触れ合うことを楽しみにしているという幼稚園教諭の話に、幼児と接することが怖いと言っていた生徒の表情も明るくなっていた。

まとめでは、幼児と接する際の注意点と新型コロナウイルス感染症対策を再確認したが、授業開始当初よりも生徒のわくわくした様子がうかがえ、やってみたいという意欲の高まりを感じ取れた。

## 3 今後の展望

自分自身が保護者や周囲の協力のおかげで成長してきたとはいえ十分な自覚があるわけではないため、育てる立場で幼児との関わりを考えることで、育てることの大切さや保護者の苦勞を改めて実感させることのできる実践であった。

新型コロナウイルスの影響で中学生が幼児と接触することは難しくなっていると思うが、実践から学ぶことで知識の定着や意欲の向上が望めるため、制約がある中での効率の良い関わり方を検討し、学習をさらに深めてほしい。

令和4年度の実践記録（外国語）

－実践記録（第2学年）－

## 1 題材名

Unit 2: Food Travels around the World（東京書籍 New Horizon 2）

－質問やコメントをもとにスピーチを再構築する活動になっていたか－

## 2 具体的な実践事項との関連

## (1) ICTの三つの特質

教師用デジタル教科書を使用し、一斉指導の場面で視覚的補助を効果的に使うことで、生徒たちの理解度が高まるように工夫した。生徒たちは、食の歴史に関する情報や使いたい英単語などをタブレット機器を使用して短時間で見つけ、伝える内容に取り入れることができるようにした。また、やりとり中にICレコーダーを使用することで、教師が授業内で見取ることができなかったペアのやりとりを確認した。

## (2) 対話の三つの方向性

やりとりの中で、聞き手がうなづいたり相づちの言葉を返したりすることで、聞き手が話し手の発言内容を理解していることを示すことができた。また、聞き手が、聞き取った内容に関する質問をすることで、話し手により深く考える機会を与えることができた。

## 3 授業の実際

| 過程     | 学習活動<br>「教師の発問や指名」<br>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）                                                                                                                                                                                       | 教師の手立て<br>○：見取った生徒の姿<br>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問<br>い | 疑問・興味・関心<br>1 Read and Think ①の内容をペアで確認する。<br>「What happened to curry?」<br>■今までの学習内容の定着度確かめるとともに、今後の活動の参考となる表現を確認する。<br><br>2 学習課題を確認する。<br>「Today's key word is "change." どんな課題になりそうかな。」<br>■自分たちで学習課題を設定することで、目標達成への意欲をもたせる。 | Warm-upでの既習の内容を取り上げ、本時とのつながりをもたせる。<br>○カレーの歴史について英語で伝え合おうとしていた。<br>○「In the 18 <sup>th</sup> century, curry spices came to the U.K. from India. In the 19 <sup>th</sup> century, the curry arrived in Japan.」<br><br>学習課題を明確に提示することにより、生徒に活動のイメージを持たせやすくする。<br>○自分たちで話し合い、学習課題を設定することができた。<br>○「食べ物は各国でどのように変化したのだろうか。」 |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問<br>い<br>直<br>し | <p>3 教科書本文を読み、自分の紹介を推敲するための参考にする。<br/>         「How did <i>makizushi</i> change?」<br/>         「Let's take a look at next example.」<br/>         ■教科書の内容を理解することで、紹介の順序立てや表現方法を参考にする機会を与える。</p> <p>4 自分が調べた食べ物について意見を伝え合う。<br/>         「How did food you researched change?」<br/>         ■カリフォルニアロールやナポリタンの例を参考にして、自分が調べた食べ物を紹介するためのメモを作成させ、やりとりの手助けとさせる。</p> <p>「Please ask your partner, “How did your food change?”」<br/>         ■やりとりを通して、発話の練習をしたり他の生徒から表現などのよいところを参考にさせたりする。</p> <p>「Please go back to your seat.<br/>         やりとりしてみて、情報が足りなかったことや質問して返せなかったことを付け足してみて。」<br/>         ■会話の内容をより充実させるために、初めのやりとりで上手いかなかった部分を再度考える時間を与える。</p> <p>5 留学生に質問する際のポイントを考える。<br/>         「Which type is the food you researched, California rolls or <i>Napolitan</i>?」</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         デジタル教科書を用いて、ジョシュの発表を聞き、瞬時の共有化を図る。       </div> <p>○「Raw fish changed to avocado.」<br/>         ○「American people use rice outside to wrap.」<br/>         ○「The name “norimaki” changed to “California rolls.”」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         読み取りの理解度を確認するために、生徒に質問をする。       </div> <p>○ペアで話し合い、前後の英文をヒントとして穴埋めをすることができた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         伝える内容の充実を図るため、悩んでいる生徒に適宜アドバイスをする。       </div> <p>○タブレットを用いたり、あらかじめ調べてきた情報を参考にしたりして、紹介に必要なキーワードを選択している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         やりとりが滞っているペアには、表現方法のヒントを与える。       </div> <p>○教師の支援を受けながら、キーワードを使って発言していた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         より内容が充実した発表になるように、ペア活動を通して、新たに取り入れたいと考えた内容などを整理するように促す。       </div> <p>○初めのやりとりから、上手く伝えられなかったことを調べたり聞いたりしてメモを書き直していた。</p> <p>◎「My favorite food is cookies. In the 17<sup>th</sup> century, It come to Japan from Florida. In China, there are make cookies at home. Also, in Florida, a house of sweets made. What kind of sweets do you like?」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">         留学生に、自分が選んだ食べ物とは違うタイプの食べ物について聞き出すために、自分が選んだ食べ物はどちらのタイプか確認する。       </div> <p>○挙手で、自分の選んだ食べ物のタイプを確認した。</p> |
|------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                       |                 |                              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|-----------------|------------------------------|
| 振り<br>返<br>り                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 表<br>現<br>・<br>伝<br>達 | 6 振り返りシートを記入する。 | 振り返りシートに本時の振り返りを記入し、次時につなげる。 |
| <p>《生徒の振り返りから》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食べ物の変化について、自分の選んだ食べ物と比較しながら聞くことができたのでよかったです。友だちの話も面白かったので、英語以外にも学んだところがありました。</li> <li>・ 英語で言おうと思うと上手く言えないが多かったけれど、単語と単語をつないだり、質問したりして上手く会話がつながりました。</li> <li>・ ものの流れを言うことが難しかったですが、自分が知っている単語を組み合わせて考えられました。もっと簡潔にまとめられるようになりたいです。</li> <li>・ 調べたキーワードをつなげて話すのが難しかったです。他の国の食べ物がそのまま伝わってくるのか、いくつか組み合わせさせて変わるのかという違いがあって面白かったです。</li> </ul> |                       |                 |                              |

#### 4 授業の省察

今年度は3年次研究のテーマ「英語をツールとして、思いを即興で伝え合うー効果的なコメントで対話をつなげていく学びを通してー」の2年次である。授業では、small talk を取り入れてやりとりを行う時間を毎時間確保してきた。その中で、自然な相づちや相手の発言を受けた質問ができるように練習を重ねている。また、秋田大学の留学生との交流を行い、聞き手が変わると伝える内容が変わることを生徒たちに実感させる機会を設けることができた。

今回の授業では、あらかじめ集めた情報の中から教科書に取り上げられている紹介方法を参考にすることで、自分の食べ物を紹介するメモを作成し、やりとりを行った。間違いを恐れる生徒が多いので、場数をこなす十分な時間を与えたいと考えた。また、一度やりとりをしてみて上手くいかなかったことを修正し、英語で話すことに自信をもてるように、再度チャレンジする時間を設けた。英語で話すことを難儀に思う一方で、完璧な英語でなくても伝わることを実感できた生徒がいたことがよかったですと感じる。複数の生徒とやりとりを行ったことも、自分と違う伝え方を発見する機会になったと思う。

また、やりとりをICレコーダーで録音することで、教師が生徒の発話を見取ったり、生徒が自身の英語を振り返ったりすることが可能となる。今は主に、教師が生徒の達成度を確認するために録音を活用している。生徒が30人以上在籍する学級でのやりとりを毎時間見取るのは難しい。そこで、ICレコーダーやカメラの活用など、こまめにデータとして残すことで評価につなげていきたい。

今後は、やりとりにおいて、自分の変容が感じられる機会を作り、英語を話すことにより自信がもてるように指導していきたい。そのため、ICレコーダーを引き続き活用し、生徒がよりよい内容や表現にするために、自分の英語を聞いて繰り返し練習する機会も作りたいと思う。



## 英語科学習指導計画

学級 2年C組 32名  
 授業者 佐藤絵理香  
 共同研究者 若原 保彦

### I 題材名と指導のポイント

Unit 2: Food Travels around the World (東京書籍 New Horizon 2)

—質問やコメントをもとにスピーチを再構築する活動になっていたか—

### II 題材について

本題材は、登場人物のジョシュが日本のカレー料理に興味をもったことをきっかけに、食について調べる中で食文化の広がりや融合に気づき、食べ物起源と発展の仕方を学んでいく内容である。食文化は、私たちが他国に興味をもつきっかけの1つで、食材、調理方法、マナーなど多岐にわたる。また、他国との交流が進むにつれて、各国独自の食文化にさらに変化が見られる。日本人に愛されるカレーは、インドから日本に伝わるまでに各国で形を変え、日本ではカレーという形で普及した。本題材を通して、食文化の広がりやよい面を学びつつ、日本における食の問題にも目を向け、生徒たちが日本の食文化について考え直す機会としたい。

また、文法項目では接続詞を扱っている。接続詞を使用することで、条件や理由などを付け加えて情報を伝えることが可能になる。主節についての情報を補うことで、相手に伝える内容が充実し、聞き手や読み手に十分な情報を与えることができる。今回、生徒たちは初めて従属接続詞を学習する。複文を使う際は、文の構造に留意する必要がある。生徒が言語活動で正しく活用できるように、主節と従属節の関係や日本語との違いに着目し、定着を図りたい。

### 202

### III 生徒観と指導観について

コミュニケーション活動に積極的に取り組んでいる。1年生では即興での対話活動に多く取り組んだため、質問に対する返答を的確にできる生徒が育ってきている。また、知識が豊富で、語彙の定着度が高い生徒が多い。その一方で、コメントの仕方に戸惑い、会話の発展に繋がらない場合もある。身に付けた語彙や文法を実際コミュニケーション活動の中で使える段階に到達するように指導していきたい。

会話の発展には、会話の流れに合った質問や話題を即時に考え、相手に伝えることが必要である。そのため、生徒が「見方、考え方」を働かせる力を育てていかなければいけない。場面設定を工夫することで、伝える相手によって、場面に応じてどのような情報を、どのように伝えることが必要か考えたり、学習課題を解決するために、どのような内容を、どのような表現で、どのように伝えることに気をつけて伝えることが大切か判断したりする力を養っていきたい。繰り返しコミュニケーション活動に取り組み中で、生徒がより分かりやすく伝わる表現や文章構成を再構築していく過程を大切に、常に相手意識をもって伝える内容の選択ができるように継続して指導していきたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

今年度は3年次研究のテーマ「英語をツールとして、思いを即興で伝え合う一効果的なコメントで対話をつなげていく学びを通して」の2年次である。コミュニケーションにおいて「主体的に自分の考えを伝える」ことに加え、「聞き手、読み手」が大事なポイントになってくる。相手や場面が変わると伝える内容が変わる。そのため、場面設定を明確にして、相手に配慮した英語を使うことができるように工夫している。

生徒の指導に当たっては、うなずきやあいづちを実践しつつ、相手の理解を確認しながらやりとりを進めることを心掛けている。生徒たちが、聞き手や読み手への思いを言葉にのせて、明るい雰囲気の中で英語による会話を自然と楽しめるように支援していきたい。

### V 目標

- (1) 接続詞を用いた表現の特徴やさまじりの理解を基に、英文を読み取ったり書いたりすることができる。
- (2) 食に関する話題について、聞き手や読み手に配慮した内容を取り入れて、学んだことや自分の考えを理由や具体例等とともに伝えることができる。
- (3) 食に関する話題について、自分の考えを伝えるために、英文の要点を捉えようとしたり、相手の話を理解しようとしたりしている。

### VI 本活動内容の指導計画 (総時数 11 時間)

| 時数 | ねらい・学習活動等                                                                       | 評価の観点 |   | 評価方法と指導の留意点等                                                                                                |
|----|---------------------------------------------------------------------------------|-------|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                                 | 知     | 態 |                                                                                                             |
| 2  | ・ジョシュの発表を聞き、自分が選んだ食べ物の背景を調べて発表する。<br>・会話を読み取り、ジョシュの発言について自分の予想をペアで伝え合う。         |       |   | ・モデルを示し、生徒が達成すべき姿を明確にする。(観察)<br>・やりとりを見取り、うまく意見交流ができているペアを紹介する。(観察)                                         |
| 1  | ・前時の予想に対する答えとなる英文を読み取り、感想をペアで伝え合う。                                              |       |   | ・十分な意見交換がなされているかを見取り、会話が滞っているペアに適宜声を掛ける。(観察)                                                                |
| 2  | ・自分が選んだ食べ物の歴史を探り、レポートを書く。                                                       | ○     |   | ・論理的な英文を書くことができているかを見取り、接続詞を用いて、理由などを付け加えるようにアドバイスする。(Q&A, レポート)                                            |
| 1  | ・ジョシュの発表の結論に着目し、今までの学習内容から例になるものを考えて留学生に伝える準備をする。                               |       |   | ・発表内容に十分な情報や考えが含まれているかを見取り、アドバイスしたり紹介したりする。(観察、録音、シート)                                                      |
| 1  | ・留学生とのやりとりを通して、自分が伝えた内容と留学生から得た情報をまとめ、レポートを書く。                                  | ○     |   | ・最終レポートを完成させるために、留学生とのやりとりを通して、質問されたことやさらに考えたことを整理してまとめるように声を掛ける。(録画、レポート (宿題))                             |
| 1  | ・日本食の誇らしい点と日本が抱える食の問題について調べ、生徒同士で口頭で紹介し合う。                                      |       |   | ・聞き手が理解しやすいように、調べた内容を簡単な英文で伝えていくかを見取り、称賛したり全体に紹介したりする。(観察、シート)                                              |
| 2  | ・Unit2を通して学んだことをALTに伝えるために情報を整理し、伝える準備をする。<br>・ALTにUnit2で学んだことと考えたことを伝え、やりとりする。 | ○     |   | ・聞き手の興味を引く内容であるかを見取り、自分が伝えたい内容に、聞き手への質問や自分の考え等が入るようにアドバイスする。(観察)<br>・聞き手を意識したやりとりをしているかを見取り、よかった点を称賛する。(観察) |

※評価に関して○が付いていない時間には記録に就く評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届け指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

Ⅶ 本時の計画

1 ねらい  
食べ物の変化の過程に関して、教科書の内容や級友とのやりとりで得た情報を自分の考えに取り入れて、相手に伝えることができる。

2 展開

| 過程    | 学習活動・主な発問等                                                                                               | 想定される生徒の学習状況                                                                                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 疑問    | 1 Read and Think ①の内容をペアで確認する。<br>What happened to curry?                                                | ・「カレーはどのような日本に伝わってきたんだっただかな」                                                                                                                                                                |
| 興味    | 2 学習課題を確認する。<br>食べ物は各国でどのように変化したのだろうか。                                                                   | ・「カレーの話がヒントかもしれない」<br>・「食べ物が変わるってどういうことだろう」                                                                                                                                                 |
| 学びの共有 | 3 教科書本文を読み、自分の紹介を掲載するための参考にする。<br>What happened to <i>NepoLitan</i> ?<br>What happened to <i>sushi</i> ? | ・「ナポリタンは日本人シェフのアレンジからできたんだ」<br>・「海外で受け入れられなかった食材って他にもあるのかな」<br>・「食べ物の変化には、ナポリタンタイプとカリフォルニアロールタイプがあるんだ」                                                                                      |
| 問い直し  | 4 自分が調べた食べ物について意見を伝え合う。<br>Please tell your partner about your food.                                     | ○自分の発表と比較しながら、ペアの発表内容を聞いている。<br>・「どの情報を、どんな表現で伝えようかな」<br>・「自分が調べた食べ物は、ナポリタンとアボカドロール、どちらの例に近いのだろうか」<br>・「ペアからの質問を発表内容に取り入れよう」<br>・「○○さんが使っている表現がよかったな」<br>・「文のつながりを意識してみると分かりやすい発表になるかもしれない」 |
| 試み    | 5 留学生に質問する際のポイントを考える。                                                                                    | ・「補足情報を入れた方がいいかな」<br>・「話す順番を変えた方がいいかな」<br>・「どんな表現を使えばいいんだろう」                                                                                                                                |
| 振り返り  | 6 振り返りシートを記入する。                                                                                          | ・「聞き手が興味をもつように、質問を取り入れることができた」<br>・「理由や具体例を入れて、うまく伝えることができたと思う」                                                                                                                             |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

□ = ICTの活用目的  
~~~~~ = 対話の活用目的

| 指導の目的と手立て   | 見取りたい生徒の姿   |
|---|---|
| ・ Warm-upでの既習の内容を取り上げ、本時とのつながりをもたせる。<br>・ 学習課題を明確に提示することにより生徒に活動のイメージを持たせやすくする。   | ○ カレーの歴史について英語で伝え合おうとしている。<br>・ In the 18 <sup>th</sup> century, curry spices came to the U.K. from India. In the 19 <sup>th</sup> century, the curry arrived in Japan.<br>○ 「食べ物の変化」に着目して、自分の考えを伝えようとする意欲が高まっている。  |
| デジタル教科書を用いて、ジョシュの発表を聞き、瞬時の共有化を図る。<br>・ 読み取りの理解度を確認するために、生徒に質問をする。   | ○ 教科書の内容を聞き取ったり読み返したりしながら、質問に答えるために必要な情報を見付けようとしている。<br>○ 自分が選んだ食べ物の変化を伝えたいという意欲が高まっている。  |
| ・ 伝える内容の充実を図るため、悩んでいる生徒に適宜アドバイスをする。<br>・ やりとりが滞っているペアには、表現方法のヒントを与える。<br>・ より内容が充実した発表になるように、ペア活動を通して、新たに取り入れたいと考えた内容を整理するように促す。                            | ○ 教科書の内容を整理し、具体例として取り上げるなどの工夫をしようとしている。<br>・ People in other countries didn't like seaweed and raw fish. So, people in the U.S. made California rolls. I know the example like this. Do you know <i>takoyaki</i> ? In other countries, people don't eat octopus. So, some restaurants use chicken or shrimp.<br>○ ペアとのやりとりを通して、自分の話す内容を直し、再構築しようとしている。<br>食べ物の変化の過程に関して、情報を再構築し、相手に伝えることができる。 |
| ・ 留学生に合わせた補足情報を付け加えたり、自分が選んだ食べ物とは違うタイプの食べ物について聞き出す質問を考えたりするようにアドバイスをする。<br>・ 振り返りシートに本時の振り返りを記入し、次時につなげる。<br>・ 伝えたかった表現があればシートに書かせ、個別に添削することで個々の表現力向上を支援する。 | ○ 自身の頭張りを認め、留学生が興味をもってくれるように話の内容を充実させたり、積極的にコミュニケーションを取ったりしたいという思いをもっている。   |

一本実践から見えてくること

教科書の題材に関して、自分が調べた内容を紹介したり、やりとりを行う取り組み

共同研究者：若原 保彦  
(秋田大学教育文化学部 英語・理数教育講座)

## 1. 本実践の活動とその意義について

2年生を対象とした今年度の公開授業では、食文化をテーマに取り上げた *New Horizon English Course* の Food travels around the world (Unit 2) を扱った。単元の最終目標を、この Unit で学んだ内容を ALT に伝えることとし、本時では、自分が調べた食べ物についてクラスメートに紹介し、クラスメートからの質問に答える活動を行った。指導手順は以下の通りである：(1) 本時の学習課題の確認、(2) 教科書を補足したプリントを使用している内容理解、(3) それぞれが調べた食べ物の変化に関する紹介及びやりとり。

本実践は、新学習指導要領の「話すこと〔やりとり〕」に関する「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」という目標を意識した取り組みと位置づけられる。また県教育委員会の『令和4年度学校教育の指針』にある「伝える内容やそのために用いる言語材料等を児童生徒が自分で考えて、表現する言語活動に取り組みさせる必要がある」という前年度の課題をふまえた実践でもある。

## 2. 本実践で行った工夫と成果

本実践で行った工夫は4つある。一つは、生徒が題材への関心を高められるよう、自分が興味を持っている食べ物について調べる課題を課したり、留学生と交流する機会を設定したことである。題材への関心を高めた結果、生徒は自身が調べた食べ物について一生懸命クラスメートに伝えようとしていた。

2つ目は情報の整理である。情報の整理を行う際には、(整理が必要となるだけの)十分な情報量を提供しておく必要がある。本実践では、教科書を補足した情報を追加したプリントを用いて内容理解の活動を行ったり、自分が調べた情報を取捨選択してクラスメートからの質問に答える活動を行った。

3つ目は自分の調べた内容にクラスメートに紹介する際、相手を交代しながら複数回実施したことである。複数回実施することで、話し手の fluency を高めることにつながった。また、聞き手にとっては、複数の食べ物の変化について学ぶ機会となった。

4つ目はICレコーダーの活用である。クラスメートとのやりとりの記録を確認することで、授業外の時間でリスニングを行うことができる。またクラスメートとの複数回のやりとりの中で自身のパフォーマンスがどう変化したかを知ること、達成感を持たせたり、改善に向けた課題を把握することができる。

## 3. 本実践で残された課題

全般的には新学習指導要領を意識した提案性の高い授業であったが、細かい部分に関して、本実践では次の課題が残っている：(1) 内容理解のプリントの解答を行う際に、文章中の空欄ではなく選択肢の順番で答え合わせを行ったため、文脈の理解が難しかった、(2) 生徒のタイムマネジメントの意識を高めるため、タイマーをもっと積極的に活用してもよかった、(3) 食べ物に関するやりとりの後で、教師が全体で確認する際、指名された生徒が自分の食べ物だけでなく、相手が調べた食べ物も確認する方が、やりとりの活動により意味を持たせることができた、(4) 本時では、How did the food change? を主なテーマとしたが、より異文化に関してより深い理解を促す上では、Why did the food change? についても取り上げることが重要となる。上記の課題に対する今後の取り組みに期待したい。

## 令和4年度の実践記録（道徳）

## －実践記録（第1学年）－

## 1 教材名

「ウォルト・ディズニー」（抜粋） コミック版世界の伝記 ポプラ社

内容項目 [A-(4)] 希望と勇気・克己と強い意志

－自分の好きなことを大切に努力する生き方に、どんな価値を見いだせるか－

## 2 具体的な実践事項との関連


## (1) 「コラボノート」の活用

「コラボノート」を活用し、個々の考えを共有することで、授業を通じて思考がどのように変容していくのかを見取ったり、各自の振り返りに役立てたりすることができると思った。

## (2) 「ミエルトーク」の実践

「ミエルトーク」を問い直しの場面で行うことで、個から全体へと思考を広げられるものと考えた。「コラボノート」の活用後に「ミエルトーク」を行うことで、その効果が一層深まるものと考えた。

## 3 授業の実際

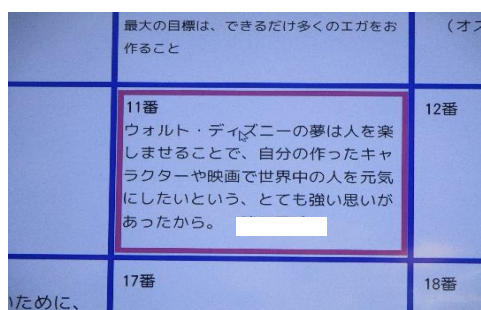
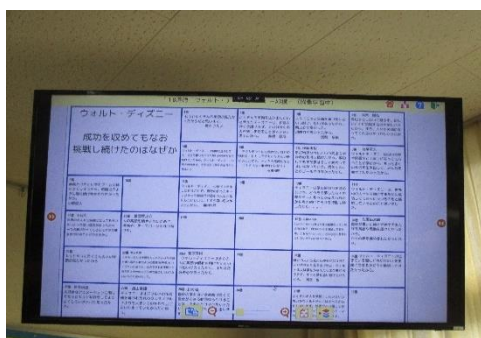
| 過程              | 学習活動   | 教師の手立て  |
|-----------------|--|---|
| 価値の方向付け<br>(問い) | <p>「教師の発問や指名」</p> <p>■発問や指名の意図(教師の試行錯誤)</p> <p>1 アンケート結果を提示する。<br/>「自分が好きなことを職業にしたいと思いませんか?」「したいと思う人、そうは思わない人、それぞれ、発表してください。」</p> <p>■対照的な考え方に触れることで、生き方についての様々な考え方があることを感じることができるようになりたい。</p> <p>2 学習課題を提示する。<br/>「今日は、自分の大好きなことを一生をかけて追い求めた、ウォルト・ディズニーについて学びましょう。」</p> <p>■作品のポイントを確認するために、黒板に場面を整理する。</p>  | <p>教師の手立て</p> <p>○：見取った生徒の姿<br/>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿</p> <p>事前にアンケートを実施することで、本時のねらいとする価値に迫れるようにする。</p> <p>○自分と他の人との考え方の違いに注目し、自身の生き方について考えてみようという気持ちが高まっている。</p> <p>彼の作品が多くの人々に夢や希望を与えたことを知るために、ディズニーアニメと世界恐慌、戦後の日本アニメに及ぼした影響などについて紹介する。</p> <p>○ウォルト・ディズニーの生き方から、何かを学び取ろうという気持ちが高まっている。</p> |

## 3 学習課題について考える。

「十分に成功を取めたディズニーが、それでもなお新しい試みが続けたのはなぜだと思いますか。コラボノートに書きましょう。」

「倒産などの危機を脱して成功したのだから、それでもう十分だと思いませんか？みなさんならどう思いますか？」

- コラボノートを活用することで、瞬時に学級全体の考えを共有できるようにする。
- 各自の考えを学級全体で共有し、この後のミエルトークが深まるようにしたい。



## 4 問い直しをする。

「事業に成功していなければ、得られるものは何もなかったのでしょうか。」

- 多様な考えに触れ、議論することができるように、ミエルトークを行う。



最大の危機に瀕していた時の心情も考えられるように、アニメーターを他社に引き抜かれ、破産寸前までに追い込まれた事実を紹介する。

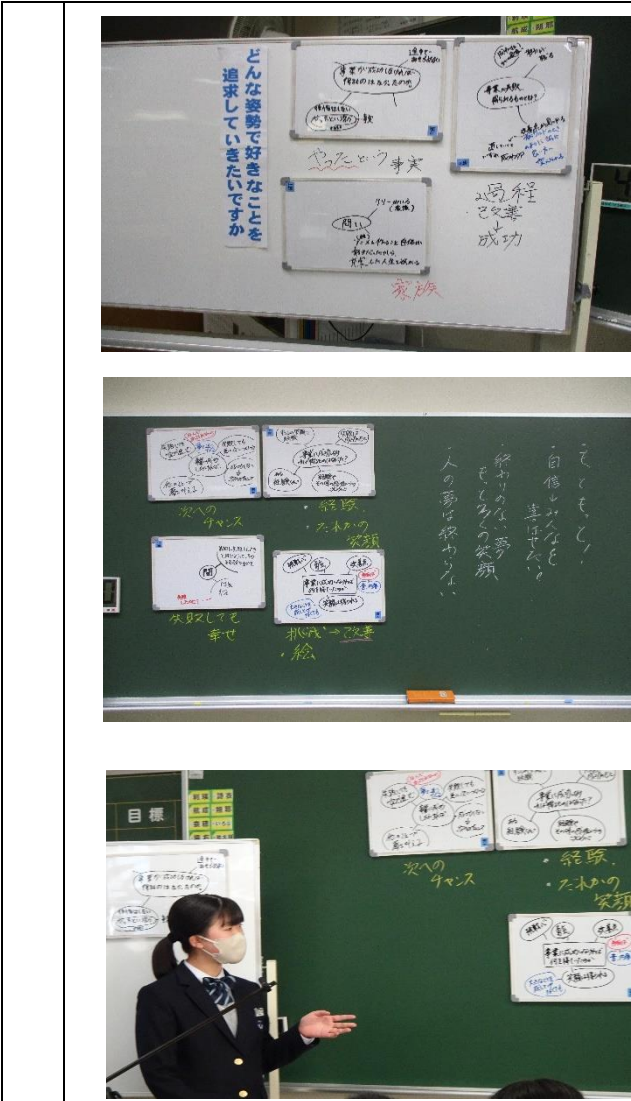
- 夢の実現に向かう根底に、大好きなアニメでみんなを笑顔にしたいという思いがあったことに気付いている。
- ウォルト・ディズニーが現状に満足することなく、好きなことや可能性を追い求めた点に気付き、その生き方に関心を高めている。



- 「ディズニーの夢は人を楽しませることなので、自分の作ったキャラクターや映画で世界中の人を元気にしたいという、とても強い夢があったから」
- 「ディズニーは、オズワルドの所有権を奪われたことで、もっと大きいものを築きあげたいという目標をもったのだと思いました」
- 「アクシデントに負けない自信があり、そのうえで、世界中の人々を笑顔にしたいという強い思いがあったから」

「なぜ、挑戦し続けることができたのか」という補助発問を準備しておくことで、家族の存在や経営者としての自信など、広い視点で考えられるようにする。

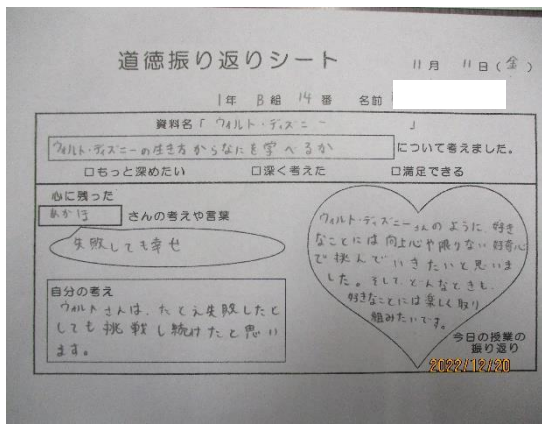
- 「挑戦する過程で、必ず人々の笑顔を得られていたし、改善策を見つけることもできたのではないかと考えました」



- 「失敗は成功のもと。経験や、その時に考えたことから得られる向上心があったはずです」
- 「最初に失敗した時と同じように、失敗を次に活かそうとする姿勢を得られたのではないのでしょうか」
- 「ディズニーの生き方を見ていると、失敗することで、更に新しいことを見つけられたのではないかと思います」
- 「たとえ失敗に終わっても、ディズニーにとっては充実した人生であったはずだと思います」
- 「アニメを創ることが好きだったのだから、最初に失敗した時と同じように、失敗を次に活かそうとする姿勢を得られたのではないのでしょうか」
- 「ディズニーがやった努力は、事実として残ると思います。そして、失敗しても後悔はしなかったと思います」
- ◎好きなことだったからこそ、希望や勇気をもって取り組んだり立ち向かったりできたことに気付いている。

4 本時について、振り返りを行う。  
 「自分はどんな姿勢で好きなことを追求していききたいですか。振り返りシートにまとめましょう」

■自分の考えや友達の発表を振り返り、学びの思考を整理しながらまとめることができるようにする。



- 時間を十分にとることで、コラボノートやミエルトークの内容を見直すことができるようにする。
- 「好きなことに、限りない向上心や好奇心をもって挑んでいきたいと思いました。そしてどんな時も、好きなことには楽しく取り組みたいです」
  - 「何度も失敗しても、諦めずに夢を追求していきたいです。もし成功しなくても、努力したという事実は残るので、後悔はしないと思います（常に前向きな姿勢で）」
  - 「夢を追い求めるためには、家族の支えも大きいので、自分も感謝の気持ちをもちたい」
  - ◎夢や希望をもって努力できる生き方は、人生の充実につながるという点に気付き、今後に活かそうとしている。

《生徒の振り返りから》

- ・好きなことを職業にする人もしない人もいるけれど、好きなことを職業にすることの魅力が少しわかったような気がしました。常に向上心を持ち続けることが大切だと思いました。
- ・たしかにお金を得ることも大事だけれど、自分の本来の目的を見失わずに、誰かを少しでも幸せにできるような働き方をしたいです。
- ・私だったら、もし失敗したらそこで諦めてしまうと思いました。でも、ウォルトさんのように、強い信念をもって行動すれば夢が叶うかもしれないし、自分の人生にとってはとても意味があると思いました。
- ・失敗したらそこを直して前へ進んでいけるように、好きなことを追求していく人になりたいです。
- ・好きなことというのは、自分の考えや取り組み方しだいで成長の度合いが大きく変わってくると思います。だから私は、好きなことをもっと高められるように、しっかりと自分と向き合って追求していきたいと思います。

#### 4 授業の省察

##### 成果

- ウォルト・ディズニーが好きなことを追求した理由について考える学びを通じて、「様々な立場から自己の生き方を見つめてほしい」という思いに基づいて授業を行った。実践前と比べ、自分の好きなことに挑戦することの意味を考えたり、目標の実現に向けてどんなことができるかを前向きに考えたりしようとする気持ちが高まったことが、振り返りの表現に表れていた。
- ウォルト・ディズニーが夢を追い求めることができた理由について、「なぜ追求し続けることができたのか」という補助発問を用意したことが、家族の支えや同僚の存在など、感謝の気持ちに基づく発言を引き出す結果につながった。本時のねらいとする価値項目だけでなく、積み重ねてきた生活経験や学習にまで考えを巡らせていることを確認できた。
- 事前に「自分が好きなことを職業にしたいと思いますか？」という内容のアンケートを実施し、導入で活用したことは、本時のねらいとする価値に迫るという目的を達成できただけでなく、総合学習における「生き方」の学びを深めることにもつながった。
- コラボノートで個々の考えを共有し、そのうえでミエルトークを行ったことで、広い視点に立った話合いを展開することができた。

##### 課題

- 学習活動の中に葛藤場面を生み出すことで、話合いや議論をより活発にすることができた。より多くの生徒の考えを引き出すためには、発問の内容を吟味する必要がある。
- 「コラボノート」と「ミエルトーク」の両方を活用したことは、生徒の考えを学級全体で共有し、考えを広げたり深めたりすることができたという点において有効であった。しかし一方で、それぞれにかかる時間が短くなってしまい、じっくりと落ち着いて活動することが難しい結果となった。今後は「コラボノート」の活用方法や、活用場面について検討していく必要がある。
- 「危機を乗り越えたのだから、もう十分ではないか」という問いをもっと掘り下げることができれば「事業に成功していなければ、得られるものは何もなかったか」という問い直しが焦点化され、よりたくさん意見が出たのではないか。まとめを深めるために、問いの内容や話合いを充実させる必要がある。

## 道徳科学習指導計画

学級 1年B組 32名  
 授業者 伊藤 郁子  
 共同研究者 佐藤 修司

### I 主題名と指導のポイント

「挑戦し続けること」 内容項目 [A-(4)] 希望と勇気・克己と強い意志  
 ー自分の好きなことを大切にして努力する生き方に、どんな価値を見いだせるかー

### II ねらいと教材

- (1) ねらい 自分の好きなことを大切にして生きるために必要な選択や行動について考え、追求しようとする実践意欲を育てる。  
 (2) 教材名 「ウォルト・ディズニ－」(抜粋) コミック版世界の伝記 ポプラ社

### III 主題設定の理由

(1) 主題に対する指導者の基本的な考え方  
 自分自身で目標を設定し、その達成を目指すことは、日々の生活や人生を充実したものにします。しかし、目標を実現させるためには様々な困難を乗り越えなくてはならず、その過程で挫折や失敗を経験することもある。

中学生の時期は、難しい問題に直面して簡単に物事を諦めてしまったり、挫折や失敗を悪いことのように捉え、それを見せないようにしたりすることがある。あるいは必要以上にプレッシャーを感じて健康を害するなど、理想どおりにいかないことに苦しみケースも見られる。そこで、様々な人の生き方を学ぶことで、困難や失敗を乗り越えて挑戦し続けることが、人生の充実にもつながることに気付けるようにしたい。同時にそれが、他者の個性を認め、いろいろなものを見方や考え方に基づいて判断することにもつながっていくことを期待する。充実した生き方について考えることは、深い喜びを伴った人生を送るためにも重要であると考える。

### (2) 主題に関する生徒の実態

本校生徒の実態として、1年生の段階では、将来の夢や目標を生き生きと語る姿が見られる。しかし、学年が上がるにつれて、目標と現状の差を受け入れられず、気力をなくしてしまう生徒も見られるようになる。その要因の一つとして、進学校に合格することや、社会的に地位が高いと思われる職業に就くことこそが人生の成功と捉える考えが、生徒の背景に強くあるものと推察する。

本時の学びが、主観的なもの見方にとらわれず、客観的に考えることや、見方や考え方が一面的になったり、硬直化したりする傾向を和らげるきっかけになってほしいと願う。広い視点に立って掲げた希望や目標であれば、勇気をもって、苦しさから目を背けずに努力したり、あるいは、新たな夢を見つけてがんばろうという気持ちを奮い立たせたりすることにもつながっていくのではないかと考える。

### (3) 教材の特質と取り上げた意図

この教材の出典である『世界図伝「ウォルト・ディズニ－」』は、ミッキーマウスやディズニ－ランドを創った人物の人生を紹介した学習まんがである。世界的に有名なアニメーターであることや、国際的な大企業『ディズニ－リゾート』の創立者であることが際立って有名なウォルト・ディズニ－であるが、実はその人生は、教々の挫折を繰り返しながら新しいプロジェクトを進めていった、波乱に満ちたものであった。信頼していたアニメーターの大半をライバル社から引き抜かれ、自社キャラクター（オズワルド）を失って破産寸前に追い込まれながら、それでも夢

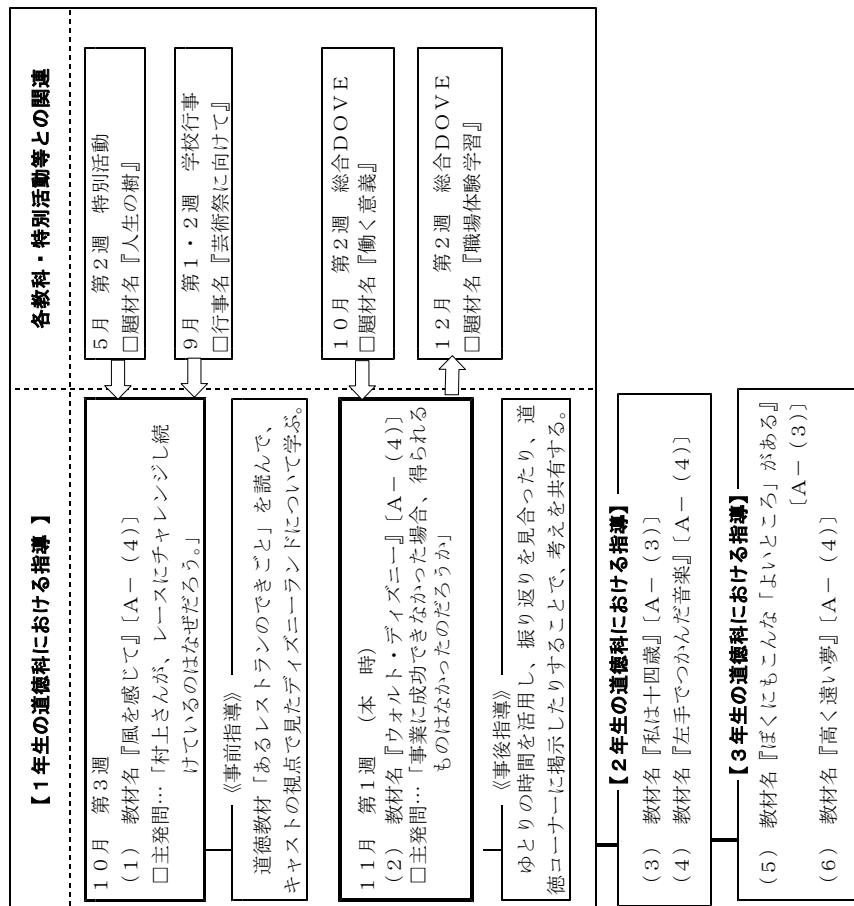
を諦めきれなかった彼は、その後「ミッキーマウス」を世に送り出したのである。

成功を収め、全てを手に入れているかのように見える人物でも、実はその背景に様々な失敗や苦悩を抱えているケースがある。どのような状況の中でも努力し続けるためには、希望と勇気が失わない前向きな態度や、失敗を柔軟に受けとめる姿勢が求められる。ウォルト・ディズニ－が好きなことを追求した理由について考える学びを通じて、自分が追い求める生き方について真剣に悩んだり、目標の実現に向けてどんなことができるかを前向きに考えたりしようとするなど、様々な立場から自己の生き方を見つめることが大切であるという意識の高揚を求めたい。

### IV 研究の具体的な実践事項

問い直しの場面では、絶望や困難を乗り越えながら、自分の夢を追求し続けたディズニ－の生き方について、学級全体で考える。自暴自棄にならずに信念を貫くことや、好きなことを追い求める生き方の価値について、多様な意見を取り入れながら考えさせたい。「コラボノート」と、従来の「ミエルトーク」を活用し、生徒の考えを学級全体で共有し、議論し合う中で、考えを広げたり深めたりできるようにしたい。

### V 全体的な指導の構想





VI 本時の計画

1

ねらい

自分の好きなことを大切に生きていくために必要な選択や行動について考え、追求しようとする実践意欲を育てる。  
A (4) 希望と勇氣・克己と強い意志

2 展開

| 過程      | 学習活動・ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主な発問</span> 等   | 想定される生徒の学習状況   |
|---------|--|--|
| 価値の方向付け | <p>1 「自分の好きなことはありますか？」<br/>「好きなことを職業にしたいと思いませんか？」というアンケートの結果を提示し、本時のねらいを方向づける。</p> <p>2 教材の概要を確認し、ウォルト・ディズニーについて知る。<br/><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ウォルト・ディズニーの生き方から学べることは何だろうか。</span></p> <p>3 絶望や困難を乗り越え、自分の夢を追求し続けたウォルト・ディズニーの生き方について考える。</p> | <p>・「好きなことを仕事にできたらいいな」<br/>・「好きなことがあった方が、人生が豊かになるよね」</p> <p>・「成功するまでに、いろんな困難や危機を乗り越えたんだな」<br/>・「今まで、成功した姿しか知らなかった」</p> <p>・「好きなアニメの世界を広げ、もっとみんなを幸せにしたかったから」<br/>・「自分にはアニメしかないという信念があったから」</p> <p>・「好きなことをとことん追求し、自分の能力や可能性をどこまで広げられるか、挑戦してみたかったから」</p> |
| 価値の追求   | <p>・成功を収めてもおお、新しい試みをし続けたのはなぜだろう。</p>   | <p>・「好きなアニメをとことん追求したという充実感や満足感を得られたと思う」<br/>・「次は何ができるかを考えて、新しいことに挑戦したのではないかな」<br/>・「みんなを笑顔にするための、他の方法を考え出したと思う」</p>  |
| 価値の共有   | <p>(問い直し)<br/>・事業に成功できなかった場合、得られるものはなかったのだろうか。</p>   | <p>・好きなことを貫く生き方には、不安定な状況や危険も伴うことに気付いている。<br/>・夢を叶えるためには、自分で決めたことをやり通そうとする強い意志や覚悟が必要であることに気付いている。</p>   |

※「主体的な行動力」「独創的な思考力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。

                     = ICTの活用目的

                     = 対話の活用目的

                     = 1の「ねらい」を十分に達成している姿

| 指導の目的と手立て   | 見取りたい生徒の姿  |
|---|--|
| <p>・教材を事前に配付し、内容を理解して授業に臨めるようにする。<br/><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アンケート結果を大型モニターで共有し、ねらいとする価値に迫れるようにする。</span></p> <p>・作品のポイントを確認するために、黒板に場面を整理する。<br/>・彼の作品が多くの人々に夢や希望を与えたことを知るために、ディズニーアニメと世界恐慌、戦後の日本アニメに及ぼした影響などについて触れる。</p> <p>・最大の危機に頼っていた時の心情も考えられるように、アニメーターを他社に引き抜かれ、破産寸前までに追い込まれた事実に触れる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">コロポノートを活用することで、瞬時に学級全体の考えを共有できるようにする。</span></p> | <p>見取りたい生徒の姿</p> <p>○ウォルト・ディズニーの生き方から、何かを学び取ろうという気持ちが高まっている。</p> <p>○困難を乗り越えて夢を叶えたことや、最後まであきらめずに夢を追い続けたこと、自分の好きなアニメで、世界中の人々を勇気づけようとしたことなど、成功を取めるまでの過程に目を向けている。</p> <p>○夢の実現に向かう根底に、大好きなアニメでみんなを笑顔にしたいという思いがあったことに気付いている。</p> <p>○ウォルト・ディズニーが現状に満足することなく、好きなことや可能性を追い求めた点に気づき、その生き方に関心を高めている。</p> |
| <p>・多様な考えに触れ、議論することができるようになる。<br/>ア) 集団の省察</p> <p>・「なぜ挑戦し続けることができたのか」という補助発問を準備しておくことで、家族の存在や経営者としての自信など、広い視点で考えられるようにする。</p> <p>・時間を十分に取ることで、自分の考えや友達の見返りを振り返り、学びの思考を整理しながらまとめることができるようにする。</p>  | <p>○友達の見聞を聞いて、考えを広めたり深めたりすることができる。</p> <p>○好きなことだったからこそ、希望や勇氣をもって取り組んだり立ち向かったりできたことに気付いている。</p> <p>・好きなことを追い求めて充実感を得る生き方ってずばらしいな。</p>  |
| <p>・夢や希望をもって努力できる生き方は、人生の充実につながるという点に気づき、今後に生かそうとしている。</p> <p>・前向きな気持ちで挑戦し続ける生き方をしたいです。<br/>・自分が好きなことに誇りや責任をもてる生き方を目標にしたいと思いました。</p>  | <p>夢や希望をもって努力できる生き方は、人生の充実につながるという点に気づき、今後に生かそうとしている。</p> <p>・前向きな気持ちで挑戦し続ける生き方をしたいです。<br/>・自分が好きなことに誇りや責任をもてる生き方を目標にしたいと思いました。</p>  |

一本実践から見えてくること一

**「問い・問い直し・振り返り」を活性化することで道徳的価値に迫る授業実践**

共同研究者： 佐藤 修司

(秋田大学教育学研究科・教職実践専攻)

### 1. 研究の重点と本授業実践のねらい

道徳科部会では、「人間としての生き方についての考え方を深める～みんなで考え、みんなで伝え合う学びを通して～」をテーマに掲げ、道徳的諸価値についての理解を基に、他者との対話を重ねながら様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを考え、広い視野から多面的に判断する力を高めることを目指している。

こうしたテーマのもと、本授業実践は、(1) 生き方を学び、生徒が自分の生き方を見つめ直し、新たな考えをもつこと、(2) コラボノートの活用で生徒が個々の考えを共有し議論を深めること、を二つの視点として実施された。

### 2. 視点1：生き方を学び、生徒が自分の生き方を見つめ直し、新たな考えを持つ

ディズニーに関する学習漫画を教材とした点は、ディズニーが生きた時代背景や日本の漫画・アニメ文化、ディズニーランドとの関連など、生徒の興味関心を惹くものであった。生徒たちは自己肯定感や自己効力感が低く、頑張っているにもかかわらず失敗するとすぐに諦めるなど、克己心の弱さを抱えている。進路やキャリアの面では学校の「序列」や社会一般の職業イメージで選択しようとする傾向が強い。

ディズニーが好きなことを大切に、失敗しても挑戦し続け、また成功に安住せずさらなる挑戦を続けたことから、基本発問として、「ディズニーが自分の夢を追求し続けたのはなぜだろうか」を問い、中心発問（問い直し）を「成功を収めてもなお新しい試みをし続けたのはなぜだろうか」とした。さらに、

振り返り発問として、「自分ならどんなことを追求していきたいか」を問い、自分事としてとらえさせることを目指した。

### 3. 視点2：コラボノートの活用で生徒が個々の考えを共有し議論を深める

基本発問はコラボノートを使って、全員が個々の意見を見ることができるようにして、数人に発表を求めた。また、中心発問はミエルトークによりグループ協議を行い、小型ホワイトボードでグループの代表が発表した。問い返し・振り返り発問では振り返りカードに記入後にやはり数人に発表してもらった。

生徒は丁寧に考え、活発に深め合い、発表していた。附中の研究テーマである、目を輝かせて、進んで活動する生徒、笑顔で関わり、熟慮し伝え合う生徒、満足げな顔で、自ら省みて考える生徒の姿が具現していた。

導入で、事前の生徒へのアンケート調査「好きなことはあるか、それを職業にしたいか」の結果が示され、締めくくりでもディズニーの印象的な言葉を紹介して、余韻を残す工夫がこらされていた。

### 4. 課題と今後の展望

仮想だが、第一に、職業と趣味・余暇が混在してしまい、職業に限定した方が論点を明確にできたかもしれない。第二に基本発問として、「成功しても」より、「失敗しても」挑戦した・成功した理由を、意識面だけでなく、条件面も含めて教材を深く読み込ませることが必要だったかもしれない。第三に、夢を追い続ける理由として、自分の満足よりも、みんなの笑顔を挙げていることについてもっと深めてもよかったかもしれない。第四に、中心発問を「自分なら挑戦し続けられるか、挑戦し続けるためには何が必要か」として、ミエルトークで深めることも面白かっただろう。その上で、振り返りを行うともっと深まったのかもしれない。

## 令和4年度の実践記録（特別活動）

## －実践記録（第3学年）－

## 1 主題名

「進路選択の準備をしよう」

－批判的な思考を働かせた話し合いにより、進路選択において大切にしたいことを明確にできるか－

## 2 具体的な実践事項との関連

(1) 自己肯定感を高め、「目指したい将来の生き方」に迫るための「人生の樹」「人生の森」の継続的活用と、傾聴を基盤とした、「ミエルトーク」の活性化

- ・「人生の樹」の活動を通して自己理解、他者理解を促進し、職業を超えた「目指したい将来の生き方」に迫った。
- ・傾聴の4つのステージをより意識して実践することで、安定した支持的な風土を築き、「ミエルトーク」における意見交換の活性化を促した。

(2) 情報モラルを踏まえたICT活用の取組

- ・一人一台のタブレットパソコンの活用をさらに浸透させるとともに、正しい使い方（時間・内容）を考えて実践する取組を、生徒の自治活動の一環に取り入れた。

## 3 授業の実際

| 過程                              | 学習活動<br>「教師の発問や指名」<br>■発問や指名の意図（教師の試行錯誤）   | 教師の手立て<br>○：見取った生徒の姿<br>◎：本時のねらいを達成している生徒の姿   |
|---------------------------------|--|---|
| 問<br>い<br>の<br>練<br>り<br>上<br>げ | <p>1 前時に行った学習内容を想起する。<br/>「前時に学習した、「人生の樹」を実現するに当たり、全員が成し遂げなければならないことは何ですか。」<br/>■生徒の意識を進学に向かわせたい。</p> <p>2 学習課題を設定する。<br/>「ですが、こちらを見て下さい。どのように進路を決めれば分からない生徒や、親のすすめた高校に行くことに不安を感じている生徒がいます。自分の進路を自分で決められないのに、『人生の樹』の枝は実現できるのでしょうか。今日は、皆さん自身が進学先を選択する上で何を大切にすべきか、考えていきたいと思います。」</p> | <p>○「高校入試が大切である。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・真剣に進学先を決めることの大切さに気付けるよう、進学先を決められない生徒の実際の言葉を提示する。<br/>(瞬時の共有化)</p> </div> <p>○全員が真剣なまなざしでモニターを見つめている。</p> |

■進学先を自分で決めることができないという問題について、自分事として捉えてほしい。

3 学習課題について考え、発表する。  
(個→全体)

「各自、コラボノートに考えを打ち込んで下さい。」

■教室内は他者の目があるので「将来の実現に繋がる高校を選ぶ」といった理想的な回答が多く出されるであろう。

『『夢の実現に繋がる高校』という結果が多いですね。ではここで、先日みんなから採ったアンケート結果を表示します。このように30%の生徒は、『親や大人のすすめ』『みんなそこに行くから』と答えています。これで本当に人生の樹は達成されるのですか？』

■上位3位中1位の「進路の実現」を先に出すことで、それ以外の理由のしめる幅の大きさについて驚かせたい。



○それぞれ、自分の考えを記入している。「将来の実現に繋がる高校を選ぶ」といった内容が多かった。

・公の場で記名で書いた内容と、匿名で書いた本心との差に気付くことができるよう、事前に採ったアンケート結果「みんなが行くから」、「親が勧めるから」と考えている生徒の多さを円グラフで伝える。(瞬時の共有化)

○全員が驚きの表情でモニターを見つめている。

追究と問い直し

4 「3」で得たそごを踏まえ、学習課題について考え直す。

「皆さんすでに希望する進学先が決まっている人もいると思うのですが、ここでこちらを見て下さい。秋田市内の複数の高校で行われている授業科目と、大学進学の実績です。微妙な違いはありますが、複数の高校からでも同じ進学先に行くことができます。」

『『人生の樹』の『枝』を実現するためには、本当にその高校に行く必要があるのですか？』

■複数の高校で共通する教育課程の共通点や進学実績を示すことで、1つの高校にこだわる必要がないのではないかと考えさせたい。

・生徒が進学希望先について深く考えることができるよう、秋田市内の複数の高校の進学実績や教育課程の共通点を示す。  
・自他の考え方の違いを踏まえて考えを広げられるよう、ミエルトークを用いて批判的に考えられるようにする。  
(集団での省察)

○「A高校とB高校では共通した進学先や授業科目があるが、微妙な違いが見られる。これが高校の特色なのではないかと思う。」

○「ない」側の考え  
「枝(将来像)が抽象的だから高校も抽象的」「高校はゴールではなく、本人の頑張りが大切だから。」



「習うことなど、自分のためになる基本的なこととは同じである。」

○「ある」側の考え

「高校卒業後の選択肢を増やす。好きなことと関係ないことを学ぶ必要もある。」

「物作りの仕事がしたいからその高校を選ぶ。」

「レベルの高い環境でライバルを作りたい。」

「ネームバリューも大切。」

5 本時の学習で、考えたこと・学んだことを記入する。

振り  
返り  
「『進学先を選択する上で大切なこと』について、新たに考えたことをコラボノートの「②話し合い後」に書き込んで下さい。」

■「①話し合い前」よりも深まった考えが出てくることを期待する。

「人生の樹は、書くためではなく実現するためにあります。進路選択については私たち1人1人が必ず直面する問題なので、真剣に考えていきましょう。」

前「自分がそこに行って何がしたいのか。また、将来に向けての選択肢を広げられること」

↓

◎後「自分を高めていくために、周りの環境やその高校の特性をよく知ること」

前「偏差値が高いところに行けば何とかかなると思う」

↓

◎後「その高校のことを知り本当に自分の役に立つのか考えることが大切」

《生徒の振り返りから》

- ・高校を選ぶ理由として、周りの人の影響がとても大きいことに驚いた。自分の中であまり意識していなかったけれど、思い直してみると友達や親の意見に引っ張られている自分があると思った。本当に自分がしたいことを将来できるようにするためにも自分の意志を大切にしていきたい。
- ・私は将来やりたいことがはっきりと決まっておらず、レベルの高い高校に行っておけばまあ困らないだろうと考えていた。しかし、実際の大学への進学実績を観て、高校による大きな違いがないことを知り驚いた。「ここでなければいけない」という固定観念にはとらわれないようにしようと思った。「将来の選択肢が増えるから」という観点からも高校を選びたい。
- ・最初は自分のやりたいことや自分の現状の学力について考えて決めることが大切なことだと思っていた。しかし、班でミエルトークで話しているうちに、将来のことも考え、選択肢を増やすために決めることが大切であることが分かった。
- ・私は今まで、とりあえず親が進める学校に、とりあえずみんなが行く学校に、という形でしか進学希望先を観ていなかった。しかし、ミエルトークや学級での話し合いを通して今までの自分の考えに疑問を持つことができた。入った学校によって選択肢も変わらないし、学力が伸びるかどうかも本人の気持ちの持ちようだと思う。学生がすべきことは勉強なのかもしれないが、学生の間でしかできない経験や感情をもつことができる高校生活にしたい。

#### 4 授業の省察

##### (1) 自己肯定感を高め、「目指したい将来の生き方」に迫るための「人生の樹」「人生の森」の継続的活用と、傾聴を基盤とした、「ミエルトーク」の活性化

○「人生の樹」の「枝」（将来の自分）の実現のための、よりよい進路選択について考えを深めることができた。本授業により、多くの生徒が、親や周囲の意見ではなく自分で進学先を決めることの大切さや、高校について良く情報を集めること、選択肢を増やすための高校選択という考え方もあることに気付いていた。また、本授業での気づきをもとに、生徒は「人生の樹」に「日光・雨」という形で「自分がこれから努力すること」を記入し、人生の森を完結させた。

○「ミエルトーク」は、正しい答えのない問いでこそ効果を発揮することを改めて認識できた。本授業では「本当にその高校に行く必要があるのか？」という問い直しでミエルトークを行ったが、その前提として、秋田市内の複数の高校の教育課程や進学実績の提示により共通点を示したことで、生徒達は賛否について議論を深めることができた。

▲本校の生徒達の多くが大学進学を前提とした特定の普通高校に進学する傾向があるため、本授業のような題材を取り扱う際にねらいとする、多様な考え方に触れることは、扱いづらかった。しかし、特定の普通高校に進学する理由を自分で決めることができないでいる生徒にとっては自分の考えをもついいきっかけになったのではないかと考える。

##### (2) 情報モラルを踏まえたICT活用の取組

○円グラフの提示や、生徒の考え方をパワーポイントで示し、生徒の学習への関心を高めるために効果的な活用ができた。

○1人一台のタブレットを常時使用可能な状態とし、コラボノートを活用することで授業参加者全員考えを1つの画面に表すことができるようになり、同一の学習課題に対する考えを、資料提示の前と資料提示の後で比較することが容易になった。

▲本授業では情報モラルについては触れていない。今後、特別活動における情報モラルの取り扱いが必要である。

## 学級活動学習指導計画

学級 3年B組 36名  
 授業者 小熊 大樹  
 共同研究者 鈴木 翔

### I 題材名と指導のポイント

「進路選択の準備をしよう」

一 批判的な思考を働かせた話し合いにより、進路選択において大切にしたいことを明確にできるか  
 内容 (3)一人一人のキャリア形成と自己実現 ウ 主体的な進路の選択と将来設計

### II 題材について

本題材では、生徒が目標をもって、生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、個性や興味・関心と照らして考える活動を行う。これは、生徒一人一人が主体的に自分の将来の生き方や生活について見通しをもって進路選択を行い、自己実現に向けて努力し、意思決定に基づいた実践活動ができるようにすることをねらいとしている。本題材で育成を目指す資質・能力は、第一に目指すべき自己の将来像を描けるようになることである。第二に、生涯にわたる段階的な目標の達成を通して、自らの社会的・職業的自立に向けて努力しようとする態度を育てることである。3年生は進路選択が間近に迫っており、高校受験には関心が高まっている。本題材の学習を通して一人一人が主体的な意思決定をすることで、よりよい自己実現につなげることができると考えられる。

### III 生徒観と指導観について

生徒はこれまで、本校の取組である総合DOVEや、特別活動での「人生の樹」の作成、そして「鳩翔の行事」により、一人一人が自分の理想とする職業観や目指す生き方について考え、発表を行ってきた。職業観や生き方について具体的に自分の考えを述べられる生徒がいる一方で、将来就きたい職業が決まっていない生徒も少なくない。そこで自分の生き方を充実させるための進路選択のあり方について、多面的・多角的な見方・考え方ができるようにする。本題材では、特別活動の「見方・考え方」である、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせ、自己の将来像を描いて、自己実現に向けた実践に結び付けられる資質・能力を育成したい。

### IV 研究の具体的な実践事項

(1)「人生の樹」の活用

「人生の樹」の「枝」は、将来の夢や希望、願望で、未来を表す。「幹」は今までの人生を形作ってきた出来事で、過去を表す。最終学年である中学3年生は現在、この「枝」と「幹」の間に位置していると言える。本題材では、「枝」の部分を成長させるために現在取り組むべきことを「雨や光」と捉え、その内容を考える。その手段として、学習内容が抽象的なものにならないよう、3年生にとって具体的に現実的である高校選択の方法について考えさせたい。

(2)ICTの活用

生徒が、最終的に個別最適な意思決定をするには、自分と異なる考えに触れ、自他の考えを比較検討して吟味する必要がある。そのため資料を瞬時に共有化したり、他者の思考を可視化したりするために、コラボノートなどのICTを活用する。

## V 目標

- (1) 将来の自己実現のために必要なこと、大切にしなければならないことなどを理解し、その実現の方法を見いだすことができる。
- (2) 将来の自己実現のために、進路や社会に関する情報を収集・整理し、色々な考えに触れ、生き方や中学校卒業後の進路の決め方について自分の見方・考え方を広げることができる。
- (3) 社会的・職業的自立といった将来の自己実現に向け、努力しなければならないことや大切にしたいことを考え、主体的に実行しようとしている。

## VI 本活動内容の指導計画（総時数6時間）

| 時数        | ねらい・学習活動等   | 評価の観点 |     | 評価方法と指導の留意点等   |
|-----------|---|-------|-----|--|
|           |   | 知     | 思・態 |  |
| 2         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「人生の樹」を作成する。</li> </ul>  | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のこれまでの来歴を、視覚的に分かりやすく「人生の樹」に表現できているかを見取る。<br/>(観察、学習シート)</li> <li>現在の自分たちが、「人生の樹」の幹と枝の間に位置することを理解できているかを見取る。<br/>(行動観察)</li> </ul> |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>「人生の樹」の枝と幹の間にどんなことが入るのかを考える。</li> </ul>                        | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「人生の樹」の枝と幹の間に入るべきものを考え、発表しているかを見取る。<br/>(行動観察、学習シート)</li> </ul>   |
| 本時<br>4/6 | <ul style="list-style-type: none"> <li>進学先を選択する上で最も大切なことについて、他者の考えを踏まえながら批判的に考え、広げることができる。</li> </ul> | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>進学先を選択する上で大切なことに対する考えを広げられているかを見取り、できていない場合は個別に助言する。<br/>(観察、学習シート)</li> </ul>  |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>立派な枝を伸ばすために自分がやなければならないことは何か</li> </ul>                        | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>人生の樹の「枝」を実現するために取り組まなければならないことについて学習シートにまとめ、お互いにアドバイスできているかどうかを見取る。<br/>(観察、学習シート)</li> </ul>                                       |
| 1         | <ul style="list-style-type: none"> <li>高校説明会でどんな情報を集めれば良いかを考える。</li> </ul>                            | ○     |     | <ul style="list-style-type: none"> <li>本題材の学習を踏まえ、高校説明会で集めたい情報を具体的に学習シートに記入できているかを見取る。<br/>(観察、学習シート)</li> </ul>   |

Ⅶ 本時の計画

- 1 ねらい  
進学先を選択する上で大切なことについて、他者の考えを踏まえながら批判的に考え、広げることが出来る。
- 2 展開

□ = ICTの活用目的

〰 = 対話の活用目的

□ = 1の「ねらい」を十分に達成している姿

| 過程                    | 学習活動・ <b>主な発問</b>  | 想定される生徒の学習状況   |
|-----------------------|--|--|
| 1<br>問<br>い           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 前時に行った学習内容を想起する。<br/>前時に学習した、「人生の樹」を実現するに当たり、全員が成し遂げなければならぬことは何ですか。</li> <li>2 学習課題を設定する。<br/><b>進学先を選択する上で大切なことは何か</b></li> <li>3 学習課題について考え、発表する。<br/>(個→全体)</li> </ol> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「今日はどのようなことについて考えるのだろうか」</li> <li>・「前時は、「人生の樹」の「枝」を達成するためにすべきことを考えた」</li> <li>・「進学先を決める理由ってそんなに大切なのか」</li> <li>・「進学先は多くの人が決めているだろうから話し合う必要はないのではないか」</li> <li>・「自分がこの高校を選ぶのは、将来○○のような職業に就きたいので、そのための大学進学に有利だから」</li> <li>・「とりあえず高レベルな高校に入っておけばその後の選択肢に困らないから」</li> <li>・「好きな部活がそこにあるから」</li> </ul> |
| 2<br>問<br>い<br>直<br>し | <ol style="list-style-type: none"> <li>4 「3」で得た齟齬を踏まえ、学習課題について考え直す。<br/>「人生の樹」の「枝」を実現するためには、本当にその高校に行く必要があるのか？</li> </ol>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どの高校も同じような授業科目だけど、やはり自分はこの高校に行きたい。理由は何だろうか」</li> <li>・「どの高校からも同じ大学に進学している。その高校じゃなくてもいいかもしれない」</li> </ul>  |
| 3<br>振<br>り<br>返<br>り | <ol style="list-style-type: none"> <li>5 本時の学習で、考えたこと・学んだことを記入する。(個→全体)<br/>学習課題に対する自分の考えを、コーポノートに追加して書きましよう</li> </ol>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分はこのような学びをしたが、他の人はどう考えたのだろうか」</li> <li>・「自分はやはり考えは変わらなかった」</li> <li>・「自分はこの考えが変わりそうだな」</li> </ul>  |

| 指導の目的と手立て  | 見取りたい生徒の姿   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学先の選択が3年生である自分たちにとって直面する問題であることを想起できるように、教人の生徒に指名する。</li> </ul> <p>□</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真剣に進学先を決めることの大切さに気付けるよう、進学先を決められない生徒の実際の言葉を提示する。(瞬時の共有化)</li> </ul> <p>〰</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記名で書いた内容と、匿名の本心との差に気付くことができるよう、事前に採ったアンケート結果「みんな行くから」「親が勧めるから」と考えている生徒の多さを伝える。(瞬時の共有化)</li> <li>・自分で進路を決められないことの重大さに気付くことができるよう、このアンケート結果が「人生の樹」の「枝」の実現につながるかどうか問いかける。</li> </ul> | <p>見取りたい生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「人生の樹」の「枝」の部分である、将来の自分を実現するためには、進学先を考えなければならぬことを指摘している。</li> <li>○進学先を決められないでいる同級生の実際の言葉を見ることで、進学先を考えることの大切さを自分事として捉えている。</li> <li>○「みんな行くから」「親が勧めるから」といった自分以外の考えで進路を決めている生徒の割合から、自分で決めることを難しく感じている生徒の多さを理解している。</li> <li>・「これでは『人生の樹』の実現につながるような進路選択をしているとは言えない」</li> </ul> |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が進学希望先について深く考えることができるよう、秋田市内の複数の高校の進学実績や教育課程の共通点を示す。</li> <li>・<u>自他の考え方の違いを踏まえて考えを広げられるよう、ミエルトークを用いて批判的に考えられるようにする(集団での省察)</u></li> </ul> <p>□</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の考えの差がわかるよう、「2」で記入したコーポノートと異なるコーポノートに考えを記入するよう伝える。(試行の繰り返し)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○共通点をもつ複数の高校から特定の高校を選ぶ理由について考え直している。</li> <li>・「進学実績の数は高校によって違うので、この高校に行くべきだと思う」</li> <li>・「やはり、この校風はこの高校しかない」</li> <li>・「この情報を見ると、別に他の高校でも良いのかも」</li> </ul> <p>〰</p> <p>進学先を選択するうえで大切なことについて、他者の考えを踏まえて広げた考えをコーポノートに記入している。</p>   |

※「主体的な行動力」「独創的な表現力」「多角的な省察力」の育成につながる事項はゴシック太字で示しています。



ー本実践から見えてくることー

「批判的な思考」を働かせて、進路選択を  
考えることの難しさ

共同研究者：鈴木 翔

(秋田大学教育文化学部・こども発達・特別支援講座)

## 1. 本実践の意義

本実践は「進路選択の準備をしよう：批判的な思考を働かせた話合いにより、進路選択において大切にしたいことを明確にできるか」と題して行われた。

本実践における授業者の願いや想いは、副題にある「批判的思考」「明確に」という文言に強く表れているように思う。対象は中学3年生であり、当たり前のように考えられている高校進学（多くの生徒にとっては高校受験かもしれない）という進路選択について、いったん立ち止まり、その自己選択を批判的に検討する機会を設けた、意欲的な実践だと感じられた。

特にほとんどの生徒が、特定の高校を第一志望とする対象校においては、「批判的に」「明確に」進路選択の理由を考える機会が少ないことが推察されるため、それを考えるきっかけとして、生徒に影響を与えた可能性もある。

本実践では、「人生の樹」や「ミエルトーク」を用いながら、生徒の本音に迫る話し合いが行われていた。特に授業者が、生徒を対象に行なったアンケートの結果がはじめに提示されたことによって、問題意識はある程度明確化されたのではないかと思う。そのアンケートでは、「進学先を決定する上で大切なことは何か」という質問項目に対し、「将来のため」と回答した割合が低く、「みんながそこに行くから」や、「親や大人がそこに行けというから」という回答の割合が高いことが示されていた。

## 2. 本実践の課題

導入部における授業者の発問や、アンケートの提示によって、生徒たちは本音で進路選択と向き合うこと自体はできていたように見えた。しかし、もともとそこまで将来のことを考えて、高校進学あるいは高校受験を考えている生徒はごくわずかであり、ほとんどの生徒にとっては、かなり困難な問いであったように思われた。

特に印象的だったのは、「海外で活躍したいから、県内で一番の高校に進学して、視野を広げたい」といった発言をした生徒に対し、まわりの生徒全員がすんなり納得してしまった場面だった。

「海外で活躍したい」のであれば、中学卒業後に海外の高校に進学することも選択肢に入ってくるだろうし、特定の高校に進学することが最適であるかどうかは、「海外でどのように活躍したいか」にかかってくるように思われる。

つまり、ここで周りの生徒が行うべきは、「どのように海外で活躍したいのか」という「明確化」を促す発言をしたり、「本当にその高校に行くのがベストな選択なのか」という「批判的な思考」を促すような問いを発したりすることであったのではないだろうか。

どの班の話合いにおいても、本音で話し合っていたように思われるのだが、発言者が「明確化」しなくても納得してしまったり、批判的に問う余地が十分にあるのに、そのままただ肯定してしまったりしている様子が見られたのが、少し残念であった。

ただ、真剣に考えていないというわけでもなかったため、たとえば架空の人物の進路選択の理由を提示して、「明確化」「批判的な思考」を促す発言の例を見せるなどの工夫を講じれば、さらに話合いが活発化した可能性はあったように思われた。